

令和3年度

報告書

# 国際キャリア 教育プログラム

UTSUNOMIYA UNIVERSITY

国際キャリア教育セミナー

国際キャリア教育

International Career Seminar

国際キャリア実習

主催：大学コンソーシアムとちぎ・宇都宮大学



## 開催趣旨

宇都宮大学、大学コンソーシアムとちぎ、そして全国の大学生、社会人の皆さん、国際キャリアについて考えたことがありますか。

大学時代に、就職活動に入る前に、国際キャリアのプログラムに参加してみたい、国際的な問題に対応する職場や海外で国際インターンをしてみたい、あるいは今、政府、企業、大学で叫ばれている、「グローバル人材」の育成のためのプログラムに参加してみたいと思う方がいるかもしれません。そのように考えている皆さんのニーズに応えるのが、グローバルマインドを養う「国際キャリア教育プログラム」です。



このプログラムの科目は、学生が働く意味やキャリア教育について考える「国際キャリア教育」、英語で全て授業を行う「International Career Seminar」、国内や海外の企業、公的機関、NGO・NPOでインターンシップを行う「国際キャリア実習」の3科目、6単位で構成されています。いずれも夏季と春季の休業期間に行い、講義は1科目3日間の集中講義形式で、キャリア実習は80時間で行います。

共通テーマを「グローバル化時代の地域とキャリア」とし、「地域からのグローバル化(Globalization)」、「地域のグローバル化(Glocalization)」という2つの観点からアプローチしていきます。具体的には、「国際キャリア教育」と「ICS」では、「国際ビジネス」、「国際協力・国際貢献」、「多文化共生と日本」、「異文化理解・コミュニケーション」の4つ分野の専門家を講師に迎えて分科会を実施します。また、「国際キャリア実習」では、「国際協力・国際貢献」や「異文化理解・コミュニケーション」の分野に関わる魅力的で個性的な国内や海外の研修先での研修を用意しています。以上の3科目すべての実習を勧めていますが、いずれかを選択して受講することも可能です。

本プログラムは、2004年から毎年実施され、18年目を迎えました。宇都宮市や栃木県内だけでなく、全国から大学生、社会人が多数参加しております。セミナーへに参加者数は、今年度で合計約1940名に達し、グローバル時代における若者の国際キャリアに対する期待と関心の高さがうかがえます。令和2年度より、コロナウイルス感染症流行のため、オンラインでの実施となりました。ICSへは、本学協定校であるペラデニヤ大学(スリランカ)およびサラワク大学(マレーシア)から多数学生の参加があり、国際交流の体験の場としての学修効果を生んでいます。

この度は「国際キャリア教育プログラム」の活動内容をまとめた令和3(2021)年度の報告書を発行する運びとなりました。今後もグローバル化を取り巻く状況は多様に変化していくと思われませんが、関係各位におかれましては、本プログラムに対する一層のご理解ご協力を賜りますようお願いいたしますとともに、グローバル人材育成の一助として本報告書をご活用頂ければ幸いに存じます。

最後に、本プログラムは、大学コンソーシアムとちぎとの共同事業として企画しましたが、その実施に際しましては、栃木県から「とちぎグローバル人材育成プログラム」を通して、ご支援を頂き、心より感謝申し上げます。また、宇都宮大学国際学部同窓会、(公社)栃木県経済同友会、(公財)栃木県国際交流協会、NPO法人宇都宮市国際交流協会、いっくら国際文化交流会、そして、JICA筑波センターからご後援をいただきました。また、(公財)あしぎん国際交流財団からはご協賛を、宇都宮市創造都市研究センターからは特別協力をいただきました。ご関係の皆様からの多大なご理解とご支援に対し、主催者を代表して、厚くお礼申し上げます。

令和4(2022)年3月

国際キャリア教育プログラム委員会 委員長  
宇都宮大学 国際学部 教授  
重田 康博

# 目次

開催趣旨 ..... 1

## 第1部 国際キャリア教育セミナー

1. 目標とルール ..... 3

### 国際キャリア教育

1. 概要 ..... 4  
2. 開催日程 ..... 5  
3. 全体講義 ..... 6  
4. 分科会・講師及び講義概要..... 12  
5. パネルトーク ..... 39

### International Career Seminar

1. 概要 ..... 42  
2. 開催日程 ..... 43  
3. 全体講義 ..... 44  
4. 分科会・講師及び講義概要..... 50  
5. パネルトーク ..... 76

## 附表

1. 参加者名簿 ..... 78  
2. 参加者全体コメント ..... 80

## 第2部 国際キャリア実習

1. 実施要項 ..... 82  
2. 令和3年度夏期受入団体および実習概要一覧..... 85  
3. これまでの受入団体および実習概要一覧..... 85  
4. 実習生からの報告 ..... 87

# 国際キャリア教育セミナー

## 目標とルール

### 目標

- 「働く」とはどのようなことなのかについて考える。
- 自分と地域社会や世界とのつながりについて考える。
- 主体的に関わりたい分野を見つけ、今後の学びに向けた“きっかけ”を得る。

### ルール

- どんな意見も臆せず、積極的に発言しよう。
- 一人ひとりが参加者の自覚をもとう。
- 異なる意見を尊重するとともに自分の意見をもとう。
- 自分独自の意見を述べよう。
- 多様な発想を生み出す雰囲気をつくろう。
- 時間厳守で行動しよう！
- 安全、健康に注意をしよう。



### AIM

- Engage with those who wish to work on the world stage.
- Grasp the image of “working in society with motivation.”
- Provide opportunities to think about your roles in local and global societies.
- Find motivation to actively pursue your career.

### RULES

- Speak out! Share your opinions freely.
- Make sure that we are all participants.
- Have your own ideas as well as respecting different ideas of others.
- Express your own opinion.
- Try to make a congenial atmosphere to encourage interest and creativity.
- Always be punctual.
- Pay attention to safety and to your health.





# 国際キャリア教育

## 1. 概要

### 🌐 目的

－問題解決能力を身につける－

国際的な分野で仕事をするための専門的知識と実務能力の向上に向け、第一線で活躍する講師を招き、演習を通して高度な専門知識や技能、仕事への姿勢を学び、国際キャリアの具体化を目指します。

### 🌐 開催日程

2021年9月18日(土) ～ 9月20日(月祝)

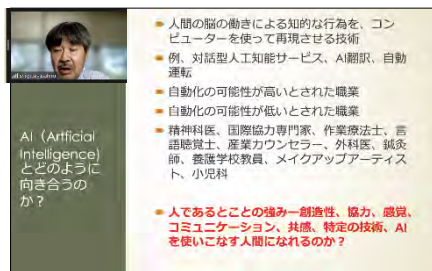
事前指導：2021年7月20日(火) 18:00-19:30

### 🌐 実施形態

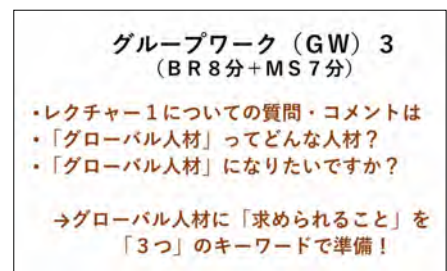
Zoom等によるオンライン授業



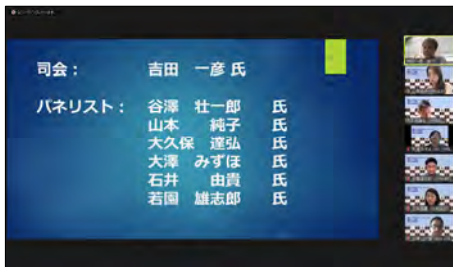
開講式



全体講義



ワークショップ



パネルトーク



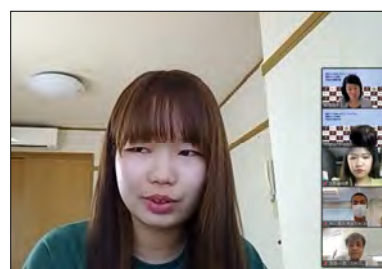
分科会



中間発表



全体発表



振り返り



閉講式

## 2. 開催日程

### 1日目（9月18日 土曜日）

時間	プログラム内容	時間	プログラム内容
9:00 9:30	受付	13:00	パネルトーク
9:30	開講式	15:00	「グローバル時代におけるキャリア形成について」
9:50	オリエンテーション	15:10	趣旨説明
9:50	全体講義	15:30	分科会・プレゼン方法の説明等
12:00	ワークショップ	15:50	分科会
12:00 12:50	昼食	17:50	

### 2日目（9月19日 日曜日）

時間	プログラム内容	時間	プログラム内容
8:30 12:00	分科会	15:30	分科会まとめ
12:00	昼食	16:30	中間発表準備
12:50		16:30	中間発表
13:00 15:30	分科会	17:30	分科会
		18:30	発表準備

### 3日目（9月20日 月曜日）

時間	プログラム内容	時間	プログラム内容
8:30 10:00	分科会 発表準備	12:20	昼食
10:00 12:20	全体発表 (発表10分、質疑応答5分、講評5分)	13:10	
		13:30	ふりかえり・閉講式
		15:00	

### 3. 全体講義



## 混迷の時代の国際キャリアを考える — 真のグローバル人材に必要な条件 —

重田 康博 (しげた やすひろ)

宇都宮大学 国際学部 教授 / 国際キャリア教育運営委員会委員長

#### 略 歴:

北九州市立大学大学院社会システム研究科博士後期課程修了 (博士・学術)  
国際協力推進協会 (APIC) 主任研究員、クリスチャン・エイド客員研究員 (イギリス・ロンドン)、現、国際協力 NGO センター (JANIC) 主幹等を経て現職。専門は国際開発研究、国際 NGO 研究。開発教育協会評議員、JVC とちぎネットワーク代表。CMPS 福島乳幼児妊産婦プロジェクト・アドバイザー、JANIC 政策提言アドバイザー。著書に『NGO の発展の軌跡』(明石書店 2005)、『国際 NGO が世界を変える』(共著、東信堂 2006)、「第 4 章ミレニアム開発目標」田中治彦編著『開発教育—持続可能な世界のために』(学文社 2008)、重田康博『激動するグローバル市民社会—慈善から公正へ発展と展開』明石書店、2017 年

#### 全体講義の概要

今世界は混迷の時代と言われています。その混迷の時代を生きるための真のグローバル人材とは何か、その必要な条件を具体的な事例を示しながら紹介し、国際キャリア形成について考えます。



#### ★最初に、混迷の時代とはどのような時代なのかを説明します。

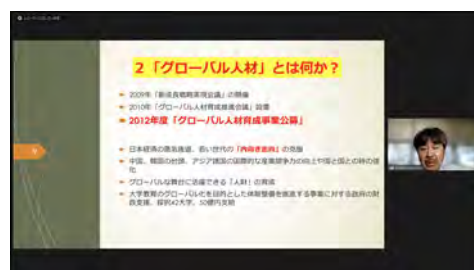
21 世紀は 9.11 米国同時多発テロに始まり、今日まで世界のいたるところで、未曾有の危機が発生しています。米国などの主導による経済のグローバリゼーションの進行により、かつての先進国と途上国の間の格差だけではなく、同じ国の中の富者と貧者、都市生活者と農今世界各地で、国家の分断、孤立、難民・移民の排除、自国第一主義とポピュリズムの波が押し寄せ、第 2 次世界大戦後世界の多くの国が目指してきた、「国際協調主義」と「共生・包摂・寛容な社会」の危機が叫ばれています。

このような「国際協調主義」と「共生・包摂・寛容な社会」の崩壊の危機の中で、NGO・CSO (市民社会組織) も含めたグローバル市民社会による多元主義の再構築と公共圏の形成が求められています。

この危機をどのように乗り越えるのか、どのように「国際協調主義」と「共生できる寛容な社会」を取り戻せるのでしょうか。混迷する時代を生きるためにグローバル人材をどのように育成すればいいのでしょうか。

#### ★次に、「グローバル人材」とは、何かを説明します。

では、「グローバル人材」にはどのような能力が求められるのでしょうか。2011 年 6 月文部省「グローバル人材育成推進会議」中間まとめでは、そのポイントとして、「語学力向上 (英語)」と「内向き志向」の克服で、その取組みは「英語」と「海外体験」となっています。しかし、この「英語」と「海外体験」だけで今





の混迷の時代を生きるグローバル人材を育てられるのでしょうか？

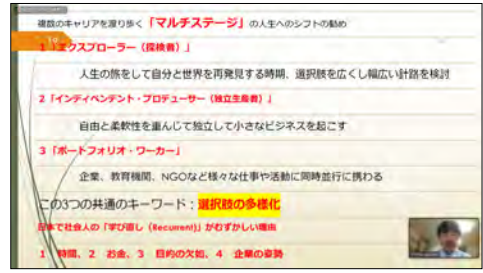
★第3に、宇都宮大学や国際学部のグローバル人材の育成の事例を紹介します。

☆宇都宮大学グローバル構想—「地域からのグローバル化」「地域のグローバル化」に貢献

☆国際学部国際学科において養成する人材像（改組に伴い2017年4月から実施）

⇒21世紀型グローバル人材（グローカル人材）の育成

☆国際学部の卒業生は、その多くがグローバル企業、マスコミ、NGOなどで働き、国内外で活躍しています。



★最後に、地球公益を目指す「グローバル（地球）市民」について説明します。

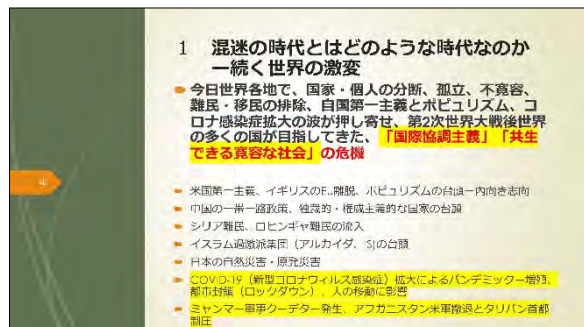
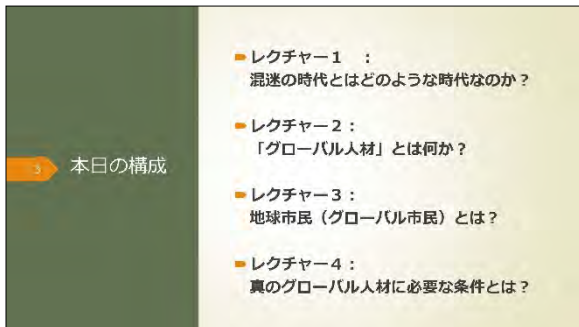
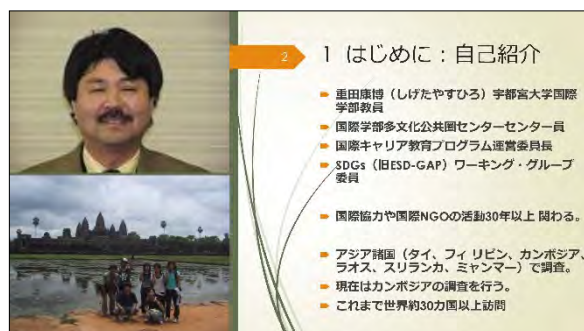
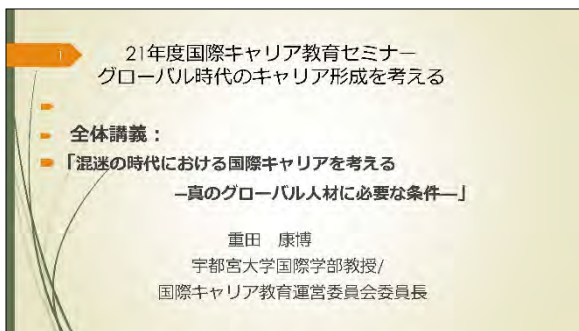
「グローバル（地球）市民」として生きるためには、「グローバル（地球）市民社会」の育成が必要だと思います。つまり、「国際協調」を超えた「地球公益」を求めていく人間や社会を育て、「非寛容社会」から「寛容社会」への価値観の転換が求められています。

☆国連による「持続可能な開発目標（SDGs, Sustainable Development Goals）」は、2015年9月の国連総会で採択され、17の目標と169のターゲットからなり、2016年から2030年までの15年間世界の国々はこの開発目標の達成に向けて取り組み、その達成のために、国際機関、国家、企業、NGO・CSOが問題の解決に向けて取り組むことが求められています。

☆「地球公益（地球市民のための公益, Global Public Interests）」とは、公正な地球社会を求める世界の人々のための非営利活動です。その根底にあるのは公正、寛容、包摂、共生、多様性、多文化です。「地球公益」を求めることは、グローバルマインドを養い、グローバル人材を育成することだと思います。

参考文献

- 駒井洋監修/五十嵐泰正・明石純一編著『「グローバル人材」をめぐる政策と現実』明石書店、2015年
- 加藤/九木元『グローバル人材とは誰か 若者の海外経験の意味を問う』青弓社、2016年
- 重田康博『激動するグローバル市民社会—慈善から公正へ発展と展開』明石書店、2017年
- 友松篤信『グローバルキャリア教育—グローバル人材の育成』ナカニシヤ出版 2012年



5

21世紀の新世界秩序はどうなるのか？  
『無政府化・カオス化する世界』  
ジャック・アタリ (2016) 『新世界秩序-21世紀の“帝国”の攻防と“世界統治”』  
Jacques Attali/Demain, qui gouvernera le monde ?

**システミック・リスク個別の問題が他に波及し、システム全体を脅かすこと**

- 10番目の「中心都市」はどこに？
- 市場による世界新統一市場のローカル化
- 新たな世界金融危機
- 新幹線の人口閉塞—難民・移民問題への対応
- 地域競争の多発
- 地球環境の破壊—種の大量絶滅など
- 小気候変動の可能性
- 原発主義と全体主義
- 新感染症の拡大

プラネタリー・バウンダリー (地球の限界)  
『小さな地球の大きな世界』  
J.ロックスストローム、M.クルム

- 気候変動
- 成層圏オゾン層の破壊
- 生物多様性の損失
- 化学物質の汚染
- 海洋酸性化
- 淡水の消費
- 土地利用の変化
- 窒素およびリンによる汚染
- 大気汚染またはエアロゾル負荷

プラネタリー・バウンダリーは、人類が生きていく安全な活動領域とその限界を定義する概念、地球の限界。

2009年にその枠組みを打ち出し、地球を安全にシミュレートするための12のレッドラインを確立した。人類は9つのレッドラインのうち4つをすでに4つでレッドラインを越えているか越えようとしているという結果であった。

**プラネタリー・バウンダリー (地球の限界)**

J.ロックスストローム、

- 気候変動
- 成層圏オゾン層の破壊
- 生物多様性の損失
- 化学物質の汚染
- 海洋酸性化
- 淡水の消費
- 土地利用の変化
- 窒素およびリンによる汚染
- 大気汚染またはエアロゾル

『コロナ後の世界』 (2020)  
ジャレド・ダイヤモンド/大野和樹編文春新書

- 著書『銃・病原菌・鉄』(早稲田社、『危機と人類』(日本経済新聞社)等
- 人類が病気に対する免疫力を持つのかどうか？
- 中国は2003年のSARS流行の教訓を生かせる
- ウイルスは何者か？彼らは異変もない、彼らの目的は「繁殖すること」

2 「グローバル人材」とは何か？

- 2009年「新成長戦略実現会議」の開催
- 2014年「グローバル人材育成推進会議」設置
- 2012年度「グローバル人材育成事業公募」

日本経済の景気後退、若い世代の「内向き志向」の克服

中国、韓国、台湾、アジア諸国の国際的な産業競争力の向上や韓国と中国との競争の強化

グローバルな舞台に活躍できる「人材」の育成

高等教育のグローバル化を目的とした体制整備を推進する事業に対する政府の財政支援、採択42大学、50億円支援

求められる能力

- 2011年6月「推進会議 中間まとめ」
- 要素Ⅰ：語学力・コミュニケーション能力
- 要素Ⅱ：主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感
- 要素Ⅲ：異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティ
- ポイントは、「語学力向上」(英語)と「内向き志向」の克服、取組みは「英語」と「海外体験」

「優れた取組」を評価する観点 (日本学術振興会)

- 1 教育課程の国際有用性 (大学の改革)
- 2 グローバル人材としての能力の育成 (学生の育成)
- 3 語学力向上のための一体的な取組 (学生の育成)
- 4 教員のグローバル教育力向上 (大学の改革)
- 5 日本人留学生の留学を促進するための環境整備 (学生の育成)

どのような「国際キャリア」を目指すのか？  
澤寛育子 (2013) 『「世界で戦える人材」の条件』

- グローバル人材になる5つの「道 (どう)」
- 道1 グローバルマインドを持つ
  - 世界をすべての人を見る心を持つ
- 道2 <文化の世界地図>で世界を俯瞰—4つの文化コード
  - リーガルコード、モラルコード、レジヤスコード、ミックスコード
- 道3 倫理とリーガルマインドを強化する
- 道4 日本のDNAを磨き、日本型グローバル人材を目指す
  - 自然の摂理、神話の二つの要素
- 道5 21世紀の学習方法に切り替える

グローバル人材には何が必要？  
多様性の尊重 Diversity

- 海外に住む日本人、日本に住む外国人の増加
- 女性、マイノリティの社会参加
- 相手の宗教、言語、文化の尊重
- コロナ禍の中で世界や日本がどのように変わるのか
- 多様な働き方、多様な学び方に変化
- 多様なITの活用による人のつながり方の変化—SNS、検索エンジン、GAFAのパワフル化

AI (Artificial Intelligence) とどのように向き合うのか？

- 人間の脳の働きによる知的な行為を、コンピュータを使って再現させる技術
- 例、対話型人工知能サービス、AI翻訳、自動運転
- 自動化の可能性が高いとされた職業
- 自動化の可能性が低いとされた職業
- 精神科医、国際協力専門家、作業療法士、言語聴覚士、産業カウンセラー、外科医、鍼灸師、看護学校教員、メイクアップアーティスト、小児科
- 人であることとの強み—創造性、協力、感覚、コミュニケーション、共感、特定の技術、AIを使いこなす人間になれるのか？

スティーヴン・ホーキングズ  
『ビッグ・クエスチョン—人類の疑問に答えよう』  
『科学に興味なし』ではつまされぬ

- 「人類の未来のためにできること」
- 1、惑星を求めて宇宙を探査すること、
- 2、人工知能を建設的に利用すること

すべての若者は、科学のさまざまな科目に親しみ、それらに自信を持つべきだ

科学上の次の大発見は、何か？

大切なのはあきらめないことだ。想像力を解放しよう。より良い未来を作っていく。

赫倫なき道 (2017) Utopia for Realist  
ルトガー・ブレクマン (オランダの歴史家) 著  
野中浩方 訳

- 人間はAI (人工知能) との勝負に勝てない
- テクノロジーの恩恵を手放したくないのであれば、残る選択肢はただ一つ。
- 「再分配」
- 金銭、時間、課税、そしてロボットも再分配する。
- 具体的方法：
  - 「ベーシック・インカム (基本的な所得)」
  - 労働時間の短縮 (1日3時間労働)



17

### 3 「地球（グローバル）市民とは 一どのような国際キャリアを歩むのか？

- 『LIFE SHIFT-100年時代の人生戦略』(2016) リンダ・グラットン/アンドリュース・コット/訳 池村千秋
- 従来は3ステージの人生
- 「教育」⇒「仕事」⇒「引退」(定年後60代)
- しかし、人生100年時代をどのように生きるのか？
- 有形資産、無形資産、特に「無形資産」の重要性
- 出口治明『遠慮からの底力-歴史・人・旅に学ぶ生き方』

18

### 複数のキャリアを渡り歩く「マルチステージ」の人生へのシフトの勧め

1 「エクスプローラー（探検者）」

人生の旅をして自分と世界を再発見する時期、選択肢を広くし幅広い針路を検討

2 「インディペンデント・プロデューサー（独立生産者）」

自由と柔軟性を重んじて独立して小さなビジネスを起こす

3 「ポートフォリオ・ワーカー」

企業、教育機関、NGOなど様々な仕事や活動に同時並行に携わる

この3つの共通のキーワード：**選択肢の多様化**

日本で社団法人の「学び直し（Recurrence）」がむずかしい理由

1 時間、2 お金、3 目的の欠如、4 企業の姿勢

19

2019年に亡くなった二人の日本の国際人  
—国際協力、平和、アフガニスタン

**緒方貞子さん** (経歴: 1946-2019) **中村哲さん** (経歴: 1946-2019)

- 「無形資産」には以下の3つがある。
- 1 **生産性資産**—自分の生産性や高度なスキル
- 2 **活力資産**—肉体的・精神的な健康が不可欠
- 3 **変身資産**—変化への対応力・柔軟性
- 生涯学習、健康、良好な人間関係**の3つが重要
- コロナのパンデミックは「**新しい生活規範**」をもたらした（グラットン教授）
- パンデミックは、社会に**抵抗力Resilience、共創（共同創造、Co-Creation）**をもたらした。

20

### 緒方貞子さんの人生キャリア

—難民救済と人間の安全保障

- 1927年生、東京都、犬養毅首相の心孫、父中村豊—は外交官、外交官一家
- 米国での経験、英語の勉強、日中関係の重要性
- 聖心女子大学、ジョージタウン大学、カルフォルニア大学バークレー校、国際経験を養う
- 結婚して家庭へ、国際基督教大学講師から国際連合総合日本代表団へ、女性国連公使第1号、国連の活動に参加
- 国際基督教大学准教授、上智大学教授等歴任
- 第8代国連難民高等弁務官（1990年～2000年）
- JICA理事長（2003年-2013年）
- 2019年ご逝去
- 混迷の時代人間の安全保障の危機、援助も国際交流も双方の利益が大事、歴史を忘れずに対話を

21

### 中村哲さんの人生キャリア

—アフガニスタン30年の闘いと難民支援

- 1946福岡市生、医師、脳神経内科、九州大学医学部
- 日本キリスト教海外医療協会の（JCCS）からバキスタン、ベトナムへ派遣、ベトナム現地代表、ハンセン病を中心とする医療活動
- その後、アフガニスタンで医療活動、独学で土木技術を学ぶ、アフガニスタンでクナール川からガンベリー砂漠まで壕（げき、筑後川山田堀）を作り、25キロの用水路建設・完成、10万人の農民の生計基盤を支援。**医学、農業、土木の融合**
- 2018年アフガニスタン国家勲章受章、2019年名誉市民
- 2019年12月4日アフガニスタン東部ジャララバドで銃撃を受け、ご逝去、
- 中村さんの言葉「一隅を照らす」（最澄の名言）、「良心を東に河となす」、「天、共に在り」

22

### 私の世界の問題への関心

- 大学の時インドシナ内戦とインドシナ難民の発生、カンボジアのポルポト政権による大虐殺とベトナムからのポルトビールの大きな衝撃、世界の問題に関心を持つきっかけ

23

### なぜ世界や社会を変えるのか？

- 世界の問題に関心を持つきっかけ
- 自分が気づかなければ何も変わらない、自分が気づけば世界が変わる
- 世界の問題に関わることができるキャリアの道を歩み、国際協力活動に参加
- 世界にある問題に関心を持ち自分との関わりを考える

24

### サルボダヤ運動の人間開発モデル

- サルボダヤ運動は、基本的な人間開発のニーズ（BHNs）を満たすために、①きれいで美しい環境、②清潔な飲料水、③十分な衣料の供給、④適正でバランスのとれた栄養、⑤質素な住居、⑥基本的ヘルスケア、⑦基本的な交通・通信機能、⑧最小限のエネルギー供給、⑨十分な教育、⑩精神的・文化的ニーズの実現、（アリヤラトネ、ビニヤ、2011）を挙げている。
- つまり、この人間開発モデルは、経済開発だけでなく、文化的、道徳的、精神的開発が重要であり、伝統文化、宗教的価値観を見直し、心の開発というアプローチを実施している。

25

### 1987年スリランカ

サルボダヤ運動創始者アリヤラトネ氏と記念撮影 **仏教経済、人間の覚醒と労働の分かち合い**

26

### 1988年カンボジア・ブノンペンにて

日本国際ボランティアセンター（JVC）視察団 **クメールルージュの悲劇を乗り越えて**

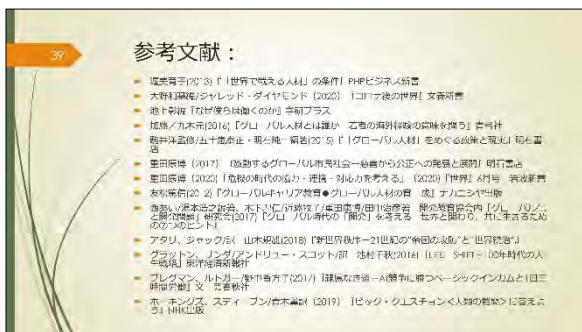
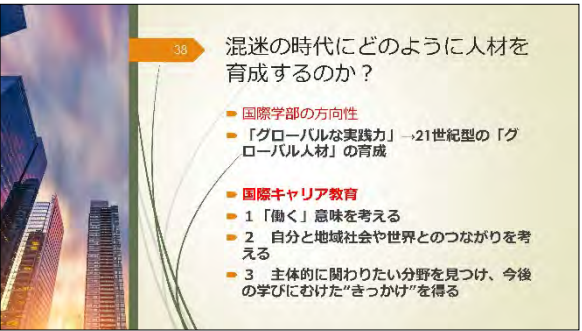
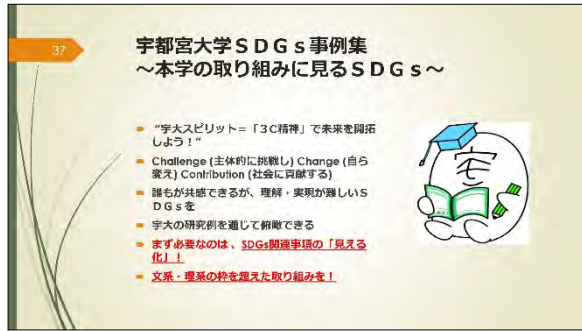
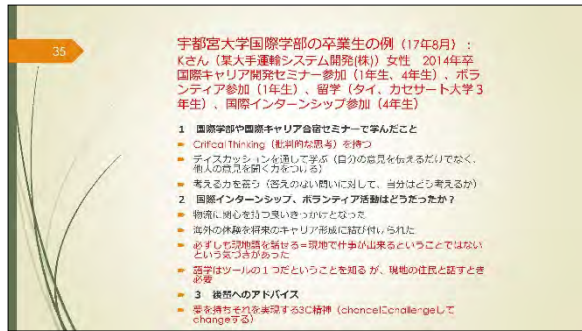
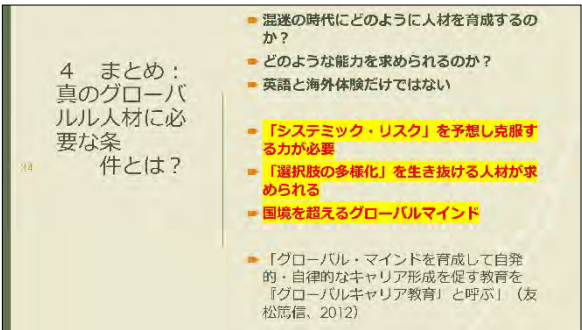
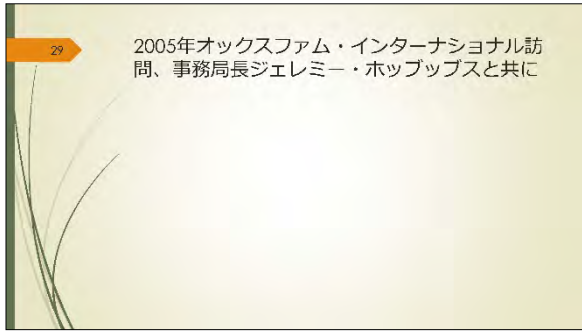
27

### 1994年クリスチャン・エイド（ロンドン）

アジア・太平洋チームと共に **多様性と女性の参加**

28

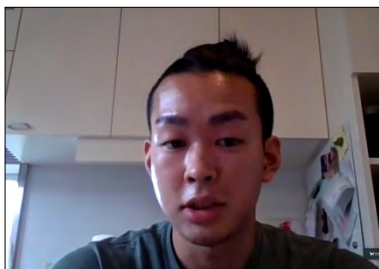




## 参加者のレポートより

(コメントは原文のまま記載しています。)

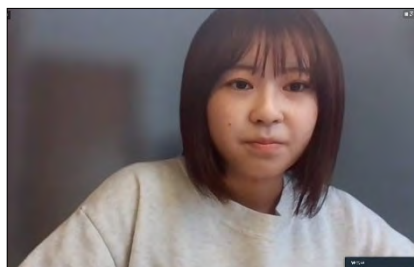
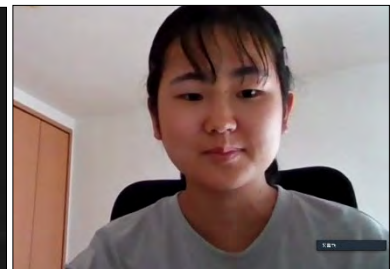
- 全体講義では適宜ブレイクアウトに分かれて話し合いをすることができたため、講義内容への理解が深まりました。
- ブレイクアウトルームで意見を共有する時間を設けており、一つ一つ丁寧に確認することができた。
- グローバル人材や地球市民とは何か自分で考えて学んだ全体講義は、その後分科会でキャリアについて考える上で、よい導入であったと思う。
- この国際キャリア教育をどのような態度で受けていくか、今後の人生に役立てるかのきっかけになった。
- グループワークがあることで自分の意見をアウトプットする場面があることが良いと思った。また、他の人の意見を聞くことができたのもとてもよかったと思う。
- 1日目の全体会では、各分科会の様々な分野に興味を持った人たちとグループワークができて楽しかった。
- 重田先生の貴重なお話が聞けて、キャリアについて参考になった。
- ディスカッションが多く、他の学生の意見を聞き、自分の考えを言語化して他人に伝えるという機会が確保されていたため良かった。
- 重田先生の話聞き、いまどんなことが起こり、この先世の中はどのように変化していくのか、その中で自分はどんなキャリアを形成していくのか考えるきっかけとなった。
- まず、冒頭でグローバル人材やグローバル市民などについて考えを深めることが出来たことでその後のパネルトークの理解や発表準備をよりよくできたと思う。
- 国際協力について海外で働く印象があったが、実際は国内でも多くのアクターがあり自分は固定観念にとらわれていることに気がついた。
- ブレイクアウトセッションではとても話しやすい雰囲気積極的に意見を出し合うことができました。また、全体講義の内容も非常に興味深いもので、勉強になりました。
- ブレイクアウトセッションで、大学生の方々が優しく対応してくださり、主体的に発言しやすい雰囲気だったので、自分の意見も素直に発言でき、先輩方の意見をたくさん聞けたのでとても良かったです。
- 「グローバル市民」と「グローバル人材」は似ている言葉だが違うものであると気づくことができました。大学ではよくグローバル人材という言葉を目にします。社会に出るにあたってグローバル人材であることは重要だと思います。同時に、グローバル市民であることも重要であると考えました。



**グループワーク (GW) 3**  
(BR 8分+MS 7分)

- ・レクチャー1についての質問・コメントは
- ・「グローバル人材」ってどんな人材？
- ・「グローバル人材」になりたいですか？

→グローバル人材に「求められること」を「3つ」のキーワードで準備！



## 4. 分科会・講師及び講義概要

分科会 A	“ニッチ”を突き詰めて ～アジア取材という生業～
講師	谷澤 壮一郎 氏 DNA ASIA Production (在ジャカルタ) ディレクター・プロデューサー
分科会 B	コーチングを使ったコミュニケーションの極意
講師	山本 純子 氏 ヤマゼンコミュニケーションズ株式会社 常務取締役
分科会 C	学際フィールドワークを試してみる
講師	大久保 達弘 氏 宇都宮大学 農学部 森林科学科 教授
分科会 D	何を大切にするかによってキャリアは変わる。
講師	大澤 みずほ 氏 特定非営利活動法人 日本国際ボランティアセンター (JVC) パレスチナ事業担当
分科会 E	元リクルートのキャリアコンサルタントと考える、ジェンダーとキャリア
講師	石井 由貴 氏 Joy Living Lab.代表、キャリア戦略カレッジ共同主宰 キャリアコンサルタント
分科会 F	いくつもの日本 ～アイヌ民族から考える多文化共生～
講師	若園 雄志郎 氏 地域デザイン科学部 コミュニティデザイン学科 准教授 北海道大学 アイヌ・先住民研究センター 客員研究員



## 分科会 A



### “ニッチ”を突き詰めて ～アジア取材という生業～

谷澤 壮一郎 (たにざわ そういちろう)

DNA ASIA Production (在ジャカルタ)

ディレクター・プロデューサー

#### 略 歴：

1983年生まれ。滋賀県大津市出身。インドネシア・ボゴール農科大学に交換留学後、2006年に宇都宮大学・国際学部を卒業。番組制作会社に所属し、民放ニュース番組のADを経て、2007年にNHK「BSきょうの世界」ディレクターに。2012年からは、NHK英語放送のバンコク駐在ディレクターとして、アジア各国の社会情勢や災害などを取材。2018年に独立し、インドネシアの首都・ジャカルタにプロダクションを設立。アジアに特化したニュース企画・番組制作をおこない、主にNHKで放送。主なディレクション作品に、BS特集「サダムの人質 ～湾岸危機・20年目の証言～」、NHKワールドTV「東南アジア・プラゴミ大氾濫」「アジア・インサイト」シリーズなど。

#### 🎤 講義の概要

##### 1. 仕事の概要

TVディレクターとして働いて15年目になります。基本的にニュース番組・ドキュメンタリー番組だけを担当してきました。この10年ほどは、念願だった東南アジアを主たるフィールドとし、NHKとその英語放送(NHK ワールド TV)で取材成果を発表する機会に恵まれてきました。激動のアジアの現場で何が起きているのか、この目で直に目撃できることが、この仕事の醍醐味かと思えます。一方、多少地味でも、日々を何とか生き抜こうとする市井の人たちの姿を丁寧に描くこと、まだ広く知られていない事象につき、自分の切り口で取材し続けることもこの仕事の重要な要素です。毎回、新鮮な驚きや発見に満ちた取材は、“飽きっぽい”自分のような人間には、うってつけの仕事ではないかと思っています。



##### 2. キャリアパス

###### 【学生時代：イラク・アチェでの衝撃】

高校時代から、東南アジアに漠然とした関心を持っていました。応募した短期留学プログラムでインドネシア・スマトラ島の高校に通うことになったのが、いま思えば大きな転機でした。その後、米同時多発テロ(9.11)が発生しアフガン戦争が始まるなど、国際情勢の大きな動きに関心を持ちつつ、宇大の国際学部に入りました。戦争が起きている場所には、どんな人が暮らしているのか。そんな素朴な疑問を持ちながら、大学の休みを使い、イラク戦争(2003年)の前後に現地に3度入りました。ハンディカムで現地の大学生や庶民の暮らしぶりを撮影し、自主制作ドキュメンタリー映画を劇場公開しました。当時は批判も受けましたが、思い切って現場に行くことで見える景色があります。現場を踏まないとは何も見えませんし、誰の声も拾えません。今の仕事の根幹を教えられた気がしています。この頃、バグダッドで出会ったフリーのビデオジャーナリスト(VJ)とは、インドネシアのスマトラ沖地震・津波(2004年)の取材でも一緒に仕事をさせてもらいました。交換留学中でしたが、当時メディアの仕事希望していた自分には、被災

地に取材に行かないという選択肢はありませんでした。この時、携わったNHKのドキュメンタリー番組制作が、自分の進路を決めたと思います。

#### 【駆け出しD時代：幸運に恵まれた下積み】

今は亡き先輩に「やりたいことを、やりたいようにやれ」と言われたことを正直に受け止めすぎ就活は特にしませんでした。というよりも、卒業直前までアチェで撮影を続けており、就活の時間がなかったのです。それでも映像業界に入りたい、自分の撮ってきたものを世間に見てもらいたい、という強い気持ちを持っていましたが、取材・映像制作のイロハを何も知りません。見かねた先輩が、民放ニュース番組のADの仕事を紹介してくれました。初めてTV局で働き、華やかな気分になったのもつかの間。仕事が激務かつ単純ですぐ飽きてしまいました。とにかく早くD(ディレクター)になりたい。そんな焦りを先輩たちにぶつけた結果、幸運なことにNHKの国際ニュース番組でDとして採用してもらうことが出来ました。番組で最年少(23歳)だったので、完全な経験不足で、企画の作り方も一切わからない状態でしたが、NHKの海外支局が日々送り込んでくる膨大な量の映像素材と格闘しつつ、レポートを次々と仕上げていく仕事はとても勉強になりました。この“下積み”期間に、良い上司にも巡り合う事ができ、大変恵まれていたと思います。少しずつ海外取材にも出してもらえるようになり、湾岸戦争の証言ドキュメンタリーも制作することが出来ました。充実していた一方、次は東南アジアに行きたい、インドネシアに戻りたい、そんな気持ちが非常に強くなった時期とも言えます。

#### 【アジア駐在D～現在：無軌道に目標へ突き進む】

英語圏への留学経験はなく、それほど英語もうまくはありませんが、2011年にNHKワールド(英語放送)の部署に異動しました。翌年からバンコクへ、駐在ディレクターとして赴任しました。28歳での海外赴任、しかも東南アジアでの仕事ということで刺激に満ちた日々でした。初めはタイ人スタッフをまとめるので精一杯でしたが、徐々に自分なりのユニークなネタを探し、ディレクター目線で取材を深めることの面白さに気づき始めます。アジア域内には大勢の特派員がいますので、彼らが取材しないネタを探し、“ニッチ”を突き詰めた仕事をしていかないと、自分の居場所はないということを強く実感した6年間でした。アジアの激動は続き、タイのクーデタやミャンマー“民主化”の総選挙、フィリピンやネパールなどでの災害報道、ほかに選挙の取材でインドやパキスタンにもよく出張しました。社会を少しでも良くしようと奮闘する人たちの、忘れられない出会いが多くありました。こうした人たちのことを自分のできる範囲で伝え続けるにはどうすれば良いのか。日本に戻らず、もっとアジアの現場で自分の力を試したいという気持ちが強まり、留学時代の友人とジャカルタに会社を設立。2018年からは独立し、ひとりで取材・制作してはNHKに売り込むという生業を続けています。数々の先輩・上司に恵まれた“運”の良さに身を任せていたら、成り行きでこうなったのが実態です。ただ、業界に入ってから15年で、今が最も楽しく現場での仕事に臨んでいると思います。

### 3. 分科会の内容

私の職業柄、どうしてもアジアの現場取材を元にした話題がメインになると思います。経済成長が続き、世界的に注目を集める地域で、新興スタートアップなどをめぐるのは日本を凌駕する動きが起きています。一方で、環境や貧困をめぐる問題は根深く、民主化や政治体制のあり方が揺らぎ、紛争や暴力、難民といったネガティブな話題が噴出する地域でもあります。

この地域の実情と課題を、多くの視聴者に伝える“TV企画”としてどう発信すべきか。“伝えたい”という思いはもちろん大切ですが、それだけでは突破できない壁もあります。また、“ビジネス”上の観点からは、企画が“ニッチ”であることが重要です。幾つかの事例を通し、企画実現への“実践論”を、皆さんと議論していきたいと思います。

そのうえで、実際にTVのニュース企画として提案すべき話題について、仮定の“企画書”を作り上げる作業を体験してもらいたいと思います。東南アジアの最新ニュースに気を配りつつ、自身が関心のある話題や、取材してみたい“ネタ”のアイデアを、当日までに2つか3つ、持ち寄って頂ければと思います。

分科会1：参加者と講師の自己紹介。講師のTVディレクターとしての経歴と、その時々各地で取材した話題の実例を通し、アジア取材の現場と、企画の立て方について知る。

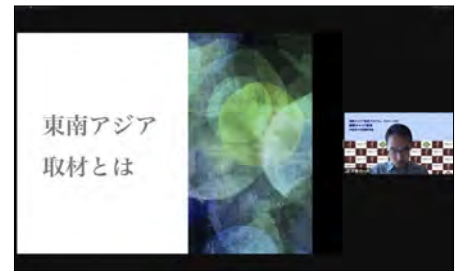
分科会2・3：上記を踏まえ、具体的にどういったテーマの企画を発信すべきか。取材手法や企画書のプレゼン方法など、TV企画実現に向けた議論を行う。

#### 4. キーワードリスト

- 東南アジアの社会問題(貧困、環境、民主化、紛争、難民など)
- 国際報道 (※同名のNHK番組のサイトを見るだけでも構いません)

#### 5. 参考資料等

- 「教養の東南アジア現代史」川中豪・川村晃一 編著/ミネルヴァ書房
- 「21世紀東南アジアの強権政治」外山文子・日下渉・伊賀司・見市建 編著/明石書店
- 「ビジネス・フォー・パンクス」ジェームズ・ワット 著/日経BP社
- アフガニスタン難民 絶望を生きぬく (※2020年10月放送)  
<https://www.nhk.or.jp/kokusaihoudou/archive/2020/10/1004.html>
- タイで届ける「日本旅館」のおもてなし (※2021年2月放送)  
<https://www.nhk.jp/p/kokusaihoudou/ts/8M689W8RVX/blog/bl/pNjPgEOXyv/bp/pnZOR8AAAbK/>



#### 6. 事前予習用リーディング課題

- 「入門 東南アジア近現代史」岩崎育夫 著/講談社現代新書
- 私が取材制作した6月放送のNHKワールド「アジア・インサイト/Saving Lives through Gotong Royong - Indonesia (インドネシア・人々を救う“ゴトン・ロヨン”）」をご視聴ください。(※リンクは7月上旬まで有効です)  
<https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/en/ondemand/video/2022330/>

上述の通り、自身が取材・発信してみたい興味のある話題を、簡単なアイデアの段階で構いませんので、2つか3つ準備しておいてください。

### 参加者による全体発表





### 1. 東南アジアの現状

#### (2)政治

**軍事政権**

①ミャンマー  
アウン・サン・スーチーの民主政権が軍事クーデターにより瓦解

②タイ  
軍事クーデターによりプラユット軍政府が誕生、反政府デモ隊の強制排除

**一党独裁**

③ベトナム・カンボジア・ラオス・シンガポール  
ベトナム、ラオスについては共産党の一党独裁。カンボジア・シンガポールにおいても一党独裁に近い政権が回を掌握している。

**強権政治**

④フィリピン  
国民の支持を集め当選した「フィリピン版トランプ」ドゥテルテ大統領

### 1. 東南アジアの現状

#### (3)経済成長

経済成長の共通要因

- ・工業化
- ・輸出志向への転換
- ・外国企業の誘致 など

資料：各国統計、CEC Databaseから作成。

### 1. 東南アジアの現状

#### (4)環境 - ゴミ問題-

**2017年**

中位の廃プラスチック輸入規制  
(2016年まで全世界輸入量の約45%を占める)

**2018年～**

世界的に主要な輸出先の変化

### 1. 東南アジアの現状

#### (4)環境 - ゴミ問題-

国	2017 (トン)	2018 (トン)
タイ	~10,000	~10,000
マレーシア	~20,000	~20,000
ベトナム	~40,000	~40,000
インド	~10,000	~10,000
インドネシア	~10,000	~10,000
中国	196,087	429,531

### 2. ニッチな視点

～谷澤さんの取材から考える～

**「運を呼び込むために」**

- ・アンテナを張り続ける
- ・夢の発信・やりたいことをする

**「周囲との差異化」**

- ・経歴・NHKの外様

### 2. ニッチな視点

～谷澤さんの取材から考える～

インドネシアの都市部で増加する

**「シルバー人間」**

### 2. ニッチな視点

～谷澤さんの取材から考える～

**「シルバー人間」とは**

- ・全身を銀に染め、お金を稼ぐ人々
- ・辛い仕事のため、本当はやりたくない

背景：コロナの影響で失業者増加

**「援助が不十分である！」**

ニッチな視点で見えてきた本当の問題点

### 2. ニッチな視点

～自分たちで番組を作成するとしたら～

**「東南アジアでカフェ戦争?!」**

「カフェの飲食代が収入の1割を占める  
その実態に迫る」

### 2. ニッチな視点

～自分たちで番組を作成するとしたら～

**<考察>**  
最初外国人観光客向けだったが、所得が多少増えた事による経済的余裕の現れ、自己顕示欲のため。

**<取材方法>**  
現地の入り店に経営する、現地の客にインタビュー。来店理由、コーヒー一杯が高級だと感じるか聞く。

**<マクロな背景>** 経済成長? 格差? 中間層の増加?

### 3. ニッチをチャンスに

私たちのアクションプラン

①「ニッチな視点」をもつ → 大学生の今養う

- ・興味を突き詰める(授業・サークルなど)
- ・独自性の獲得

↓

②「ニッチ」をビジネスにする → 将来見つける

- ・ニッチな分野での起業や取材 = すきま産業
- ・ニッチな言語の習得

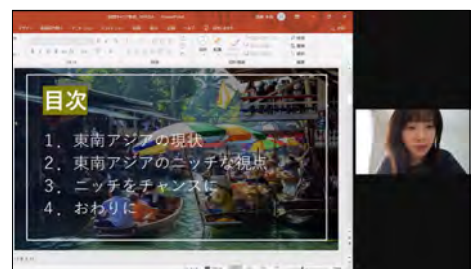


#### 4. おわりに

### 参加者のレポートより

(コメントは原文のまま記載しています。)

- この分科会では、ある地域における現状や問題を見る際には、貧困や衛生といった大きな話題から踏み込むのではなく、物乞いをしている人などの小さな部分から踏み込むことが重要であるということを知った。そうすることで、小さな部分の背景には様々な大きな問題があることが分かる。また、キャリア形成をしていくうえで、業界、企業、自己分析などのどの面でも“ニッチ”な部分を探し出すことが、他と差をつけるという意味では重要であるということがわかった。自分自身のキャリア形成には、この“ニッチ”な視点を持っていきたいと思う。
- 谷澤さんの実体験を基に「行動力」「独自性」「多角的な視点」という、どんなキャリアを進むにしても要求される重大要素の必要性を再認識できた。何より、谷澤さんのように自分の関心のある分野に飛び込んでいくことが重要だと感じた。そういったことを繰り返していくうちに、自ずと独自性や多角的視点といった能力は身についてくるのだと思う。少しでも早く、自分の関心のある分野を見つけ、運を掴み取る行動をしていくことが必要だと思う。セミナーでは、キャリア形成に求められる力に加え、地域や問題ごとの知識も得られ、非常に有意義な時間だった。
- 谷澤さんがおっしゃったような「好きなことを仕事に」というのが、私の生き方に合っていると思いました。谷澤さんは、自分は特別何もしていないとおっしゃっていましたが、素晴らしい行動力と縁をつかむ力を感じました。好きなことをするからには、責任も重圧もすべて自分にのしかかります。大変さもありますが、喜びや達成感も倍になると思います。
- 東南アジアの経済成長の光と裏側、それに伴う社会問題について学ぶことが出来た。ニッチな視点を意識して物事を見ることで、背景が見えてくることを学んだ。また、「運」がいかにキャリア形成にプラスをもたらすかも学んだ。待っているだけでは運を上手く利用することは出来ない。動き続けること、興味を深め続けることでチャンスが訪れ、その機会を最大限の効果が出る選択で自分のキャリアにとってプラスにしていく姿勢を学んだ。
- ①まずは自身のニッチを見つけ、突き詰める ②興味・得意を追求する ③人とのつながりを作り、叶えたいことを公言する、という具体的な3つの行動を実行に移したい。
- 思いつきや衝動で行動するタイプなので、ガチガチにキャリアを設計するのではなく、興味・関心のある分野を突き詰めながら、人脈を広げたり、運を呼びよせて活かしたりしながら、追い込み過ぎず考えていこうと思った。
- 参加する前までは、キャリアを形成するうえで、ある程度自分で道を決めてそこを進んでいくのがいいのかもしれないと考えていたが、キャリアには人それぞれの道があって、その時の運や、人とのつながりなどで、色々な方向にキャリアが広がっていくので、きちんとした道筋を決めておかなくても良いのだという柔軟な考えができるようになり、キャリア形成に対する向き合い方が変化した。
- 谷澤さんの新たな価値観の形成や、谷澤さんの「ニッチ」な視点からの育成方法はとても面白かったですし、参考になる部分が多くて良かったです。常に何かに興味・関心を持ち続けて、新しいことばかりにこだわるのではなく、他者の真似事はなしに独自に行う、これはディレクターとしてだけではなく、様々なことに応用が効くと思います。背後にどのようなことがあったかリサーチして、今自分が何をすべきか投影して考えて行動することは自己分析を行うことで身につきますし、自分にあった職業を選ぶうえで本当に大事であるなと思いました。
- 先生がおっしゃっていたように、キャリアを形成することを目的にするのではなく、やってみようという気持ちを重視し、たくさんチャレンジしていきたいです。また、迷っている時間が一番もったいないので、悩む前に動くことも大切にしていきたいです。





## 分科会 B



### コーチングを使った コミュニケーションの極意

山本 純子 (やまもと じゅんこ)  
ヤマゼンコミュニケーションズ株式会社 常務取締役

#### 略 歴：

フェリス女学院大学卒業後、祖父の経営する印刷・広告会社に入社。2012年に ICC Executive Coach の資格を取得したことをきっかけに企業向け人材育成コーチングを始める。又、2018年からは MBA を取得するために University of Massachusetts Lowell に入学。2人の娘の母としても奮闘中。

#### 🌐 講義の概要

##### 1. 仕事の内容

###### 【コーチングを始めた経緯】

私が就職した当時は印刷物制作中心の会社であり、出来るだけたくさんの人たちに満遍なく情報を伝えるような広告手法が主でした。2000年前後から栃木でもインターネットがかなり普及し、クチコミサイト「栃ナビ！」をオープン。ばらまく情報から取りに行く情報へと世の中が変化していく時期でした。そんな中順調に成長していくポータルサイト「栃ナビ！」の全国展開が始まり、各地の会社とパートナーシップを結び運営を委託するようになりました。その際に、各社の経営者の考えや組織体制など大きな企業文化の違いを感じ、その文化のギャップを埋めるべくコーチングを取り入れたのがきっかけでした。その手法は非常に有効で大きな成果を出し、その後ビジネスにおいても弊社の武器となってきました。



##### 2. キャリアパス

栃木県宇都宮市生まれ。大学卒業後栃木に戻り、父親の経営するヤマゼンコミュニケーションズ(株)に入社。結婚を機に退職し、2人の娘を出産。主婦として数年を過ごしましたが、次女が幼稚園に入園したタイミングに仕事に復帰。数年のブランクがあったため、社長である父親から何か”自分にしか出来ないこと”を身に付けることが復帰の条件だと言われました。”自分は何が得意で、何がしたいのだろう” ”自分にしか出来ないことって何だろう” と自分に問いかけても何の答えも見つからず、40才手前で改めて自分と向き合うことになりました。

まず、以前から興味があった心理学(NLP)の資格を取得しましたが、その先の活用のヴィジョンが見えませんでした。そんな折に恩師であるNLPのジョセフ・オコナー氏との出会いにより”Executive Coaching”を学び、Business、Team、Leadership、Lifeの4つのジャンルのコーチングスキルを会得し、ビジネスとしての展開が出来るようになりました。

現在では多くの顧問先を持ち、人材育成のためのコーチングや、研修、メンタルヘルスなどを受け持っています。

##### 3. 分科会の内容

そもそも人は一人一人違うものであり、その違いを知り、受け入れ、ともに尊重していくことが大切。



まずは自分が何者かを知ることが重要です。

分科会では”自分の価値観や信念”を過去にまでさかのぼって探求していきます。

また学習スタイルによる人のタイプ分け、それぞれの行動パターン、思考パターンなどの抽出などのワークショップを取り入れ、多方面からの分析を行います。

自分を理解したら、次は他者理解、つまりコミュニケーションスキルを学び、その二つのアプローチにより、より良い人間関係の構築が出来るようになります。

人生の選択肢を増やすことが大きな目的です

#### 4. キーワードリスト

- 価値観とは
- 信念とは
- コーチングとは

#### 5. 参考資料等

- NLP でコーチング～最高の人生を生きるためのライフ・コーチング実践ガイド～  
 ジョセフ・オコナー&アンドレア・ラゲス著 ISBN-13: 978-4885090820

#### 6. 事前予習用課題

コーチと先生、メンターとコンサルタントの違いを説明してください。

### 参加者による全体発表

**1. タイトル**  
 コーチングが導くなりたい自分  
分科会「コーチングを促したコミュニケーションの構築」  
 メンバー：大塚真由、土山祥子、小澤理奈、佐藤あけ、佐藤美空、高  
 島ふかり、二瓶真実、内山優奈、山崎碧貴、渡辺天翔

**2. 目次**  
 ・主張  
 ・コーチングとは  
 ・コーチングのプロセス  
 ・分科会での学び  
 ・コーチングの効果  
 ・コーチングの活用例（具体例）  
 ・具体的なアクションプラン例  
 ・まとめ

**3. 主張**  
 人生・キャリアにおいてコミュニケーションは重要。  
 コーチングを用いて自己理解を深めることでより円滑  
 なコミュニケーションが取れるようになる！

**4. コーチングって何？**  
 質問で気づきを与えることでクライアントの**目標達成のサポ**ートをする：相手の経験に寄り添う  
 →行動するのはクライアント自身！  
 コーチングの基本：現状と理想のギャップを知って価値観を埋めていく  
 →そのためには選択肢を増やす

**5. コーチングのプロセス**  
 1. 自分を知る  
 2. 目標設定  
 3. 自己分析  
 4. 足りない・補うべきものは何かを明確にする  
 5. プランを立てる  
 6. 実行  
 7. 振り返り  
 8. リトライ

**6. 分科会での学びー【価値観】**  
 ・3つの価値観（外発的・刷り込まれた・内発的）  
 ・行動し、体験することで内発的価値観が豊かに（失敗や挫折も含む）  
自分年表→過去から自分を知る

年 齢	0	10	20
出 生			
学 校			
職 業			
他			

### 分科会での学び【コミュニケーション】

- ・ 価値観の違いを認識
- ・ 違いを受け入れる  
→ 信頼関係
- ・ 両者（発信する側・受け取る側）の寄り添いが重要

ボーリングリット⇒自己分析

欲しい	欲しくない
Keep = Strength	Eliminate = Weakness
Achieve = Opportunities	Avoid = Threats

### 分科会での学び【コーチング】

- ・ コーチングは本人が変化したいという意思が根源
- ・ アクションプランの明確化  
→ 行動・体験

コーチングのサイクル  
→ 行動に移す

### コーチングの効果

- ◆ 自分の価値観を知り、多様な価値観の存在を知ることができる
- ◆ コミュニケーションを円滑に行うことができる
- ◆ 自分が何をしたらいいのかわかる

### コーチングの活用例 進路選択の時

- ・ 例えば、コーチングをしない場合  
自分に足りない物が何かわからない → 色々なことに飛び込み趣味な道路に。
- ・ 例えば、コーチングをした場合  
自分の信念や価値観に気づける → 適切な選択をすることができる！

人生は選択の連続です。コーチングを利用して、自分の理想のキャリアまで近道しましょう。

### コーチングの活用例2 異なる価値観？

「価値観が違う人とは仲良くなれない？」

①  
そもそも人間みんな価値観が違う

②  
端から否定せず、他人の価値観を知り、受け入れ、認めることが大切

### 具体的なアクションプラン例①

・ 高良ユカリさん

身につけたい力

- ★ 行動力
- ★ 人間関係
- ★ 語学
- ★ 積極性
- ★ 協調性
- ★ 自信

様々な経験ができる → いろいろなことに積極的に行動する

なりたい自分に近づく

### 具体的なアクションプラン例②

・ 佐藤美空さん

身につけたい力

- ★ 積極発信力
- ★ コミュニケーションスキル
- ★ 柔軟性
- ★ 柔軟性
- ★ 自己発露の改善
- ★ 対応力

積極的に様々な人と関わりを持つ

得意なことを得意に活かす

得意なことを得意に活かす

得意なことを得意に活かす

### まとめ

コーチングを実践することで・・・

① キャリア形成につながる  
「自分の価値観を知る」ことで将来の可能性も広がる

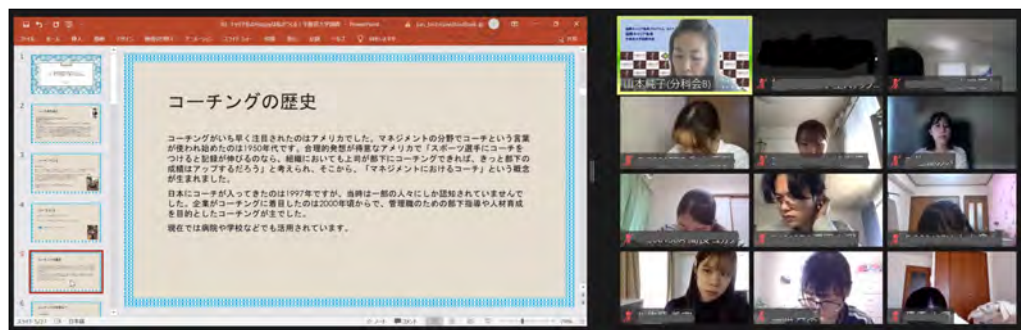
② 円滑なコミュニケーションを取り、信頼関係を構築できる  
人は誰1人として同じ人はいない → 自分を理解し、相手を尊重しないと良いコミュニケーションはとれない

## 参加者のレポートより（コメントは原文のまま記載しています。）

- 3日間のセミナーを通じて様々な学びを得た。特に印象的だったのは、自分を知ること、他者理解にもつながるといことだ。価値観の多様性を知ること、コミュニケーションについての捉え方や、キャリアとの関連について考えることができた。
- キャリア形成に向けたプロセスの多様性を実感し、行動することの大切さを学んだ。また、発信することの大切さだけでなく、受信側（傾聴力）の大切さを学んだ。コミュニケーションというツールを用いて、両者が互いに寄り添って、受け入れる姿勢が重要であると感じた。分科会を通じて、自分を知ただけだけでなく、価値観の多様性にも気づくことができた。自分の性格を変えることは難しいが、考え方を変えていくことはできると思うので、これからのキャリア形成につなげていきたい。
- 目標を達成するためにも、前向きに変化するためにも、人とコミュニケーションをとるためにも、まずは自分のことを知っていなければ上手いかないということがよく分かりました。また、信頼関係を人と築く、コミュニケーション力を向上させるにあたって、単なる発信力や口の上さきだけではいけないということも実感できました。ペーシングやミラーリングといった話を聴く際の態度によっての親密性の違いを理解できましたし、これからとても役に立つ知識を得られました。そして、コーチ

ングがどのようにキャリア形成の場で役立つかも理解できました。社会に出れば必然的にさらに多様な人々と出会います。その際に、円滑なコミュニケーションを取ることや、グローバル人材になるためにコーチングは有用であることが、分科会を通じて分かりました。

- 分科会を通して、コミュニケーションの重要さに改めて気付かされました。中間発表では、「価値観の合わない者同士はどうすればよいのか」という質問がありました。山本先生には「そもそも同じ人間はいない」という言葉をいただき、コミュニケーションを通してお互いに理解し合うことが大切だということに改めて気づくことができました。コミュニケーションにおいては、聞く側も相手を受け入れようとする態度が重要であるということが分かりました。
- 自分自身を深く見つめ直し、何が足りないのか、どのように成長できるのかを、先生のコーチングによって学ぶことができました。次は、自分の興味は何かを探求し、少しでも気になったら積極的に行動をおこしたい。定期的にセルフコーチングを行うことで、自分自身を成長させ続けていきたい。
- コミュニケーションとはどのようなものなのかについて学ぶことができました。コミュニケーションは一方的に自分本位で行動するのではなく、分かりやすく伝えること、上手に受け取ることが必要であり、相互に行うものであるということに改めて知った。社会で生きていくうえで、コミュニケーションは必要不可欠であり、コミュニケーションを円滑にするためにコーチングは有効な手段であると学んだ。また、キャリアを形成するためにコーチングを用いることの重要性も学ぶことができました。
- セミナーに参加する前には、自分がどのような価値観を持っているかなどはよく考えたことがなく、これからの目標も漠然としたものであったが、分科会でコーチングを用いて自分について知ることで、自分には何が足りないのかも明確になり、どのような自分になりたいのか、そのためにはどうしていくべきなのかについても具体的に考えることができました。また、コミュニケーションは生きていく中で重要なものであるため、円滑なコミュニケーションのための方法を知ることができたのが、とても良かった。
- コーチングを体験して自分が今必要なのは計画性を持つことだとわかった。目標を達成するためには、まずは計画力を身に付け、具体的な行動目標を立てていこうと思った。
- コーチングをとおして、自分と向き合う時間をとることで、足りないもの、補うべきものは何かを明確にすることができた。コーチングは目的ではなくツールなので、これから先どのように行動するかが重要となり、私の場合は、傾聴力を身に付けることを目標として人と接していきたいと思った。





## 分科会 C



### 学際フィールドワークを試してみる

大久保 達弘（おおくぼ たつひろ）

宇都宮大学

農学部 森林科学科 教授

#### 略 歴：

1959年東京都生まれ、東京、名古屋、神奈川で育ちました。小中学校ではボーイスカウトで野外活動の楽しさを体験し、高校時代は登山、天文学、植物科学に興味を持ち、宇都宮大学農学部で林学を専攻し、大学院でブナ林の生態学を学びました。宇都宮大学に助手として就職した後、ヨーロッパ、アメリカ、東南アジア（マレーシア・サラワク州、北タイ、中国西南部）での短期・長期のフィールドベースの研究を継続しています。また最近、大学間協定校マレーシア・サラワク大学（UNIMAS）の全学の海外英語研修で引率教員も務めています。

#### 講義の概要

##### 1. 仕事の内容・研究テーマ

農学部森林科学科と大学院修士課程森林生産保全学プログラムで、森林生態学、育林学、森林立地環境学（主に森林土壌）、森林保護学（森林火災、生物害、原子力災害など）およびそれらの実験実習科目を教えています。フィールド中心の森林生態学研究者で、現在の研究テーマは「東南アジアの熱帯林（サラワク・マレーシア、タイ北部、中国南部）および東アジアの温帯落葉樹林（日本、韓国）における生態系再生回復力（レジリエンス）のパターンとプロセスに及ぼす自然・人為的攪乱の影響」に取り組んでいます。大学農学部里山科学センターの創設メンバーであり、センター長を務めました。2010年に名古屋で開催された国連生物多様性条約COP10では、日本里山・里海アセスメント（JSSA）の関東中部クラスター共同代表を務め、報告書「関東中部クラスター：里山・里海生態系と人間生活における里山・里海・都市の未来：日本の社会生態学的生産風景」をまとめました。2011年の福島原発事故後、栃木県里山の落葉広葉樹林における落葉由来の堆肥生産の再開課題を中心に、森林生態系における放射性セシウム動態の研究を開始し現在に至っています。また、放置されて大径化している里山落葉広葉樹林の生物多様性を含めた維持管理についても関心があります。



##### 2. キャリアパス

農学部で林学を学び、大学院修士課程林学専攻で森林生態学を学びました。卒業後は、大学での研究・教職に就きました。国際的な活動としては、韓国、ヨーロッパ、アメリカでブナ林の生態系に関する短期フィールド調査を開始。その後、マレーシアのサラワク、タイのチェンマイ、中国南西部で、劣化した森林地域の回復と回復力の研究に関する長期滞在型のフィールドベースの研究プロジェクトに参加しました。このプロジェクトを通して、チームビルディング、プロジェクト運営の重要性を知りました。2005年のサバティカル期間中には、米国CT州にある専門職大学院（Yale 大学林学・環境学専門職大学院）に客員教員として滞在する機会があり、世界各国からの大学院生と一緒に、持続可能な森林と自然資源管理に関する複雑な問題を解決するための学際的なアプローチを体験したほか、アクティブラーニングを通じた非母語話者の専門的なコミュニケーション能力の強化の重要性を実感しました。

### 3. 分科会の内容

本セッションの目的は、様々なバックグラウンドや分野の参加者が共通の関心を持つ“持続可能な土地利用や自然資源管理”に関する複雑な問題を解決するための学際的アプローチを中心に、研究プロジェクトの計画立案（課題設定、仮説提示など）、必要なスキルの習得、フィールドベースの研究への応用について議論することです。特に東南アジア・東アジアの農村・山岳地域でのフィールド研究について、参加者との相互の関心事について議論したいと考えています。

### 4. キーワードリスト

- フィールドサイエンス
- 文理融合学際研究
- 自然資源管理
- 農山村地域研究
- 環境保全
- アグロフォオレストリー（混農林業）



### 5. 参考資料

- 野口悠紀雄（2004）『「超」英語法』, 講談社
- 西村肇（1995）『サバイバル英語のすすめ』, ちくま新書, 筑摩書房

### 6. 予習用リーディング課題

以下のマレーシア・サラワク州と中国西南部での研究プロジェクトについて各リンク先から文献をダウンロードして、読んでおいてください。

- ・ 可知直毅・高井康雄（1998）特集：熱帯林の保全と修復にむけて、地球環境 Vol.03 No.1-2 のうちから以下3つの文献

荻野和彦「熱帯林の保全と修復に向けて」、

櫻井克年「マレーシア・サラワク州・バカムにおける生態系修復を目指した試験造林」

山倉拓夫「熱帯林大規模長期観察計画－熱帯林研究100年の計－」

[http://www.airies.or.jp/journal\\_03-1-2jpn.html](http://www.airies.or.jp/journal_03-1-2jpn.html)

- ・ 出村克彦（2002）中国西南部における生態系の再構築と持続的生物生産性の総合的開発、平成14年度日本学術振興会未来開拓学術研究推進事業研究成果報告書概要

[https://www.jsps.go.jp/j-rftf/saishu/h14/f03\\_j.html](https://www.jsps.go.jp/j-rftf/saishu/h14/f03_j.html)

- ・ 黒河、功（2002）中国広西壮族自治区の少数民族集落における農家実態：大化県七百弄郷における農家実態調査データ分析、農業経営研究, 28, 127-139

[https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/36574/1/28\\_127-140.pdf](https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/36574/1/28_127-140.pdf)

さらにワークショップに参加する前に、4.のキーワードを確認した上で、参加者各自が興味を持った地域・国内外の天然資源管理の課題や、地域・地球規模の林業、農業、漁業関連などと関連した環境保全に関する課題を解決するためのプロジェクトを事例研究として選択し、以下の質問に対する回答・課題を準備してから参加してください。

- ・ 選択したプロジェクトにはどのような背景があるのか？
- ・ どのようなプロジェクト内容であったのか？
- ・ プロジェクトから得た教訓は何か？
- ・ プロジェクトの強みは何か？
- ・ プロジェクトの弱点は何か？
- ・ もし他の方法で行うとするとどのようにしたらよいか？
- ・ これから日本でも採用できることがあれば、それは何だったか？

参加者による全体発表

学際フィールドワークを通じた持続可能な資源管理の理解  
～資源とライフスタイル～

分科会C

メンバー：甘利友希、猪爪理名、大矢美咲、小高明愛、熊倉尚美、黒木飛勇、小林直登、佐藤育海、高瀬弥依、梶有希

学際フィールドワークとは何か？

学際 + フィールドワーク

「一つの物事をあらゆる分野・視点から捉え、実際に現地に出向き、より効果的な打開策を考え実行すること」

資源と生活

一つの物事をあらゆる分野・視点から捉えて考える

実際に現地に出向き、より効果的な打開策を考え実行すること

資源 と 生活

生態系サービスとはなにか

生態系サービス

ある地域に生息するすべての生物群集とそれを支える自然環境から受けられる

<私たちの生活>

自然の恩恵 (生き物、光、水、石油等) → 利用・活用 → 人工的な恩恵 (プラスチック、ビニール袋)

← 損害

自然生態系が乱れ資源が枯渇

↓

私たちの生活を脅かす問題

事例1：森林と生活 ～マングローブとは～

・熱帯・亜熱帯の河口など、潮の満ち引きを受ける場所に生育する植物の名称。

・年間約1%の割合で減少している。

・貴重な生態系を作り出している。



出典：マングローブから地球の未来を考える より

事例1：森林と生活

<現状>

木炭

エビの養殖地

↓

私たちの生活と関わっている

事例1：森林と生活 <アクションプラン>

**大学生主催出前授業**

対象：地元の小中学生

①希望者募集  
②チーム編成  
③テーマ決め  
④出前授業

事例2：プラスチックと生活 <概要>

**プラスチックが環境にもたらす影響**

海洋汚染

漂流物による景観悪化

マイクロプラスチックによる人的被害

事例2：プラスチックと生活 <背景>

レジ袋やペットボトルなどの大量消費

使い終わったプラスチック製品の不法投棄

政府によるゴミ問題への政策不足

↓

環境破壊につながる

事例2：プラスチックと生活 <アクションプラン>

**実際の事例**

- ・デポジット制度
- ・生分解性レジ袋の普及促進プロジェクト
- ・ゴミ拾いプロジェクト

↓

消費者・企業・政府の行動が要 → デポジット制導入



## まとめ

- 新しい視点の獲得
- 継続可能な資源利用の大切さ
- 両立

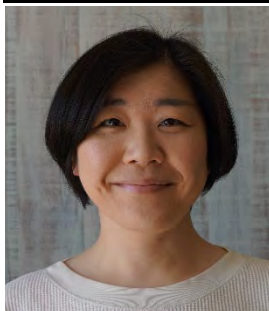
## 参加者のレポートより

(コメントは原文のまま記載しています。)

- 学際フィールドワークで学んだことを通して、身近な環境問題について様々な視野を得ることができた。さまざまなツールや、オンライン上での話し合いに役立つ様々なテクニックを教えて頂き、オンライン上でのプレゼン能力を身に付けることができた。
- 主に自然資源の管理について学び、ごみ問題やプラスチックの問題についてとても考えさせられたので、ボランティア活動やフェアトレードを実際にやってみようと思った。また、これからのキャリア形成のために分野を問わず、様々な人の話を聞いてみたいと思った。自分の大切にしている価値観を自己分析し、やりたいことは何かを大学生活で見つけていきたい。
- 自分で課題を調査し、他の人と共有し議論していく中で、知識が増えたら、意外と身近なテーマなのだということに気付くことができた。
- 分科会では、主に環境問題を扱い、学際フィールドワークを使いながら意識したのは地域の生活とのバランスだ。支援を行う際に規制などをしなくてはいけないため、環境を壊しているがその環境に依存している場合が多く、規制をかけると生活の基盤を失うことがあるので、支援を行う際には、地域の人々の理解をすることが必要だと思った。また、世界各地で起きている問題は一つの学問分野で解決できる段階を超えており、様々な分野で協力する必要があるので、協力体制を整えることが必要だと思った。
- 高校生の時に探求学習を行い、SDGsのプラスチックごみ問題について学んでいたため、マイクロプラスチックについて訊かれた時、すぐに答えることができた。それも一種の自分のキャリアであると感じたため、今後もあらゆる時にキャリアを活用し、新たなキャリアを積んでいきたい。
- 分科会テーマの「学際フィールドワーク」について、発表のテーマを「資源と生活」にしアクションプランを構築していく中で理解が深まった。また、分科会毎全く異なるテーマを掲げていたが、結果的に多くの共通項が見つかり、その意義を実感することができた。



## 分科会 D



何を大切にするかによってキャリアは変わる。

大澤 みずほ（おおさわ みずほ）

特定非営利活動法人 日本国際ボランティアセンター(JVC)  
パレスチナ担当

### 略 歴：

看護師として日本の病院で救急医療に従事した後、青年海外協力隊（看護師・パラグアイ）に参加。帰国後に日本の緊急支援 NGO でのインターンを経て、2018 年に JVC に入職し、現在パレスチナ事業を担当

### 🌐 講義の概要

#### 1. 仕事の内容

- 事業の管理：事業内容や予算の計画と管理、現地と東京事務所との調整、その他事業を実施するうえで必要な細かい作業を行う。
- 広報・ファンドレイジング：ドナーへの申請や報告、様々な媒体を用いての発信活動や、学校での講義、外部講演、メディア出演、寄付キャンペーンの実施、など。
- その他、アドボカシーネットワーク会議への出席



#### 2. キャリアパス

私は子どもの頃にテレビで同じくらいの年の子どもが飢餓や紛争で苦しんでいる姿を見て、「なんて不公平な世界なんだろう…」ということを感じました。その後、身近だった医療を通して国際協力をしたと思うようになり、大学で看護学を学んで看護師となりました。緊急医療支援に携わるため、日本の救急病院の集中治療室（ICU）で5年弱勤務。しかし、たくさんの生死に立ち会う中で、病院で治療を受けるひとときよりもずっと長いその前後の生活や人生に関わる仕事をしたいと考えるようになり、JICAの青年海外協力隊に応募し、看護師として南米パラグアイの田舎の病院に所属して2年間活動しました。主に地域保健に関わることをやっていましたが、その中で学んだことは、経済ではない豊かさ、そして人びとが抱える問題には様々な要因が複雑に絡んでいるということでした。医療サービスを受けられないという問題一つをとっても、政治、経済、教育、コネ社会、インフラ、など様々な要因が医療へのアクセスを阻む要因となっていることを学びました。「自分は看護師になったし、その専門分野でやっていくのがいいのかな。」とも思いましたが、本質的に自分は何を大切に何をしたいのかを考えた結果、私は医療や保健の専門家になりたいのではなく、人が自分で人生を選択しよりよく生きるために何かしたいと思い、現職の JVC パレスチナ事業担当へとたどり着きました。

#### 3. 分科会の内容

世界の問題を考え出すと、「自分一人が何かをしても何も変わらないかもしれない」という気持ちになることがあるかもしれません。しかし、国際協力というのは、たくさんの人がそれぞれの立場で出来ることを持ち寄り、一緒に考えて行動することで成り立っています。パレスチナ問題に対する各アクターの実際の関わりを例に、みなさんが将来、何を大切に、どの立場からどんな方法で国際協力に関わりたいのか、そしてそのために必要なことを一緒に考えていきたいと思えます。

#### 4. キーワードリスト

国際協力とは何か、国際協力に関わるアクター、価値観)

#### 5. 参考資料等

特になし。

#### 6. 事前予習用リーディング課題

- 自己紹介の準備 (名前、所属、興味・関心事、分科会の参加理由、分科会に期待していること)
- 自分が思う国際協力とは何か、国際協力にはどんなアクターがいるかを考えておく
- 自分の人生の中で大切にしていることを挙げる (上位5つまで)
- 自分の人生の中で絶対に実現したい・達成したいと思うことを挙げる (上位5つまで)

#### 参加者による全体発表

### 国際協力とキャリア

分科会D

新井 真 石村 結太 遠藤 千智 川賀 守智心 工藤 優菜 櫻井 奈々  
西村 実彦 橋本 愛理 三浦 優希 山本 梨乃 藤原 凜

### 国際協力とは・・・

- ・国際機関や団体が行う活動レベルのものだけでない!
- ・フェアトレード、貿易なども国際協力!
- ・国際協力の対象は発展途上国だけではない。
- ・誰もが国際交流に携わることができる。

### 1.国際協力には色々なかたちがある

国際協力って・・・

直接現地に行って支援をすることだけ?

### ニュースの情報源

情報源	男子 (n=219) (複数回答可)	女子 (n=200) (複数回答可)	性別 (n=419) (複数回答可)
テレビ	33.3%	33.0%	33.2%
新聞	11.9%	12.5%	12.2%
ラジオ	1.9%	1.5%	1.7%
LINE NEWS	20.5%	11.2%	15.8%

### パレスチナの人たちからのメッセージ

とにかくパレスチナで起きていることをたくさんの人に知ってほしい。  
パレスチナは世界から見離されている。自分たちのことを忘れないでほしい。

### 「伝えること」も国際協力!

事実ばかりが伝わり、背景にある人々の情報が伝わりにくい現状がある

例)・現地の人々の価値観  
・文化的・宗教的慣習  
・歴史的背景  
・環境

→自分たちが「代弁者」になって代わりに伝える

### アクションプラン

#### 物事の「背景」にあるものを情報発信して伝えていく!

伝える際に必要なこと

- ・全く違う価値観が存在することを念頭に置くこと
- ・情報を発信していくうえで、双方の意見を聞いていくこと

例:Twitter,InstagramなどのSNSを使ってシェア  
(年齢層・対象国・発信方法によって使い分ける)

### 2.キャリア形成に正解はない

◎国際協力の仕事と言えば...  
青年海外協力隊、国連、NGO、NPO、自衛隊 etc. (海外に行く、堅いイメージ)

実は他にも

旅行会社、コンサルティング会社、教師、YouTuber、クラウドファンディング会社、ジャーナリスト etc.

(国内外問わず色々な分野にある!)

多様なアプローチ方法がある



### 実際のキャリア例

- 企業の職員→海外大学院→国際支援団体(日本のNGOの中で一番良く聞く)
- 企業の経理→単純に経理の求人のみでNGOの経理へ
- 企業のSE(システムエンジニア)→NGOのスタッフへ
- 美容師・フリーカメラマン・映像業界→NGOの広報担当→現地駐在
- 新聞記者→NGO専任担当→新聞記者
- インターン・ボランティアからNGOスタッフへ
- 賞金をきっかけに奨励支援のためNGOへ
- 現地駐在⇔日本国内

### アクションプラン

#### やりたいことをやってみる!

- セミナーやインターンに積極的に参加する。自分のコミュニティを広げる。
- 気になったり関心があることは、とにかくやってみる。
- 宇都宮大学の基礎教育科目の授業に主体的に参加して理解を深める。

例) グローバル・ガバナンス入門 アフリカ学入門 環境と国際社会 SDGs入門(必修)

**固定概念にとらわれず、様々な視野を手に入れる!**

### 3. 今からでも行動チャレンジ

国	参加率	参加率	参加率	参加率	参加率
日本	10.1%	10.1%	10.1%	10.1%	10.1%
アメリカ	25.3%	25.3%	25.3%	25.3%	25.3%
イギリス	18.7%	18.7%	18.7%	18.7%	18.7%
フランス	15.2%	15.2%	15.2%	15.2%	15.2%
ドイツ	12.8%	12.8%	12.8%	12.8%	12.8%
中国	8.5%	8.5%	8.5%	8.5%	8.5%
インド	7.1%	7.1%	7.1%	7.1%	7.1%
ブラジル	6.3%	6.3%	6.3%	6.3%	6.3%
韓国	5.9%	5.9%	5.9%	5.9%	5.9%
オーストラリア	5.4%	5.4%	5.4%	5.4%	5.4%
ロシア	4.8%	4.8%	4.8%	4.8%	4.8%
インドネシア	4.2%	4.2%	4.2%	4.2%	4.2%
メキシコ	3.7%	3.7%	3.7%	3.7%	3.7%
南アフリカ	3.1%	3.1%	3.1%	3.1%	3.1%
タイ	2.6%	2.6%	2.6%	2.6%	2.6%
ベトナム	2.1%	2.1%	2.1%	2.1%	2.1%
フィリピン	1.6%	1.6%	1.6%	1.6%	1.6%
ニュージーランド	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%
スウェーデン	0.6%	0.6%	0.6%	0.6%	0.6%
オランダ	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%

**日本の若者の社会参加、社会課題への取り組みについては、各国と比較して非常に低い状況**

[参考] <https://www.nippon-bund.co.jp/pk/teisyu/2019/01/13-30353.html>

### なぜ積極性は必要な??

経済産業省が主催した有識者会議により、職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力を「**社会人基礎力**(= 3つの能力・12の能力要素)」として定義。

#### 前に踏み出す力 (アクション)

～一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力～

- 主体性
- 物事に進んで取り組む力
- 働きかけ力
- 他人に働きかけ巻き込む力
- 実行力
- 目的を設定し確実に行動する力

<参考>  
[https://view.officeapps.live.com/op/view.aspx?src=https%3A%2F%2Fwww.meti.go.jp%2Fpolicy%2Fkisorvoku%2Fkisorvoku\\_PR\\_pptx&wdOrigin=BROWSELINK](https://view.officeapps.live.com/op/view.aspx?src=https%3A%2F%2Fwww.meti.go.jp%2Fpolicy%2Fkisorvoku%2Fkisorvoku_PR_pptx&wdOrigin=BROWSELINK)

### でも国際協力って、...

国際協力の分野は様々なアクターがあっても関わり方がわからない! 積極的に行動したいけど、まず何をすればいいの? という若者が多いのでは?

まずは、インターン(説明会)を通して自分の**興味のある機関**についてよく知ることが大切!!!

→どのような国際協力に関わりたいかまだ明確ではない方のために、、、next!!!

### アクションプラン

#### Yes/Noチャートで適性インターン探し(国際協力向け)

```

    graph TD
      Q1[あなたは柔軟に国際協力に関わりたいですか?] -- YES --> Q2[あなたは安定した給与、福利厚生を求めますか?]
      Q1 -- NO --> Q3[日本の国益にダイレクトに関与する実務的な活動をしたいですか?]
      Q2 -- YES --> A1[国際協力に変わる民間企業(前向きなジョブリスト、系行会社等)]
      Q2 -- NO --> A2[NGO・NPO (VC、セーブザワールド etc...)]
      Q3 -- YES --> A3[外務省・防衛省]
      Q3 -- NO --> A4[国連機関日本支部 (UNHCR, UNICEF, WHO etc...)]
    
```

### 積極的に行動しなければ何も始まらない

**INTERNSHIP**

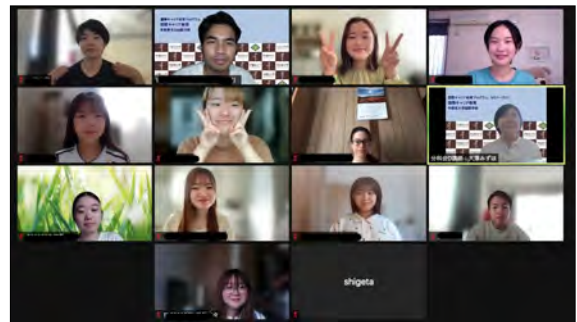
ご清聴ありがとうございました!  
Thank you for listening!

**参加者のレポートより (コメントは原文のまま記載しています。)**

- このセミナーでは、以下の3つの点について学んだ。1つめは、国際NGOの現状についてである。実際の業務内容や雇用形態を細かく教えて頂き、今後の進路の参考になるようなことを多く知ることができた。2つめは、様々な国際協力の関わり方があるということだ。今まで私は国際協力に関わるにはNGOや国連機関に所属しなければならないと思っていた。しかし実際には様々なかたちがあり、一般企業や個人レベルでも国際協力に関わることがわかり、今一度キャリア構築を見直していこうという新しい考えを持つことができた。3つめは、幅広い視点を持つということだ。自分の専門分野や、今までの固定概念にとらわれず、幅広い視点を持つことで新たな道が開けるということを実感できた。これらの学んだことをさらに自分でブラッシュアップしていき、キャリア形成に役立てていきたい。
- 自分のキャリアについて考えることのできる大変貴重な機会となった。セミナーに参加する前は、自分の将来について漠然としていて、国際協力に関わってみたいと思いつつも、そのために何をすればいいのか曖昧であった。しかし、参加後は国際協力に関わりたいという思いが強くなり、そのために大学生活ですべきことや卒業後どのようなプロセスで国際協力に関わることができるのかなど、曖昧であったものが明確になった。また、将来は国際協力にどんなかたちでもよいので関わると決意し

たことは、本セミナーに参加したことで得られた大きな変化である。3日間自分自身と向き合うことで、今まで見えてこなかった価値観など、新たな発見もあり、非常に充実した満足のいく3日間であった。

- とても有意義な3日間にすることが出来た。仕事の他に、自分が将来どうありたいのかを見つめ直すことが出来たので嬉しく思う。また、美容師や記者の道からもNGOに入れる事実には大変驚いた。就職は国際機関にしなければ、という固定観念が払拭された。これを機に、自分の強みについて考えてみたいと思う。
- 日本にいて、かつ国際機関に入らずとも、国際協力に携わる方法はたくさんあること、またSNSやブログ等を通して世界のことを発信していくことや、伝えることも、国際協力の方法であることを知った。
- 客観的に物事を考え、積極的にアクションを起こしていくことが大切だということ、身をもって感じることができた。頭の中で大切と考えていても、実際に行動をおこしてみないと分からないことはあるので、改めて、積極的に行動しないと何も始まらないことを学んだ。
- 分科会では、国際協力のテーマのもと、話が進められたが、その中で、国際協力の支援という面で、発展途上国で行われているのみならず、日本が食糧輸入に頼っているように、先進国においても行われているのではないかという意見を聞き、新しい考えに納得することができた。
- 分科会を通して、自分の将来の方向性が定まった。参加する前は、国際協力に携わりたいという気持ちはあったが、どんな関わり方があるのかわからず、積極的に行動することができていなかった。しかし、国際協力といっても、現地で活動するだけでなく、企業として関わることができると知り、選択肢の幅が広がった。それぞれのアクターにはそれぞれの特徴があり、自分が何を優先するか（収入か、やりがい、など）によって選ぶことが大切ということを知ることができた。
- 国際協力に対する考え方を共有したことで、自身の視野を広げることができた。例えば、「国際協力は一方的なものではなく、互いに助け合うこと」や、「伝えることも国際協力」、「心のケア」などは今まで私が考えていなかったことである。改めて自分の視野の狭さに気付くことができ、他の人の意見を聞くことが重要だとわかった。
- 「パレスチナの争いはそもそも戦争ではない」という大澤さんの言葉は今回の分科会で最も印象的でした。パレスチナとイスラエルは圧倒的な軍事力、経済力の差があり、力関係が非対称でそれは占領であり制圧なのです。国際法が存在し、国際社会の監視があるのにもかかわらず、多くの人が攻撃におびえ、住む場所を探し苦しんでいると考えると、国際法に意味はあるのかと考えてしまいました。ガザの人々の声の中に「どうせ死ぬなら家族みんなと死にたい」というものがありました。本当に追い込まれると私たちのような平和に暮らす人々には想像もつかない考えになるのだと悲しくなりました。その中で、大澤さんの「食料などの緊急支援だけでなく心のケアが必要だ」というのはとても納得できました。国際支援、国際協力は、物資や技術のイメージが強いけれど、日々攻撃や生きることの恐怖、人権侵害と戦う人々の心のケアも大切な国際協力だと思いました。自分たちが思わぬところで、支援を求めている人がいるかもしれないと学びました。現地を通して見えることがたくさんあり、視野が大きく広がったと思います。



## 分科会 E



### 元リクルートのキャリアコンサルタントと考える、 ジェンダーとキャリア

石井 由貴 (いしい ゆき)

Joy Living Lab.代表、キャリア戦略カレッジ共同主宰  
キャリアコンサルタント

#### 略 歴：

慶應大総合政策学部、東大新領域創成科学研究科にて福祉の社会学を学ぶ。新卒でリクルートキャリアに入社し9年間転職支援事業に携わる。現在はキャリアコンサルタントとして一人ひとりが自分らしいキャリアを作っていくためのセミナー・コンサルティング・執筆・講演を行う。筑波大学博士課程に在籍中。2児の母。

#### 講義の概要

##### 1. 仕事の内容・研究のテーマ

キャリアコンサルタント業、大学院生としての研究活動、母親業に携わっています。

- ・キャリアコンサルタント

企業に入ったらそれで定年まで安泰という時代ではなくなり、就職後も社内外で自分なりのキャリアを模索し続けるひが増えています。

大学生のみなさんは、就職活動をするにあたって「どういう仕事をしたいか、向いているか」など考えることになると思います。そしてそういった模索はこれから、様々な節目でまた向き合うことになります。そんなときに、キャリアをどう構築するか、仕事の悩みをどう解決するか、といった相談相手になるのがキャリアコンサルタントです。私は現在、働く母親向けの講座開催、個別キャリアコンサルティング、記事執筆や講演活動を行っています。

- ・大学院生 (博士課程)

出産後の女性の健康問題をテーマに、NPO の運営する産後のリハビリプログラムを題材に産後女性への適切なケアについて研究しています。

- ・母親業

13歳男子と9歳女子の母親として奮闘しています。PTA や部活など地域のお仕事も色々。



##### 2. キャリアパス

###### 【学生時代】

学部生時代は、決まった内容を覚え続けた受験勉強のあとに急に自主性が求められる学内の雰囲気にもまれて自分を見失い、悩んだ日々でした。途上国の支援に関心があったものの、現場に行くことで、まずは自分の課題に向き合うべきだと考えました。やがて自身の生きづらさと育ってきた家庭内の問題一兄の不登校や父の不在、母親の憂鬱一、それに時代的・社会的な背景がリンクしていることに気づいて、女性の雇用問題に関心をもつようになりました。修士では「ハンデがあっても働くことで、生きやすくなる」ことに関心があり精神障害を持つ人達のコミュニティについて研究。学部時代の就職活動は本腰入らず失敗し、修士での就職活動でなんとかリクルートエージェント (現リクルート) に入社できました。

###### 【リクルート時代】



リクルートでは、中途採用幹旋の事業部で9年勤めました。転職を希望する方たちと、中途採用したい企業との仲介をする事業です(派遣業とは異なります)。私は転職を希望する方たち向けのサービスを企画する企画部門に配属になりましたが、自分は転職どころかまだ働き始めたばかりでわからないことだらけ、また体育会系の社風になかなかなじめずに初めは苦労しました。やがて転職希望のカスタマー対応をする担当となり、面談、求人紹介、書類作成サポート、面接サポート、入社までをお手伝いする仕事にも携わりました。述べ2000人ほどの求職者の方々の書類を見て、お話を聞いてサポートさせていただきました。この間に結婚、二人の子どもを授かり産休・育休を取得して時間短縮制度を使って復職(22時まで勤務など当たり前の職場で、時短を使うことでようやく定時に帰れる社風でした)。数年それががんばりましたが長い目で見ると限界を感じ、またもともと大学院に戻ることを希望していたこともあって退職しました。大変なことも多かったけれど、上司・先輩・同僚に恵まれた時代もあり、とても楽しい思い出がたくさんあります。

【現在】

元同期が創業した会社でキャリアカウンセリングサービスを始めるというので、キャリアカウンセラーとして登録し、キャリアカウンセラー・キャリアコンサルタント資格を取得して独立しました。また大学院受験にも挑戦し、あちこちの研究室をまわって2年がかりで筑波大の先生に受け入れていただきました。産後に出会った子育て支援のNPOで長年ボランティアをしており、そのNPOの産後のリハビリプログラムを題材に産後女性への適切な支援について研究しています。

3. 分科会の内容

女性の社会進出、女性活躍といった言葉をよく耳にするようになり、たしかに以前のように企業での女性の採用がほぼなかった時代や、女性は補助的な仕事のみで結婚退職が当たり前といった時代に比べれば、随分女性が企業で働くことが一般的になりました。一方で、データを見ると第一子の産前産後に仕事をやめないで続ける女性がようやく半数を超えたのがここ数年という状況です。女性の就業率全体は上がったものの非正規雇用の割合が非常に高いという現実もあり、今回コロナ禍で深刻な影響を受けています。女性がライフイベントを超えて、自分のしごとを続けることがまだ大変な状況のなか、どんなふうに希望をもってキャリアを描いてゆこうか、と一緒に考えていけたらと思っています。

4. キーワードリスト

ジェンダー、キャリア、ライフイベント

5. 参考資料等

- リンダ・グラットン他『LIFE SHIFT (ライフ・シフト)』、東洋経済新報社、2016.
- 上野千鶴子、田房永子『上野先生、フェミニズムについてゼロから教えてください!』、大和書房、2020.
- シェリル・サンドバーグ『LEAN IN (リーニン) 女性、仕事、リーダーへの意欲』、日本経済新聞出版、2013.



6. 事前予習用リーディング課題

下野新聞「日曜論壇」コーナーへの連載記事 (6本)  
<https://blog.joyliving.org/entry/2021/01/31/094733>

参加者による全体発表

<p><b>労働における男女格差と男性育児休業</b></p> <p>～ジェンダーにとらわれないキャリア形成を目指して～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ (分科会E) 元リクルートのキャリアコンサルタントと考える、ジェンダーとキャリア</li> <li>・ 秋本 隆宏、伊藤 咲希、岩淵 杏、宇野 すみれ、遠藤 伶菜、作洲 和花、小堀 余美、佐藤 愛佳、竹谷 瑠那、田中 愛結実、野村 京、藤田 雅、山本 龍平</li> </ul>	<p><b>目次</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 男女の労働格差の現状</li> <li>2. 男性の育児休業について</li> <li>3. 産後のケアの重要性</li> <li>4. アクションプラン</li> <li>5. まとめ</li> </ol>
---	---

### 1. 労働の男女格差

- 女性の非正規雇用者
  - 働く女性の非正規雇用割合は**48.5%**で男性の約**3倍**
  - 賃金が低く、不安定である

- 女性の無償労働
  - 女性は無償労働の時間が長い→男性の約**5倍**
  - 男性は有償労働の時間が長い
  - 無償労働...お金が支払われない労働で、家事、育児など

### 管理職

- 日本の管理職の割合
  - 女性：**13.3%**
  - 他の国に比べて低い
- 諸外国における女性の管理職
  - 30~40%程度の国が多い

### 2. 男性の育児休業について

格差を埋めるための方法の1つ  
→男性の**育児休業の取得**

育児休業とは・・・

- (原則1歳になるまでの)子どもを育てる男女労働者が取得できる
- 手取りの金額は休業前の約8割
- 法律で認められている権利

### 男性が育児休業をとるメリット①

- 社会全体
  - 女性の社会進出の機会が増える
  - 無償労働の差が少なくなる
  - 管理職の女性が増える
  - 長く働き続けることができる
- 男性側
  - 妻からの信頼を得られる
  - 家庭的な思考を得られる
  - 職場と家庭以外の交流の場ができる(例：パパ友)

### 男性が育児休業を取るメリット②

- 女性側
  - 産後のうつ予防
  - 無償労働(家事、育児の負担)の減少
- 企業側
  - 社会からの信用度が向上する
  - 育児休業を取った男性が消費者視点を得るため、結果的に社員育成につながる

### 男性の育児休業の課題

現状→女性が育休を取りやすくなった時代  
しかしその一方で…  
男性の育休取得率が低い→R2:取得率**12.65%**

### なぜ男性の育休取得率が低い？

- 会社で育休休業制度が整備されていないから
- 収入を減らしたくないから
- 職場が育休休業制度を取得しづらい雰囲気だから

### 3. 産後のケアの重要性

【解決すべき問題】  
産後うつに悩まされる女性が多く、産後の女性の死因第**1位**が自殺であること。

→男性が育児休暇を取得することによって、女性の肉体的面(家事や育児)や精神的面(メンタルヘルス)等の負担が軽減される

### 4. アクションプラン

- 国による育休の義務化、企業の監視・指導  
→誰でも安心して育休が取れる環境へ
- 男性を対象とした自治体や企業による講習・研修  
→育休や産後うつの認知促進
- 学校教育での育休の認知  
→社会や政治経済の授業で育休の選択肢を認知する

**5. まとめ**

**キャリアを考えるとき…**

※キャリアとは…仕事だけでなく家庭や地域との関わり等の人生全体を示す言葉

性別ごとの固定観念にとらわれていないか？  
(「男性は仕事、女性は家庭」等)

↓

自分の役割を考え、選択する

**自己分析をしてキャリア形成に対する計画性をもちつつ、  
固定観念にとらわれず、柔軟にチャレンジしていくことが大切！**

**参考文献**

- ・ 帝京データバンク、2021、「女性管理職比率データ2020年最新版 女性が活躍する社会づくりに必要な対策とは」、ELEMENIST、(2021年9月19日取得)  
<https://elemenist.com/article/792/>
- ・ 男女共同参画局：  
[https://www.gender.go.jp/about\\_danjo/whitepaper/r03/zenai/html/zuhyo/zuhyo01-02-14.html](https://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/r03/zenai/html/zuhyo/zuhyo01-02-14.html) (2021年9月19日取得)

ご清聴ありがとうございました

**参加者のレポートより**

(コメントは原文のまま記載しています。)

- セミナーを通して、ジェンダーとキャリアという点に対する考え方が深まりました。特に男性の育休取得率は 12.65%なのに対し、取得を希望している方は約8割いるという現状が印象に残りました。また、育休に対する知識だけでなく、女性の無償労働の時間が長いこと、産後ケアが重要になること、女性

の産後の死因の1位は自殺であること、など今まで目を向けたことがない事柄を知り、多くの課題があることを学ぶことができました。また、分科会ではジェンダーの事柄だけではなく、“Will Can Must”や“計画的偶発性理論”といったキャリア理論の存在を学ぶことができました。キャリアの8割は偶然で決まるとのお話から、その偶然を手に入れるためには自らが目標ややりたいことを明確にし、行動していくことが大切であることを強く実感しました。

- 男性が育休を取ることで女性の負担（無償労働等）を減らせることや、産後うつ予防につながると学びました。この点から、現状は12.65%の男性が育休を取得していますが、今後の動向にも目を向けながら、自分のキャリアについて考えていきたいです。例えば、父親になる男性を対象に、自治体の講習会に参加してもらおうとの提言をしましたが、もし自分にパートナーができた際には、このような講習会に参加してもらいたいということをはっきり伝えることが、その後のキャリア形成に影響を与えてくるのではないかと思います。また、仕事を決める際には、性別の固定観念にとらわれて、「女性だからこの仕事は無理」とあきらめないことが大切であると考えます。確かに、体力的な部分やその他にも女性に合う、合わないというものがあるかと思えます。しかしまずは自分が興味・関心を持ったのであれば、とりあえずチャレンジしていくことも今後のキャリア形成では大切なのではないかと思います。そのため、自分が何をしたいのかをまず明確にし、自己分析を行い、将来のキャリア形成の過程では自ら動いて挑戦していくことを大切にしたいです。
- 「キャリアには決められた道がない」ということを学べたのは非常に大きかったと思う。「大企業に勤めるべきだ」「公務員は安泰だ」など、最初から決めつけて物事を見るのではなく、もっとフラットに、1度自分の中の固定概念を捨ててみることも重要なのだと学ぶことができました。今後の課題としては、自分がこれから仕事をどう捉えていくべきか、どう向き合うべきかをもっと考える必要があると思う。何が得意なのか、何が苦手なのかなど自己分析を通して自分への理解を深める時間を作りたい。
- 労働の男女格差と育休の取得率を照らし合わせて、女性の社会進出が難しい現状を学んだ。男性が育児休業を取得することで女性の育児負担が減るだけでなく、企業の効率性向上や柔軟性習得が期待されることを知った。「3ステージ」から「マルチステージ」へ、という言葉が心に残っている。3ステージとは、学生→社会→引退という流れを表しているが、1度引退してもまた新たにやりたいことを見つけ活動したり、複数の職を組み合わせるマルチステージの考え方が重要だと思った。社会に出てからも常に自己分析(何を大切にするか、何がやりたいか)をし続け、やりたいことに果敢に挑戦するという考え方を得た。





## 分科会 F



### いくつもの日本 ～アイヌ民族から考える多文化共生～

若園 雄志郎 (わかその ゆうしろう)

地域デザイン科学部 コミュニティデザイン学科 准教授

北海道大学 アイヌ・先住民研究センター 客員研究員

#### 略歴:

北海道釧路市出身。北海道大学アイヌ・先住民研究センター博士研究員を経て、2013年より宇都宮大学基盤教育センターでアクティブ・ラーニングの推進に携わる。2016年より現職。専門は社会教育、マイノリティ教育。近年はアイヌ民族に関する諸問題に加え、社会教育の視点から高校と地域の連携などについての研究をしている。

#### 🌐 講義の概要

##### 1. 仕事の内容・研究テーマ

###### a) 学校（主に高校）と地域の連携

全国的に地方創生の流れの中で、「地域」についての様々な取り組みが活発に行われています。そのうちの1つとして、学校と地域の連携が挙げられます。最近では「コミュニティスクール」という形で、学校と地域が協働して学校の課題・地域の課題の解決を探り、学校の運営に取り組んでいこうとする例も多く見られるようになってきました。

2014年より栃木県では「地域連携教員」を全ての小学校・中学校・高校・特別支援学校に配置して地域連携に積極的に取り組んでいます。特に高校においては地域が抱える様々な課題の解決に向けた「地域対応力」を育てるための地域課題解決学習を積極的に取り入れる動きが出ています。私が関わっているものに、烏山高校の「烏山学」、馬頭高校の「那珂川学」があります。どちらも生徒が少人数のグループを組み、地域における課題を実践的に学び、その解決法を提案するものです。これは当然学校にも地域にもメリットがあるもので、学校としては上述の地域対応力や実践力が生徒に身につく、地域としては若い世代が関わることにより、これまで気づかなかった地域の姿がわかるようになる、地域の魅力を高校生に伝えることができるようになる、といったことが挙げられます。

一方で、これらの活動が活発なのは人口減少地域に顕著であり、いかに学校と地域を盛り上げていくか、または相互に支え合っていくかを模索するものでもあるといえます。

また、地域連携教員と関連して、主に学校以外での教育である社会教育や生涯学習などに関連する企画立案や教育の方法などに関する専門知識を有する社会教育主事の養成も行っています。今までは主に市町村や都道府県において任用される「任用資格」だったものが、2020年度からは「社会教育士」として民間企業・団体・NPO等でも活躍が期待されるようになりました。

###### b) アイヌ民族に関する教育課題

私が担当している「多文化理解論」という授業ではもちろんですが、他の授業でもこの問題を取り上げています。また、年によって形態は異なりますが、アイヌ文化を学ぶ公開講座を開催しており、地域の方々への普及啓発を行っています。元々は大学の公開講座として2019年度の本セミナーの講師であった廣瀬隆



人先生が始められたものですが、それを引き継ぎ、また地域デザイン科学部における公開講座として2018年度より陽東キャンパスで開催しています(2020・2021年度は中止)。

そもそもなぜ宇都宮でアイヌについての講座をやるのか、と問われたこともあります。それに対してはなぜ国際学部の先生は世界各国の研究を日本の・栃木の・宇都宮で行っているのか、という問いとして返すことができるでしょう。

## 2. キャリアパス

< 大学 > 早稲田大学に行きたい！ という思いだけで複数学部を受験、何とか一応第1志望の教育学部教育学科社会教育専修に入学する。誰も使ってなさそうな言語を学びたい、という安直な考えで、卒業単位として認められていた語学研究所の科目のうち、「アイヌ語」を選択。「誰も使ってない」というのが勝手な思い込みだったことに気づく。

< 大学院 > 就活はせず、大学院で多文化教育を学ぼうとする。ここでアイヌと博物館教育という博士論文へ至るテーマにたどり着く。当時は北海道に親戚がいたので、そこを拠点としながらアイヌの教育や博物館活動に関する資料収集を行う。また、先輩に勧められ、オーストラリアの先住民に関する研究も行うようになる。在学中は非常勤講師をしながら博士論文の執筆と就職活動を行うも、お祈りメールの山となる日が続く。

< 北海道大学 > 少々やさぐれていたところに、北海道大学アイヌ・先住民研究センターで博士研究員を募集しているという情報を得るも、まだ博士号を取得しておらず、また、「どうせ出来レースだろうから応募しても無駄だろう」という思い込みで応募しないでいたところに、自主ゼミでお世話になっていた先生から「君が応募しないというのはあり得ない、すぐに応募しなさい」と言われ、締切ぎりぎり書類を提出。まさかの採用となる。ここでは今に至る多くの人脈と情報を得ることになった。ちなみにここでようやく自立できるだけの収入を得ることができた。

< 宇都宮大学 > 北大は3年の任期付研究員だったため、また次の職を探さなければならなくなるが、やはりお祈りメールだけがたまっていくことになる。プライベートではちょうど縁あって結婚をしたため、職探しに焦りがあり、研究職以外も検討するようになる。1箇所事務職として採用直前までいくも、博士号をまだ取得していなかったことから、このまま諦めていいのかと自問し、次のあてが無いにもかかわらず結局お断りをする。任期切れ直前となり、アイヌではなく社会教育の専門知識を生かし、大学におけるアクティブ・ラーニングの推進を職務とする宇都宮大学基盤教育センターに採用となり、同様に社会教育の専任教員として地域デザイン科学部に移籍する。

以上が私のキャリアパスです。

## 3. 分科会の内容

数年に1度ぐらい、有力政治家が「単一民族」発言をすることがあります。おそらく彼らとしては積極的にアイヌ民族を差別しているわけではなく、無関心なだけだといえます。しかし、無関心であることもまた差別だということに気づかなければならないでしょう。

授業や公開講座などで、受講者が北海道出身者、あるいは親戚が北海道にいる、という場合もよくあるのですが、「アイヌの存在は知っているけど詳しくはわからない」「学校で習ったような気がする」といった反応が普通です。北海道で生活していたとしても、アイヌ民族を意識するのはせいぜい地名のルーツやたびたび発売されるアイヌ文様を取り入れた商品を見たときぐらいかもしれません。

しかしながら、アイヌ民族をめぐる課題は、その歴史的経緯を考えれば日本全体における大きな問題であることが指摘できます。地名や商品は確かに接しやすく面白いものですので、これからも触れる機会が増えていくことを期待していますが、一方で、「当たり障りの無い文化」だけを選択的に受け入れるのもまた差別への萌芽が潜んでいるといえます。

そこで本分科会では各自（受講者数によっては小グループ）で「アイヌ」に関する話題や課題を調査し、それを相互の共有し議論することで、多文化「共生」とはどのようなことなのかを考えていきます。可能であれば、「テキストの1ページをつくる」ということに取り組んでみたいと思います。

## 4. キーワードリスト

共生／アイヌ民族／ウポポイ（民族共生象徴空間）／イランカラブテキャンペーン

## 5. 参考資料等

- 加藤博文・若園雄志郎編『いま学ぶ アイヌ民族の歴史』山川出版社、2018
- 瀬川拓郎監修『カラー版 1時間でわかるアイヌの文化と歴史』宝島社、2019
- 中川裕『アイヌ文化で読み解く「ゴールデンカムイ」』集英社、2019

## 6. 事前予習用リーディング課題

- 上記『いま学ぶ アイヌ民族の歴史』 pp.119-140 (コピー)
- アイヌ民族文化財団の中学生向け副読本『アイヌ民族：歴史と現在』  
<https://www.ff-ainu.or.jp/web/learn/culture/history/>  
 ※ 「中学生用」ではありますが、内容は一般用としても遜色ありません。

## 参加者による全体発表

<p style="text-align: center;">分科会F <b>アイヌ民族からみるキャリア</b> ～マイノリティを尊重するために～ 若園雄志郎先生</p> <p style="text-align: center;">猪狩菜穂子／マックティアー花／中居文香／安藤美海／ 本田ななみ／伊藤諒香／加藤ひかり／長瀬加菜子／山家瞳</p>	<p>目次</p> <table border="0"> <tr> <td>1.問題提起</td> <td>3.アイヌ民族の現状</td> </tr> <tr> <td>2.和人の問題点</td> <td>3.1経済格差の現状</td> </tr> <tr> <td>2.1問題提起</td> <td>3.2差別による経済格差</td> </tr> <tr> <td>2.2問題提起の理由</td> <td>3.3大学進学率</td> </tr> <tr> <td>2.3問題の原因</td> <td>4.解決の提起と今後の展望</td> </tr> <tr> <td>2.4見た目による差別の事例</td> <td>5.キャリアとの関連</td> </tr> <tr> <td>2.5メディアによるアイヌの発信</td> <td></td> </tr> </table>	1.問題提起	3.アイヌ民族の現状	2.和人の問題点	3.1経済格差の現状	2.1問題提起	3.2差別による経済格差	2.2問題提起の理由	3.3大学進学率	2.3問題の原因	4.解決の提起と今後の展望	2.4見た目による差別の事例	5.キャリアとの関連	2.5メディアによるアイヌの発信	
1.問題提起	3.アイヌ民族の現状														
2.和人の問題点	3.1経済格差の現状														
2.1問題提起	3.2差別による経済格差														
2.2問題提起の理由	3.3大学進学率														
2.3問題の原因	4.解決の提起と今後の展望														
2.4見た目による差別の事例	5.キャリアとの関連														
2.5メディアによるアイヌの発信															
<p>これまでの学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・和人から抑圧された歴史</li> <li>・アイヌ民族の認知度の低さ</li> </ul> <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本人の民族問題への関心・意識の低さ</li> <li>→アイヌ民族への認識の誤り</li> <li>→無意識の言動での差別行為</li> </ul>	<p>問題提起</p> <p>①差別</p> <p>②経済格差と学歴格差</p> <p>歴史上：和人(アイヌ民族以外の日本人)とアイヌ民族の制度的格差          現代：格差→経済格差に発展→学歴格差を助長→経済格差の拡大</p>														
<p style="text-align: center;">和人の問題点</p>	<p>問題の原因</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>教育             <ul style="list-style-type: none"> <li>①不十分な教育による無知</li> <li>②不適切な教育による差別的な価値観</li> <li>③教科書教育において歴史(過去)として扱われている</li> </ul> </li> <li>見た目による差別</li> <li>メディアの発信→言葉の持つイメージが定着</li> </ol>														
<p>原因 1. 教育</p> <p>1899年 北海道旧土人保護法制定 アイヌの人々の生活を保護するため</p> <p>実際は...</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・和人への同化を求める法</li> <li>・アイヌ民族を「旧土人」と差別用語で表現</li> <li>・アイヌ民族からの視点の記載なし</li> <li>・アイヌ民族が差別を受けている実態の記載なし</li> </ul> <p style="text-align: center;">教育が不正確 不十分!! 差別的用語を 補え付けている!</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代もアイヌの血を引く人がいる旨の記述が不足 例)蝦夷地(北海道)にアイヌ民族が住んでいました。←過去形の使用</li> <li>現在はいないと思わせてしまうのでは?</li> <li>・日本人(和人)目線での描写が多い</li> <li>アイヌが受けた被害や苦しみ 伝わりにくい</li> </ul>														







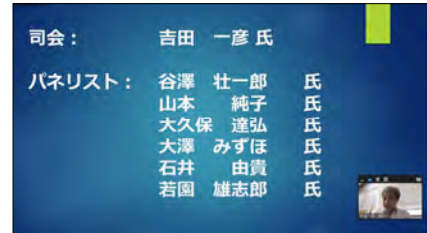


## 5. パネルトーク

### グローバル時代におけるキャリア形成

司会：吉田 一彦 宇都宮大学 国際学部 教授

各パネリストが、体験を踏まえて、キャリア形成に関して「大切なキーワード」を3つ挙げ、その理由を説明した。その後、参加者によるパネリストへの質問、グループ別ディスカッション時間を設けられ、意見が発表された。



<p><b>パネリスト：谷澤 壮一郎（たにざわ そういちろう）</b> DNA ASIA Production（在ジャカルタ） ディレクター・プロデューサー</p>	<p>① 異文化体験 ② 野次馬根性 ③ 運</p>
<p><b>参加者のコメントより（コメントは原文のまま記載しています。）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 多興味であることはプロフェッショナルではないという弱点があるものの、様々なことに足を踏み入れることで、出会いは増えるのではないかと感じた。</li> <li>■ 行動することが大切だと学んだ。大学生活の中で、関心のあるものに参加し、異文化体験を通じて自分の視野を広げることがキャリア形成に繋がると感じた。</li> <li>■ 野次馬根性で自分から何にでも関心を持ち行動するというお話しに感銘を受けた。</li> <li>■ 先生はアクションを起こし、興味関心を持ち続けることで知見を広げ、「運」を引き寄せてこられた。興味をもつことは大事だが、興味を持つためにまず行動を起こしてみることから始めてみるのも一つだと思った。</li> </ul>	



<p><b>パネリスト：山本 純子（やまもと じゅんこ）</b> ヤマゼンコミュニケーションズ株式会社 常務取締役</p>	<p>① コーチングとは ② コミュニケーションとは ③ 価値観とは</p>
<p><b>参加者のコメントより（コメントは原文のまま記載しています。）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 自己分析を通じて、自分の価値観や軸を知ることが大事だと感じた。</li> <li>■ 「価値観探し」ということばがとても興味深かったです。自分の考えが固定化し不安になることがあります。様々な経験を通じて自分の考えを更新していきたいと感じました。</li> <li>■ 何をしてもまずは自分自身を知ることが大切。その上で物事に取り組むことで、さらに自分への理解が深まるということを学んだ。</li> </ul>	



<p><b>パネリスト：大久保 達弘（おおくぼ たつひろ）</b> 宇都宮大学農学部森林科学科 教授</p>	<p>① 好奇心(Curiosity) ② 寛大(Generosity) ③ 跳躍(Leap)</p>
<p><b>参加者のコメントより（コメントは原文のまま記載しています。）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 寛大さという言葉が印象的だった。寛大な心を持つことで、様々なことを知ることができ、また、自分の考えを広げることが可能に思う。これはキャリアだけでなく他のことにも共通すると思った。</li> <li>■ 1分野に特化してアイデアを生むのではなく、多岐にわたる分野を通して、学際的にひらめきを得ることが大切だと学んだ。</li> <li>■ 好奇心と寛大さ、学問の探求に限ったことではなく、多文化共生の社会構築にも通じるものがあると感じた。</li> </ul>	





<p><b>パネリスト： 大澤 みずほ（おおさわ みずほ）</b>                  特定非営利活動法人日本国際ボランティアセンター（JVC）                  パレスチナ事業担当</p>	<p>① 仕事は人生の一部                  ② 何を大切にするか/どう生きたいか                  ③ 選択の繰り返し</p>
<p><b>参加者のコメントより（コメントは原文のまま記載しています。）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 仕事は人生の一部と捉え、仕事すべてという考えを見直すことができた。選択には自分の感覚も影響しているということが特に印象的だった。</li> <li>■ 一般常識に囚われ過ぎないこと、待っていないで自分から情報を得ること、行動を起こすことが、キャリア形成には大切であると学んだ。</li> <li>■ 「何を大切にするのか。どう生きたいか。」という言葉に感銘を受けた。自らに問いかけ、自分自身を知るよう努めることが重要だと感じた。</li> <li>■ 国際協力に関連する肩書や機関に所属することだけでなく、もっと身近な場面での取り組みも国際協力に繋がると思った。</li> <li>■ 日々の選択が今の自分や今後の自分の価値観を形成していく。今行っていることで無駄なことなど一つもなく、すべてが自分の糧になると思えるようになった。毎日の積み重ねを大切にしていきたい。</li> </ul>	



<p><b>パネリスト： 石井 由貴（いしい ゆき）</b>                  Joy Living Lab.代表、キャリア戦略カレッジ共同主宰、                  キャリアコンサルタント</p>	<p>① ジェンダー                  ② キャリア                  ③ 健康</p>
<p><b>参加者のコメントより（コメントは原文のまま記載しています。）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 自らのキャリアは車が走ったあとの轍のように形成されていくというお話はイメージが容易だった。その轍は自分自身の価値観を意味するものだと強く思った。</li> <li>■ 先生のお話から、まず自分自身が性別的な思い込みを払拭し、自分自身のキャリア形成に努めて行きたいと感じた。</li> <li>■ キャリアという言葉の仕事という限定的な意味で捉えていたことに気づいた。ジェンダーギャップの大きいこの日本で、かつコロナ禍という厳しい状況で、どのようにしてキャリアを築いていくか真摯に向き合っていきたい。</li> </ul>	



<p><b>パネリスト： 若園 雄志郎（わかその ゆうしろう）</b>                  地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科 准教授                  北海道大学 アイヌ・先住民研究センター 客員研究員</p>	<p>① 多文化                  ② 人権感覚                  ③ 共生</p>
<p><b>参加者のコメントより（コメントは原文のまま記載しています。）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 問題意識の薄さに気づき、教養を身に付けることの意義について学ぶことができた。知識は自分の財産というお話が印象的だった。</li> <li>■ 多文化共生を実現するためにはお互いを受け入れることが重要だと考えた。そして、受け入れるためには、知識を得ることが大事だと考えた。今後は、様々な知識を得つつ、発信する力を身に付けていきたいと思った。</li> <li>■ アイヌに関する問題だけではなく、人種や民族に関する差別問題が解決されないままでは、世界共通で勝手なステレオタイプや思い込みがあるためだと考えた。この現状から脱却するために自分自身ができる取り組みについて考えていきたい。</li> <li>■ アイヌ民族が格差問題や差別発言に苦しんでいる現状に衝撃を受け、自分がいかに無知であるかを思い知らされた。同時にこの無知さが、格差や差別に繋がるのではないかと考えた。</li> </ul>	



## 参加者のレポートより（コメントは原文のまま記載しています。）

- 他の分科会の先生方のお話を聴くことができる機会はパネルトークがメインだったので、貴重な時間でした。また、それぞれの先生方がどのようなキャリアを歩んできたのかという点や、偶然や運でもキャリアが形成されているということを知り、自ら積極的に行動する必要性を感じました。
- バリエティに富んだ経歴・職種の方たちから様々なキーワードでお話が聞けた点で学びが多かった。
- 先生方がキャリアについてどのように考えているのかを知る機会となったのでとてもよかったと思います。人生の先輩にアドバイスをもらっているような感じでした。
- 様々なお話をお聞きすることで、新しいキャリアの考え方を知ることが出来、自分のキャリアについて以前よりも明確に想像することが出来た。体験談からカルチャーショックを受け、また、新たな価値観、知識を得ることが出来て良かった。
- 各講師の方々のキャリア形成をしていく中での重要なキーワードや意見を聞けてとても役に立った。吸収できるものが多かった。
- 自分が選択していない様々なジャンルの分科会の話が聞けて有意義であった。特に講師の方たちの経歴や生き方などを知ることができ、自分の将来にも同じように活かせる教訓が多く、とても良かった。
- キャリアを形成してきた講師の方々の話を聞き、キャリアに正解はなく、自分の思うように形成していくことが必要だと思った。
- 違う分科会の講師の方々がどのようなキャリアを形成してきたのか、何を大切にしているのか、またそれぞれのキャリア形成についての考え方を知ることができて良かった。
- 6人の講師の先生方からのお話を聞き、それぞれのお話の視点や特徴が大きく違っていて、どれも自分のキャリアを考える上で必要な考え方だと感じ、多くの話を聞くことが出来て良かったと思う。
- それぞれの先生が様々な形のキャリアを持っており、背景の多様さがこのセミナーの魅力だと思った。様々な話を伺ったが、「行動力」、「違いって素晴らしい」等共通するキーワードが登場しているように見え、自分らしく生きている人の特色が伺えた。また、どの先生も良い書籍や映画について紹介されているのが印象的で、直接会おう人や場所だけではなく故人や古典からも同じような学びが得られると思った。さらに吸収だけではなく、その発信・行動等、表に出すという行為が大切になってくる。これまで知識の吸収に重きをおいてきたが、発信する・伝えるといった、意識を外に向ける・行動するという姿勢が重要になると考えた。
- キャリアと言っても多種多様で、いろいろな役割を含めてのキャリアがあり、人それぞれキャリアは違って、ひとつの仕事に対しても複数のアプローチの仕方があったりもするので、縛られ過ぎないのも大切だと学んだ。また、仕事は人生の一部ということから、仕事にどれくらい重きを置くのかといったバランスのとり方が大切になると思った。
- 先生方のお話から、行動の持続性の重要さに気づかされた。何事も一度チャレンジして自分の力になったと思えばいい。持続的に探究していくことで、その後の人生においての大きな価値へと変わっていく。何事も諦めずに探求・研究し続けたことは、将来的に自分自身の人生の中で必ず生かすことができるということを忘れてはならないと、特に若園先生のお話から強く思った。
- どの先生もキャリアに正解はないというお話をされており、その時々でご自身がやりたい・やるべきと思ったことに取り組んでこられたとのお話だった。そして、その積み重ねは将来の自分に必ず役に立つとのお話だった。今後、大学生だからこそのようなインターンやボランティア活動など多くのことにチャレンジしていきたい。

# International Career Seminar

## 1. 概要

### 🌐 目的

—世界で通じる即戦力の英語力を—  
国際分野の専門知識やグローバルな課題を英語で学ぶことで、実務に関わる実践的な英語能力を身につけます。また、第一線で活躍する講師より、各テーマや仕事の背景及び実状を学び、課題を話しあいながら解決策を考えます。

### 🌐 開催日程

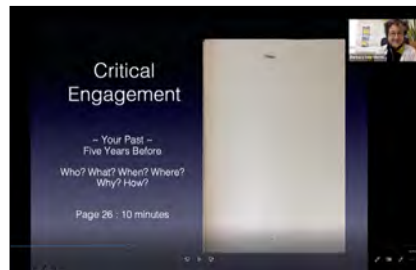
2021年9月25日(土)、10月2日(土) ~ 3日(日)  
事前指導: 2021年7月21日(水) 18:00-19:30

### 🌐 実施形態

Zoomによるオンライン授業



開講式



全体講義



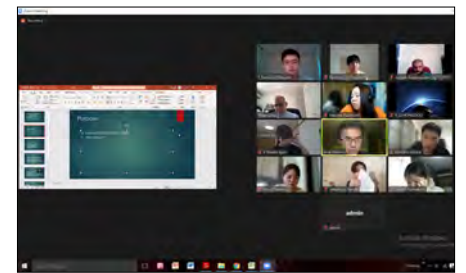
パネルトーク



パネルトーク



分科会



分科会



中間発表



最終発表



閉講式



## 2. 開催日程

### 1日目（9月25日 土曜日）

時間	プログラム内容	時間	プログラム内容
9:00	受付	13:00	パネルトーク
9:30	Registration	15:00	Panel Discussion by the Lecturers
9:30	開講式・オリエンテーション	15:10	趣旨説明
10:40	Opening Ceremony and Orientation	15:30	分科会・プレゼン方法の説明等 Introduction to Methods
10:50	全体講義・ワークショップ	15:50	分科会
12:00	Opening Lecture and Workshop	17:50	Work Group Session
12:00	昼食		
12:50	Lunch		

### 2日目（10月2日 土曜日）

時間	プログラム内容	時間	プログラム内容
8:30	分科会	15:30	分科会まとめ・中間発表準備
12:00	Work Group Session	16:30	Wrap-up Session and Presentation Rehearsal
12:00	昼食	16:30	中間発表
12:50	Lunch	17:30	Presentation Rehearsal
13:00	分科会	17:30	発表準備
15:30	Work Group Session	18:30	Presentation Preparation

### 3日目（10月3日 日曜日）

時間	プログラム内容	時間	プログラム内容
8:30	発表準備	12:20	昼食
10:00	Presentation Preparation	13:10	Lunch
10:00	全体発表 (発表 10分、質疑応答 5分、講評 5分)	13:30	ふりかえり・閉講式
12:20	Final Presentation	15:00	Reflection

### 3. 全体講義



## Critical Thinking and Reasons for Being: Finding Meaningful Work in A Global Age

Barbara Morrison, Ph.D.

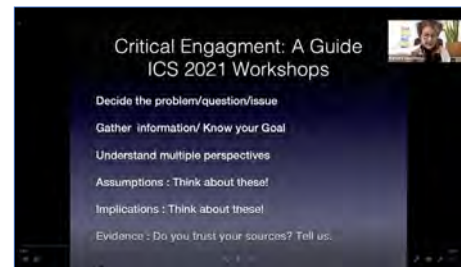
Associate Professor, School of International Studies  
Utsunomiya University

#### Profile:

My career path has been varied to say the least and not without defeats. Very early in my career I understood that my best life lay in education and academia, but as I felt my family was unsupportive of that endeavor I turned to business - taking positions in real estate and head-hunting after having explored careers in law, government, retail, journalism, non-profit and the arts - before eventually finishing degrees in both Japanese and English literature.

#### Information

In this group session we will be talking and thinking about “Ikigai” and the ways in which we can begin to bring a sense of meaning (raison d’être: reason for being) into our work lives. Using critical thinking as a guide, we will work together to understand how to both discover and cultivate what is meaningful for each of us in order to pursue and to accomplish careers both domestic and abroad.



#### 1. Current Work and Research Topics

Currently, I work with my students to realize their own critical thinking skills while considering (in particular) issues that pertain to both gender and culture. As a professor in the International Department at Utsunomiya University I have found that students are increasingly eager to engage globally and are searching for tools to enable them to challenge out-moded patterns of thought in order to create positive change that will realize their own contributions to local and regional communities. Change begins with conversation. We cannot solve a problem unless we recognize that the problem exists in the first place. The path to this recognition is to begin a conversation. My current work and abiding interest is in beginning and engaging in conversations that seek to challenge, change and contribute productively to the worlds we inhabit.

#### 2. Main Topics for the Opening Lecture and Workshop

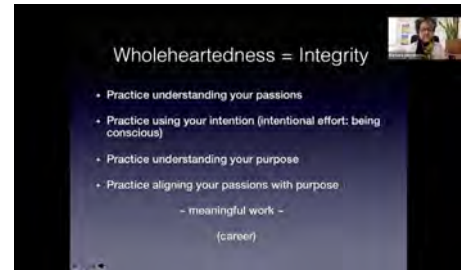
The 21st century is an age of connectivity that calls for individuals such as ourselves to engage in the world around us through increasing levels of ease and proficiency. As the call to engage with each other via social and technological networks becomes ever stronger and more seductive, the need for thoughtful and considerate engagement becomes increasingly imperative. Working with passion and drive is both a state of mind and a way of being that is based on the common assumption that by working to secure the future for others we will work toward



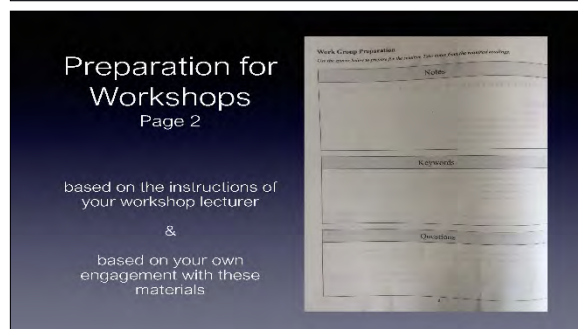
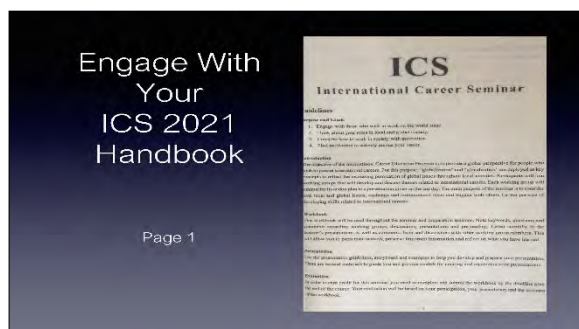
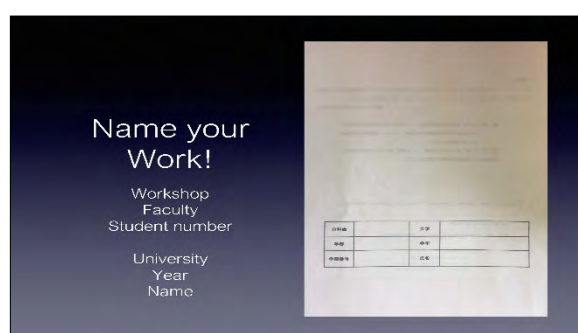
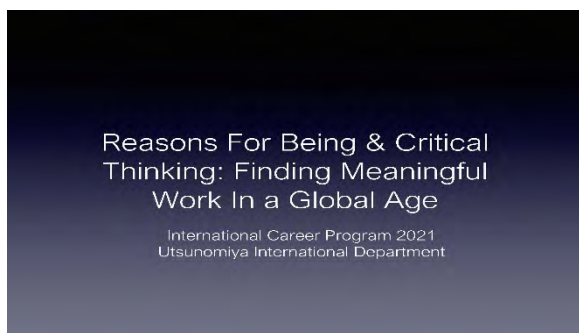
securing the future for both ourselves and for future generations. In order for us to be able to work productively within global networks we must seek to understand what makes us feel passionate about our work because working

effectively on a global stage requires motivation and purpose. Without energy and drive we will perform at our workplace perfunctorily at best.

In order to connect with the world around us we must first connect with ourselves: our likes, our dislikes, what we want to improve in ourselves and the talents that are instilled in each one of us. Once these talents and attributes are acknowledged: consciously and with acceptance, we will be in a position to begin a dialogue with ourselves – a dialogue that will most likely continue for the rest of our lives. There are many different approaches to finding a purpose in life. During this seminar we will be exploring the ways in which we can begin to understand the varied aspects of what might constitute our own purpose in life (ikigai). In order to do so we must become curious about a world we cannot immediately see, and begin to imagine a world that lies beyond our immediate surroundings. In addition, we must not only be able to imagine and engage in a world we cannot immediately see, but we must understand and discuss not only our own point of view but acknowledge and understand the points of view of others that may be very different from our own. In the process we must recognize and negotiate with the perspectives of others - whether we agree with those perspectives or not - for it is important to connect with others by understanding diverse perspectives and taking those perspectives into consideration. Finding our passion is not just a mode of thinking, but also entails a call to action. By confronting and overcoming our own shame, fears and hesitations we can reach out across borders that differentiate ourselves from others. By reaching out to others we will then be able to communicate our thinking and our ideas to diverse audiences so as to take action to improve the societies in which we find ourselves.



Needless to say, discovering a purpose in life is a project that deserves our unqualified attention. In order to focus our attention on productive engagement and access our passions it will be helpful to have a guide. Of course, your workshops will provide you with a guide – a professional who is actually engaged in realizing global competency through their own passionate work. Nonetheless, this path toward your realization of self through world is a path of engagement that each of you must walk by yourselves. In order to support your individual efforts and to uncover your own sense of life purpose in a global context we will be working with a set of skills that comprise the art of critical thinking. In this keynote workshop you will begin to understand the ways in which critical thinking can provide a guide to find your purpose in life.





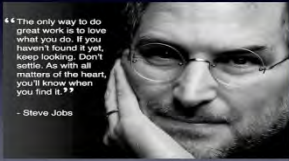
## Key Words

Page 5

- Passion
- Purpose
- Align (verb) : alignment (noun)
- Wholehearted
- Integrity
- Critical Engagement (finding meaning)
- Meaningful Work (ICS Workshops)

“The only way to do great work is to love what you do. If you haven't found it yet, keep looking. Don't settle. As with all matters of the heart, you'll know when you find it.”

- Steve Jobs





### Becoming Wholehearted: Aligning Your Passions

Big Picture = Future Goals

### Wholeheartedness = Integrity

- Practice understanding your passions
- Practice using your intention (intentional effort: being conscious)
- Practice understanding your purpose
- Practice aligning your passions with purpose :  
~ meaningful work ~  
(career)

### Aligning Passions With Purpose Expansion of Self: Wholehearted




### Wholeheartedness = Integrity All of You = All of Us

- Take responsibility for your emotions and your choices
- Align your choices, acts and your energies
- Care about everything that you do
- Make all your efforts intentional (self knowledge)


### University Life Explore · Understand · Learn

- Explore yourself to understand your **passions**
- Create goals (at university) for yourself that **align** with your passions
- Explore your goals to understand your **purpose**
- Make your work your purpose
- Align your **passions** (process of discovery) with your purpose = **career/meaningful work**

### 10 minute Exploration: Wholehearted

Who?  
What?  
When?  
Where?  
Why?  
How?

Page 25: 10 minutes

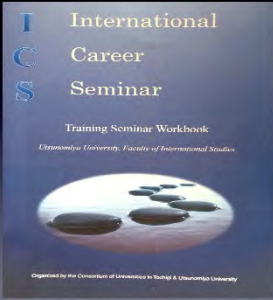


### Critical Engagement: 5 W's / 1 H: Wholehearted

- WHO? Who are the people at work whom you admire? (career role models) None? Find them!
- WHAT? What are you good at? What do you like to do?
- WHEN? When do you feel most alive and energized?
- WHERE? Where do you feel most alive and energized?
- WHY? Why does the world need you?
- HOW? How can you help the world?

### Critical Engagement

- Use your workbook
- Engage with others in your workshops
- Ask critical questions in your workshops of yourself & others
- Trust your tools

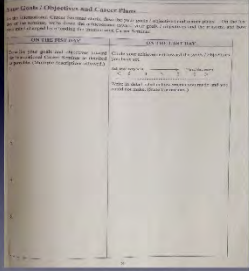


“What are my desires for this seminar?”  
What do I want to get from this seminar?  
Why am I here?  
– write this down!

### Critical Engagement

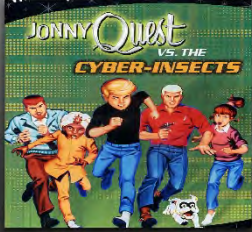
Why are you taking this seminar?  
What are your goals and objectives?

Page 3: 5 minutes: 5 ideas



### Career = Journey Quest = Question

- Journey is a process
- Begins with questions
- Great questions = great adventure
- Questions begin your quest!




### Your Journey


Your Past: Five Years Before

### Critical Engagement

~ Your Past ~  
Five Years Before


Who? What? When? Where?  
Why? How?

Page 26 : 10 minutes




### Your Journey : 5 Years Past

- Who were you ?
- What were you doing?
- When were you most happy?
- Where did you feel your best?
- Why were you working/studying?
- How were you successful?



### Brainstorming = Thinking ICS and Beyond

- Creating questions
- Asking lecturers
- Asking you friends
- Asking yourself
- Using your imagination

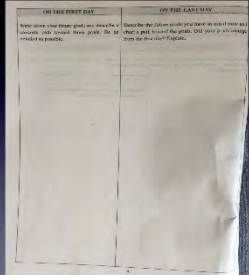


### Critical Engagement

~ Your Future ~  
Five Years in the Future

Who? What? When? Where?  
Why? How?

Page 4 : 10 minutes



### ICS 2021: Your Future Self

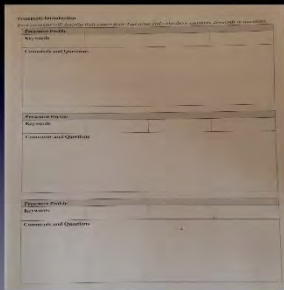
- Who are you 5 years from now? (job title)
- What are you doing 5 years from now? (job description)
- When are you working? (job hours)
- Where are you working? (job location)
- Why are you be working? (job goals)
- How are you working (job training)

### Engage with Presenters

(Panel Discussion)

Active Listening  
Review and Remember  
Keywords/Your Comments & Questions

Pages 6 and 7



### ! explore!

#### thinking/talking/ writing

- Together with lecturers Discussion
- Together with friends Conversation
- Together with yourself Brainstorming
- Enjoying





**Career: Meaningful Work**  
!Explore!  
Passion/Purpose/Job Opportunities/Strength

### A Guide : Critical Engagement In Your Workshops

- Assumptions
- Goals (be clear!) & Gather (information)
- Understand multiple perspectives
- Implications
- Decide the problem/question/issue
- Evidence

### Workshops

A GUIDE

- Understanding multiple points of view
  - Decision making
  - Implications
- Gathering information
  - Evidence
  - Assumptions
  - Goal

"Why are you taking this workshop?"  
(creating questions creates interest)  
"What do you expect from your workshop?"

– write this down- Page 2 (you always have 26 - 30)

### Critical Engagement: Workshops

- Create questions
- Your quest begins!
- 5 W's, 1 H
- A Guide (critical thinking)
- Engage!
- Page 2: 5 minutes (review)

Pages 2-9: Choose Your Own Words

### Engage : Presentations

- Brainstorm with "a guide"
- Zoom Whiteboard
- Teach & Help each other
- Critical Thinking – Critical Engagement
- Imagination
- Making Invisible > Visible
- More on this later!

Preparing Presentations: Pages 11 - 15

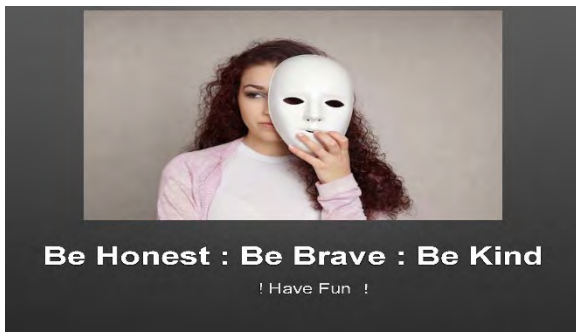
### Critical Engagment: A Guide ICS 2021 Workshops

Decide the problem/question/issue  
Gather information/ Know your Goal  
Understand multiple perspectives  
Assumptions : Think about these!  
Implications : Think about these!  
Evidence : Do you trust your sources? Tell us.

### Engage Yourself

Enjoy!  
Pages 25 - 30





### From the Comments of Students (Comments below are taken directly from students workbooks.)

- Before the seminar, I was thinking that career is equal to job. That was misunderstanding. I learned that career is not just job or work. The important thing is whether it is significant to myself or not. I could be aware of the necessity to be honest to myself. What am I good at? What kind of person am I? What is my strength or weakness? I have to ask myself in order to have a passion and make my career meaningful.
- Having our own dreams and goals is really crucial, but sometimes we need to listen to others' opinion and advice. It may make our choices and lives better for our future.
- In order to enrich our career, we need to have purpose and passion. It will also important to think about career from various perspectives.
- Morrison sensei said that money comes after our career. I think in a little different way. For some people, money is everything. They have to worry about food everyday and they have no choice of their occupation. To be honest, I am experiencing the similar situation, I have to earn money for my family after graduation, though I want to do what I want to do. This is so complicated issue.
- It was an excellent lecture. Morrison sensei instructed us step by step by asking questions about our future career so that we could think about ourselves and our future goals. It was a great opportunity for me to think about myself.
- Before this keynote presentation, I thought career and jobs were the same meaning. But I learned career is not just work or job. I also learned I have to explore myself to find dream and our career.
- I have to take responsibility for my actions. I want to explore myself to understand my passions. "What do I like?" "What kind of work am I good at?" "What kind of person do I want to be?" I want to keep asking these questions to myself so that I will be able to find purpose of my life and future career.

## 4. 分科会・講師及び講義概要

Work Group A	<b>Why Do We Work?</b>
Lecturer	<i>Amin Ghadimi</i> Assistant Professor School of International Studies, Utsunomiya University
Work Group B	<b>Taking Peace Seriously: Towards the Understanding of International Humanitarian Assistance</b>
Lecturer	<i>Hiroshige Fujii</i> Associate Professor School of International Studies, Utsunomiya University
Work Group C	<b>Learning From Yesterday For A Safer Tomorrow; Skills Required in the Age of New Normal</b>
Lecturer	<i>Takeshi Komino</i> General Secretary of CWS Japan CWS Japan
Work Group D	<b>Fair Trade: Can This be the Way to Work Together Equally and Beyond the Relationship of Supporters and Beneficiaries?</b>
Lecturer	<i>Chisato Takahashi</i> PARCIC (PARC Interpeoples' Cooperation)
Work Group E	<b>Pathways to Well-Being: Dreams, Skills and Jobs</b>
Lecturer	<i>Bernadett Kiss</i> Visiting Researcher, Utsunomiya University Lecturer, Lund University, Sweden
Work Group F	<b>Advising Foreign Exporters on the Japanese Market</b>
Lecturer	<i>Ritter N. Diaz, former Ambassador of Panama to Japan</i> President of Charlie Trading & Consulting, S.A. Representative Director of the Japan Association for Promotion of Latin America and the Caribbean (JAPOLAC)

## 分科会 A



### Why Do We Work?

**Amin Ghadimi**

Assistant Professor,  
School of International Studies, Utsunomiya University

#### Profile:

Amin Ghadimi teaches cultural and social theory at Utsunomiya University and studies the global intellectual history of modern Japan. His most recent research project examines perceptions of Ottoman despotism during the Japanese civil war of 1877. Born and raised in Kobe, Ghadimi completed his professional training as an historian in the United States. He has lived in various places across the Asia-Pacific region, including China and the South Pacific country of Vanuatu.

### Information

#### 1. Current Work and Research Topics

Professors do two things, mainly: they teach and they study. Neither of those things is separable from the other. (Professors also do other things, like committee work and chasing down students who miss deadlines and butting heads with the university administration, but they'd prefer to pretend they don't have to do those things.) Anyway, my classes, as some of you might know, approach topics in cultural and social theory from a historical and global perspective. They seek to explore foundational questions in the humanities: What is an individual? What does it mean to be? What does it mean to know?

How are knowing and being conditioned by historical and cultural factors? My research explores these same essential questions, but it contextualizes them in Japan's late nineteenth century. It asks, how did people try to develop a conceptual system of justice amid the rapid globalization of the early Meiji era? It looks at the strife, turmoil, and disorder that this haphazard search for justice wrought in the early Meiji era. I try to interpret specific historical events and developments within this framework. After just completing a project on revolution and civil war in the mid-1870s, I've now turned to the historical and intellectual origins of Japanese terrorism in the 1880s—a story that, it turns out, involves not just Utsunomiya but even our very own university.



#### 2. Career Path

My career has never strayed far from academia, and in a sense, that's been a real privilege. Academia has deep problems, no doubt: it is often stuffy and arcane; it operates through an exclusionary power structure that benefits the privileged and perpetuates inequality; it can inculcate an off-putting, callous hubris in those it rewards. But at its core, there is something thrilling, something essentially good, about the academic enterprise. To be a professor is to profess not just a field of study but a particular belief: that ideas matter; that what is valuable in life is not just what makes money but what gives us deeper meaning and purpose in life; that our entire lives must resolve around the pursuit of knowledge and truth in a collaborative endeavor; that our role not just in our careers but in our lives is to work with others to build capacity for learning and knowing and for acting on that knowledge. This is the path I have striven to walk in my career. I've meandered intellectually, stumbled along the way, and gotten lost, but nonetheless (or therefore?), now as a professor, I hope to walk together with others on this path, a path that accommodates every constructive field of endeavor and learning, one that recognizes that a "career" is not a particular field of knowledge but a dedication to learning in both theory and practice.

#### 3. Main Topics for the Group Work Session

Our purpose in this seminar is to develop a conceptual framework through which to understand and make sense of professional life. Everyone has to work to put food on the table, but surely there must be some more profound meaning



to our careers than just that. Our seminar rejects the foundational assumption that the pursuit of a career is merely about self-fulfillment, “finding yourself” or achieving your dreams, or that it is just about the individual self. And it argues against a basic axiom of our modern economy: that aggressive competition based on maximizing profit fuels social prosperity. It proposes instead that our individual professional lives must contribute to and be embedded in a culture of mutual support and global cooperation, and it encourages participants to think about how they might pursue meaningful lives in which they elaborate this conceptual framework and deploy it in practical experience.

#### 4. Key Words

- Justice
- Fairness
- Work
- Meaning
- Collaboration

#### 5. References

Samuel Moyn, *Not Enough: Human Rights in an Unequal World* (Belknap Press, 2018)

Daniel Markovits, *The Meritocracy Trap: How America’s Foundational Myth Feeds Inequality, Dismantles the Middle Class, and Devours the Elite* (Penguin Press, 2019)

#### 6. Reading

Our seminar will focus on the well-known, often-cited 2012 op-ed by Anne-Marie Slaughter titled "Why Women Still Can't Have It All." The reading is of course relevant equally to men and women. Please read through as much of it as you can beforehand, but don't let it be a burden, and don't worry if you don't understand it fully. We will read through important portions together in the seminar.

<https://www.theatlantic.com/magazine/archive/2012/07/why-women-still-cant-have-it-all/309020/>



### Final Presentation by Participants

**Group A :**  
**Why Do We Work?**

Lecturer: Amin Ghadimi

Students: Daigo Akiyama, Misaki Kawata, Mio Kudo, Hina Sakai, Miku Sato, Kanako Tokino, Hideyoshi Muraoka, Moemi Yoshioka, Dayang Fairuz

**Table of contents**

1. Argument
2. Example of problem
3. Opinion

**Introduction**

**Title of the article :** Why Women Still Can't Have It All  
**Name of author :** Anne Marie Slaughter  
**Her job :** Director of policy planning of the state department  
Work in Princeton university

**Argument**

**Women can't have it all**

Most women want to both work and raise children

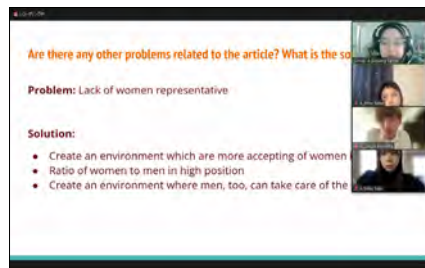
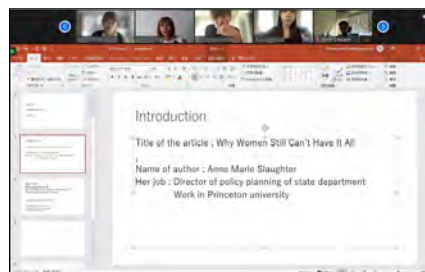
Why they can't?  
Many problems in society  
×faults of women

<p><b>Argument</b></p> <p><b>The problems author facing</b></p> <p>She quit her job because of her child-raising.</p> <p>Condescending attitudes toward her.</p> <p>Time macho culture</p>	<p><b>Example of arguments (problem and solution) by the author in the article</b></p>
<p><b>Problem: The culture of "time macho"</b></p> <p>•What is "time macho"?</p> <p>relentless competition { work harder stay later pull more all-nighters</p> <p>•Why is "time macho" bad for women? don't have time to take care of their children can't do well in both of the activities (work and home)</p>	<p><b>Problem&amp;Solution</b></p> <p><b>"Default rules" in the office</b></p> <p>•Longtime working can't avoid. →You can do it at home!</p> <p>• Studying late is less efficient over the course of the day. →Set deadline ex)Studying for exam or End term report.</p>
<p>• Mixed with "Face to face work" and "Online work" ex) Utsunomiya University</p>	<p><b>Opinion</b></p> <p><b>author's argument : Women can't have it all</b></p> <p><u>Do we agree with the author or not?</u></p> <p>group members「Yes, women cannot have it all.」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•The society</li> <li>•People around her</li> <li>•General idea</li> <li>•Infant education</li> </ul>
<p><b>Opinion 2: What is career, and the relation with the article</b></p> <p>meanings life enrich our life vitality a job/work you enjoy doing build up with what I want to do.</p> <p>Relation with the article is I want to be able to make decision without being judged by society.</p>	<p><b>Are there any other problems related to the article? What is the solution?</b></p> <p><b>Problem:</b> Discrimination to working women ex.salary, promotion, treatment</p> <p><b>Solution:</b> punishment, change the system of childcare leave, education, working style</p> <p>•Men also have a right to raise their children. →We should make the society to make men take care their children easier.</p>
<p><b>Are there any other problems related to the article? What is the solution?</b></p> <p><b>Problem:</b> Lack of women representative</p> <p><b>Solution:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Create an environment which are more accepting of women leaders</li> <li>• Ratio of women to men in high position</li> <li>• Create an environment where men, too, can take care of the kids</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>The end.</b></p> <p style="text-align: center;">— Thank you for listening. —</p>

 **Student Comments** (Comments below are taken directly from students workbooks.)

- I could consider the significance of working. Especially, in the group session, I was able to understand that it is not easy for women to work freely by reading the article.

- I learned two things. First, I could find the importance of cooperation with the other people. In the workshop, I discussed and made our presentation with my group members. Second, I was stimulated by their English skills. This made me try to study English harder than before.
- I learned how difficult it was to complete the presentation and get used to speaking English. Thanks to the members, the content of the presentation became much clearer. Sometimes we extended the time, but I had a wonderful experience with cooperating. Moreover, I was motivated to learn English by seeing the active seniors who freely used English to express their opinions. These were the best experiences.
- During this seminar, I mainly considered how to develop my own future career. The environment in which women can't work as they want is a common problem not only in Japan but also in the world. I'm a woman so I have to consider the problem. In group work, I was able to think about how society should change in terms of "work-life balance."
- To enrich my career, I think it is the best to analyze myself first. As mentioned in the seminar, knowing myself will help me develop a career that suits me, and I will be able to avoid making mistakes as I build up various careers. I want to raise awareness of what I can. Also, I think it would be a good idea to ask my friends and my family about me.
- I learned that aiming at the same goal is the best way to achieve the goal fast. And cooperation is very important to make a better presentation.
- To develop my career, I want to pursue what I am interested in and think about what I need to do for the future





## 分科会 B



# Taking Peace Seriously: Towards the Understanding of International Humanitarian Assistance

**Hiroshige Fujii**

Associate Professor,  
School of International Studies, Utsunomiya University

### Profile:

Hiroshige Fujii is an Associate Professor where he specializes in International Humanitarian Law and Peacebuilding in Africa. He has professional experiences in the Philippines, Ghana, the Netherlands, and South Africa, as well as he had been engaged in UN Peacekeeping Operations in South Sudan as a Program Advisor in Japan's Cabinet Office. In addition, the Japanese Government dispatched Fujii to Mali Peacebuilding Center as an expert of International Criminal Justice in July 2015. He received Refugee Studies Research Promotion Award in 2021 (第9回若手難民研究者奨励賞) .

■ For more information, please refer to the following websites;

- Fujii's website: <https://www.fujiih.com/>
- University of Cape Town Press Release:  
[http://www.publiclaw.uct.ac.za/news/visiting\\_fellow\\_united\\_nations\\_university](http://www.publiclaw.uct.ac.za/news/visiting_fellow_united_nations_university)
- Ministry of Foreign Affairs of Japan Press Release: [https://www.mofa.go.jp/af/af1/ml/page3e\\_000352.html](https://www.mofa.go.jp/af/af1/ml/page3e_000352.html)

## Information

### 1. Current Work and Research Topics

As Associate Professor at Utsunomiya University, I give lectures and seminars on International Law and International Human Rights Law, aiming to provide students with opportunities to deepen their understanding of post-conflict situations and peacebuilding in terms of international interventions UN Peacekeeping Operations and International Criminal Court. For example, a military commander of United Nations Peacekeeping Operations described that “it is now more dangerous to be a woman than to be a soldier in modern conflict”. This understanding clearly shows that vulnerable people are the primary targets for violence under conflicts. Moreover, we know from past atrocities that violent actions often escalate without international interventions. I am pursuing my academic career by analyzing questions as to how we can prevent such atrocities and how international communities can assist state-building in deeply divided societies. If you are interested in this academic area, I recommend referring to my academic publications: <https://researchmap.jp/fujiih/>.



### 2. Career Path

Having acquired Master's degrees in International Law and Peace Studies in the Netherlands and Japan, I have been strongly motivated to contribute to peace-building in the post and ongoing conflict states. As Program Advisor in the Government of Japan, I had engaged in collecting and analyzing political developments in South Sudan and conflict-ridden states. In December 2014, I was dispatched to New York to discuss issues of transitional justice and Juba, South Sudan, to examine the characteristics and functions of its governance, the implementation of the Rule of Law and the progress of the investigation and verification as to Human Rights violations which allegedly occurred in

December 2013. My previous experiences in Ghana and the Philippines, where I participated in peace-building work, served well to complete my tasks in South Sudan in terms of effective data collection and structural analysis. This research has presented the results and analysis at an international symposium and studies associations to scholars and peace-building experts. Currently, I focus on my research work on how international communities can contribute to achieving “peace,” especially in light of the academic approach, by mobilizing my previous professional experiences.

### 3. Main Topics for the Workshop

This course aims to deepen understanding of post-conflict situations through the analysis of UN peace operations. Upon completion of this course, the participants will clarify the five types of peace operations. Understanding the similarities and differences among peace operations will help you explore your career options and think about how you could commit to promoting peaceful societies in the world. This section will help you advance your career development in the field of peace activities.

### 4. Key Words

- Conflict prevention
- Peacemaking
- Peace enforcement
- Peacekeeping
- Peacebuilding

### 5. References

\* For those who have little knowledge of the UN Peace Operations and Humanitarian Assistance, the below website will be helpful for a better understanding of the session. The presenter writes several articles.

- ① [http://www.pko.go.jp/pko\\_j/organization/researcher/atpkonow/index.html](http://www.pko.go.jp/pko_j/organization/researcher/atpkonow/index.html)
- ② ICRC (2015) International Humanitarian Law: Answers to your Questions. <https://www.icrc.org/en/publication/0703-international-humanitarian-law-answers-your-questions>
- ③ ICRC (2016) Discover the ICRC . <https://www.icrc.org/en/publication/0790-discover-icrc>

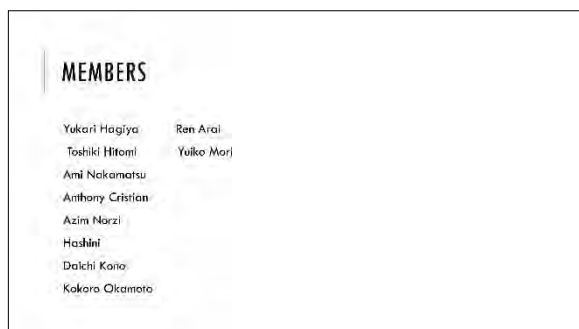
### 6. Required Reading and Assignment

- ・藤井広重「国連平和維持活動（PKO）文民要員の任務に関する一考察 –南スーダンにおける文民の保護サイトの展開と教訓–」 宇都宮大学国際学部研究論集 46 号 2018 年  
([https://uuair.repo.nii.ac.jp/?action=pages\\_view\\_main&active\\_action=repository\\_view\\_main\\_item\\_detail&item\\_id=11786&item\\_no=1&page\\_id=13&block\\_id=58](https://uuair.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=11786&item_no=1&page_id=13&block_id=58)).
- ・藤井広重「南スーダンにおけるハイブリッド刑事法廷設置の試み–外と内の論理からの考察」 アフリカレポート 54 号 2016 年  
([https://ir.ide.go.jp/?action=pages\\_view\\_main&active\\_action=repository\\_view\\_main\\_item\\_detail&item\\_id=47678&item\\_no=1&page\\_id=26&block\\_id=95](https://ir.ide.go.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=47678&item_no=1&page_id=26&block_id=95)).

I would like you to be ready to express your ideas/answers to the below three questions. You will be given 3 minutes to answer each.

- (1) Why did you choose this session?
- (2) Can you describe what peace is? Is it easy/difficult? Why do you think so?
- (3) What do you want to do for the achievement of peace? What kind of jobs would be the best for you to promote peaceful societies?

### Final Presentation by Participants



## CONTENTS

1. Definition of Peace
2. Sustainable Peace Operation
3. Gender Based Violence
4. What can we do for achieving peace



## POSITIVE PEACE VS NEGATIVE PEACE

-

NEGATIVE PEACE

... is the absence of violence or fear of violence.

Example: Conflict between North Korea and South Korea  
The problem is still active.

+

POSITIVE PEACE

... is the attitudes, institutions & structures that create and sustain peaceful societies.




## BUILDING SUSTAINABLE PEACE

### HOW THE UN GOES ABOUT BUILDING PEACE IN CONFLICT AREAS

- Conflict Prevention → No conflict yet. Diplomacy
- Peace Making → Existing conflict. Focus on negotiating agreements
- Peace enforcement → Coercive Measures (military force). Needs the security council authorization.
- Peacekeeping → Preserve an existing peace. Military Techniques of observing a ceasefire
- Peace building → Creating conditions for lasting peace

## PEACE OPERATIONS



Conflict timeline

Before conflict      During conflict      After conflict

- Conflict prevention

- Peace Making
- Peace enforcement

- Peace keeping
- Peace building

## PEACE KEEPING OPERATIONS

Traditional PKO	Multi-dimensional PKO
	
<ul style="list-style-type: none"> <li>• International conflicts</li> <li>• Only military forces take part in peace strategies (Security council)</li> <li>• Observation and monitoring the agreement of the parties</li> <li>• Supervision of cease-fire</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Civil wars</li> <li>• Other society components take part in peace strategies.</li> <li>• Restore the rule of Law</li> <li>• DD: Disarmament, demobilization and Reintegration</li> </ul>

## GENDER BASED VIOLENCE

"It is now more dangerous to be a woman than to be a soldier in modern wars!"  
Peace Counselor Parvati Chatterjee, the Deputy Commissioner of the United Nations mission in the Democratic Republic of Congo, 2006.

• "Between 2006 and 2007, more than 400,000 women were raped in the Democratic Republic of the Congo." (American Journal of Public Health, 2011)

Men can be affected as well!

- Castration of Bosnian-Muslim men during the war between 1992 and 1995.
- 16% of males were sexually abused by the age of 18. (U.S. Centers for Disease Control, 2005)



## GENDER BASED VIOLENCE

- Physical violence
- Psychological violence
- Verbal violence
- Sexual violence

- Psychological and physical damage
- Sexually transmitted diseases, HIV/AIDS
- Unwanted pregnancy
- Community Rejection



## SO, WHAT TO DO?

As a students, we would like to suggest:

Enhance effective communication to prevent conflicts.

Holistic education for children in order to create broader perspective.

## SO, WHAT TO DO?

Peace efforts can be seen through many lenses, and regardless of your interests you can help build a more peaceful society

Knowing that there are many organizations working for peace and knowing in what fields I want to contribute.

Food and Agriculture Organization (FAO)

UNESCO


Academia

NGOs: Save the Children, ICRC

Governmental Institutions: Ministry of Foreign Affairs



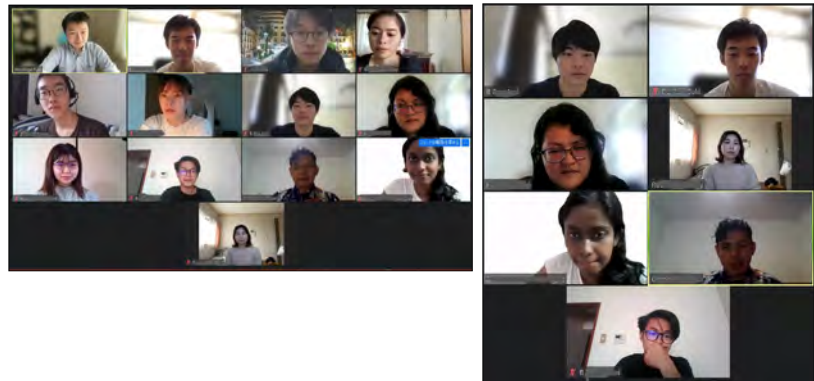
THANKS! GRACIAS! ありがとう!  
ජනනිඞ! OBRIGADO! TERIMA KASIH!

 **Student Comments** (Comments below are taken directly from students workbooks.)

- I learned a lot about peace and the work in the UN, as well as what it means to work towards a more peaceful society. Furthermore, the group work taught me how to accept other's opinions and adjust my own work, as well as how to think about my group mate ideas in a critical manner to improve our presentation.



- I was able to learn what I wanted to learn from the session, such as peace and how to accomplish the peace. I learned that peace is tough to accomplish and to keep. It was great opportunity to think about my future career.
- My future goal did not change because that is relative to the session basically. However, thanks to the session, I was able to know how to be successful and achieve my future goals. It was a really good opportunity for my future career.
- My future goal didn't change. I want to be a diplomatic officer in the future. To be a great officer, I want to gain more knowledge and experiences in humanitarian mission field. I want to study more about International Law and I want to continue studying after graduation, until my master degree.
- I want to study more about International Law and I come to realize that I want to work in any International organization, specifically, I want to work for children in the future.
- I could understand more what peace is because I could know the difference of "Positive Peace" and "Negative Peace." And I could gain more knowledge of UN peace operations and Humanitarian assistance through Prof. Fujii's lecture.
- At the work group session, we could communicate with the members who have various backgrounds and we could learn a lot about peace and world issues. In the future, I want to be a teacher who can teach not only English but also different cultures and International problems. I want to teach what peace is, though the definition of peace seems to be very complicated.
- I learned what peace is during the Career Seminar. But the most important thing for me was having these opportunities to speak and discuss this issue.
- I want to keep studying a lot and join the projects for developing or helping poor people.



## 分科会 C



### Learning From Yesterday For A Safer Tomorrow; Skills Required in the Age of New Normal

**Takeshi Komino**

General Secretary of CWS Japan, CWS Japan

#### Profile:

After my career in working in Afghanistan, Pakistan, Myanmar, Thailand, I started to be involved in NGO activities in Japan from east Japan Earthquake and Tsunami in 2011. I currently serve as General Secretary of CWS Japan, and my responsibilities include: oversight and management of CWS Japan projects in Japan and liaison and oversight for Japan-funded projects elsewhere in Asia; leadership in fundraising and programming for emergency, disaster risk reduction, climate change adaptation programs in Asia; serve as resource person for Asia region in disaster risk reduction, and emergency response in the event of a major, sudden onset natural disasters; and representational role in key networks in Japan and in Asia region.

My current representational roles include:

- Co-Chairperson, Japan Platform (JPF): 2018-current.
- Secretary General, Executive Committee member, leader in innovation hub, Asian Disaster Reduction and Response Network (ADRRN): 2014-current.
- Chairperson, Japan Quality and Accountability Network (JQAN): 2015-current.
- Joint secretariat, Japan CSO Coalition for DRR (JCC-DRR): 2014-current.
- Co-founder and a member, NGO2030: 2017-current
- Co-founder and a member, More Impact: 2016-current.

## Information

### 1. Current Work

Our work involves emergency response for life-saving needs of disaster-hit areas both within and outside of Japan, and spreading the know-how on disaster risk reduction, which I believe it is relevant for everyone in this era. It involves working with many stakeholders, starting from communities across the Asian region, local and international NGOs, local and central governments, private companies, universities and researchers, as well as international organizations. It is sort of like, producer for resilience, and I take great pride in the impact of what we collectively achieve.



### 2. Career Path

I Please see below video for my career path:

- <https://www.japanplatform.org/info/2020/09/292124.html>

2020年10月2日開催 NGO 職員のキャリアぶっちゃけ対談 vol.1 小美野剛 (JPF 代表理事)、渡辺 早希 (WELgee リソース部門統括)

### 3. Main Topics for the Group Work Session

Disaster are ever increasing, and protecting ourselves from disaster risk is becoming a priority, no matter what your professions are. This course explores evolution of disaster risk reduction field, and see critical skills required in ever-disaster prone time of our lives; the New Normal. We will explore learning from the experience and strengths to be derived from each participant's hometown. The flow will be the course will be as follows:

- 1.The course will provide an overview of disaster risk reduction, and why it is relevant/important in the society.
- 2.We will explore specific disasters that happened in the hometown of the participants.
- 3.We will explore how to practically reduce the risks.

#### 4. Key Words

- Disaster risk reduction
- Sendai Framework for DRR
- Resilience



#### 5. References

- 1>Please visit this website (<https://disaportal.gsi.go.jp/>) and identify hazard map of where you live.
- 2.Describe key disaster risks in your area.
- 3.Please visit the website of local authority of where you are from (hometown), and search for the information on past disasters. Please list up at least 3 disasters that happened in the past (including year and damage).

#### 6. Required Assignment

- 1.Please visit this website (<https://disaportal.gsi.go.jp/>) and identify hazard map of where you live.
- 2.Describe key disaster risks in your area.
- 3.Please visit the website of local authority of where you are from (hometown), and search for the information on past disasters. Please list up at least 3 disasters that happened in the past (including year and damage).

### Final Presentation by Participants





### Fake News during Disaster

**It makes us panic!**  
People can't make the right decision



**★ Important Tips**

- Check where came information from
- Utilize newspaper, official website...

### Role of Risk Communications

#### EMERGENCY PREPAREDNESS



**MAKE A PLAN**  
in advance



**BUILD A KIT**



**BE INFORMED**  
always check

### Ways to secure the communication means



- Incident Command Centers (ICCs) and Emergency Operations Center (EOC)
- Social Media and Technology in Disaster Communication
- Culture on Disaster Communication
- Social Capital in Disaster Communication



## Mental Health / Emotional Care

### DIFFICULTIES FACE DURING DISASTER



life support



return home



evacuation

### DIFFICULTIES FACE AFTER DISASTER

**WHAT??**

- happens to victims of incidents or disasters
- can be cure or worse
- anxiety, panic attack

**HOW??**


- be part of community
- seek help for others
- offer helps to others




### Post-disaster communication through media

- PROVIDE A SENSE OF HOPE, SAFETY, CALM, AND CONNECTEDNESS
- CREATE A CALMING ENVIRONMENT.
- SEEK TO BUILD TRUST BY SHOWING YOU CARE AND BY LISTENING.
- USE POSITIVE LANGUAGE, SUCH AS "YOU WILL SURVIVE THIS"; AND AVOID NEGATIVES, SUCH AS "YOU ARE NOT GOING TO DIE"


### INSPIRING SONGS



HANA WA SAKU  
Japan



ME APE DESHAYAI  
Sri Lanka



MENANG BERSAMA  
Malaysia

### During Disaster...






### Importance of Sense of Community

### Why the Community is important?

1. Share Community 
2. Exchange Information Community 
3. Emotional Care Community 

### What is the Role of the Community?

1. Lifeline for Everything 
2. Cooperating Relationship 
3. Mental health care 

### What Can We Do to Strengthen the Community?




### What can We Do from Today as a Student?

Keyword: **Chefs** 

1. Check the hazard map
2. Exchange opinions
3. Find the way to take care of yourself
4. Share the past personal experience

### International Career Seminar 2021

## How Can We Deal with Disasters?

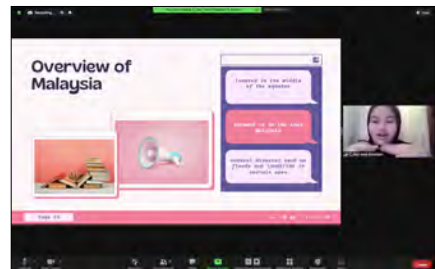
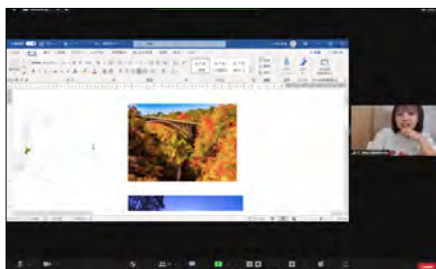
Learning From Yesterday For A Safer Tomorrow: Skills Required in the Age of New Normal

### Thank you for listening today

Group C

### Student Comments (Comments below are taken directly from students workbooks.)

- I learned various key disaster risks in the age of the new normal. In the world today, many unexpected things are happening. I realized that we should collect as much as information and think about the risks.
- I'd like to find a specific academic field while studying at the University. And I realized that it is an essential part of making "positive peace" to build up strong relationship with people around us in our daily life.
- I learned: 1) communication skills, 2) English skills, 3) how to make presentation with friends, 4) how to think about disaster from multiple perspectives.
- I think Japan will continue to suffer from disasters, so I want to take advantage of what I learned in this group. I also want to find and think of better ways and countermeasures to live with disasters.
- English skills are not enough to communicate with people. The important thing is having the passion. Even if people have perfect skills to speak English, they cannot communicate each other without big passion. So, we don't have to hesitate, just enjoy communication!
- I want to learn more deeply and see everything from various perspectives.
- Not be passive, do some actions. This is my action plan to develop my career.
- This seminar helped me to find specific ways to achieve my future goal. I have to study English harder and know the world problems. I need to check world news every day.
- I have been wondering how we can attract and get interested to deal with the problems from people who don't have any concerns and interests. However, thanks to the answer from Mr. Komino, I was able to get a solution.
- This seminar changed my way of thinking about risk management. I could think about how to reduce the risk of a disaster.
- I was impressed by Mr. Komino's words "Without the skills of empathy, you probably don't reach the vision or the ownership".
- I'm interested in international cooperation. But now, I don't have any concrete visions yet. To find them, I have to study harder.





## 分科会 D



### Fair Trade: Can This be the Way to Work Together Equally and Beyond the Relationship of Supporters and Beneficiaries?

Chisato Takahashi, Ph.D

PARCIC (PARC Interpeoples' Cooperation)

#### Profile:

I have about 10 years of experience in international development mainly in community development and Fairtrade. I worked as a project manager of PARCIC, Japanese NGO, for the community development and environmental project which supports organic tea smallholders in Sri Lanka. I lived in the village near the Sinharaja rain forest in Sri Lanka for 5 years, and then I worked from Australia remotely.

#### Information

##### 1. Current Work

I came back to Japan this spring and started managing the projects in Sri Lanka (continuously), Palestine and Japan at the Tokyo office of PARCIC. My main task is managing the fund and coordinating with donors for projects. For the project in Sri Lanka, I oversee the organic tea production in Sri Lanka from the tea field level to export arrange in Sri Lanka. Also, I promote fairtrade in Japan.



##### 2. Career Path

I was interested in how human beings have developed this complicated society. I focused on the features of how human beings can cooperate with others beyond kin relationship expecting indirect reciprocity, and how we build the trust relationship with others. I researched these topics at Hokkaido University. During my PhD, my interest shifted from theoretical and empirical research to working in real societies to apply and expand what I learned in the lab. Thus, after I obtained my PhD in Behaviour Science at Hokkaido University, I moved to Flinders University, Australia. After I completed my Master in International Development at Flinders University, I joined PARCIC and worked in Sri Lanka as a project coordinator/manager. My main project in Sri Lanka started by providing support to tea smallholders to convert their conventional tea farming to organic tea farming. Also, I oversaw the production from fields to the tea factory, and arranged export organic fairtrade tea to the Japanese market.

##### 3. Main Topics for the Group Work Session

In the group work session, I want to explore and come to terms with our understanding of the concept of Fairtrade. Participants require to share their ideas about fairtrade and I will share the basic concept and current discussion around fairtrade with the case study in Sri Lanka. I want to discuss not just in terms of the transaction of goods but as a dynamic means of building relationships between producers, traders and consumers in a global context in this session.

#### Key Words

- Fairtrade
- Sustainable Trade
- Community Development



- Solidarity Economy
- SDGs

#### 4. References

1. Fairtrade International  
 <<https://www.fairtrade.net/about/how-fairtrade-works>>.
2. The International Fair Trade Charter  
 <[https://ce325540-bc7d-484f-b04a-a5cfded0ef09.filesusr.com/ugd/291e20\\_d0760267b37a41328b80e4df127f85cb.pdf](https://ce325540-bc7d-484f-b04a-a5cfded0ef09.filesusr.com/ugd/291e20_d0760267b37a41328b80e4df127f85cb.pdf)>.
3. Morgan, A. (Director) & Ross, M. (Producer). (2015). The True Cost. Available at:  
 <<https://www.youtube.com/watch?v=nxhCpLzreCw>> [Accessed 1 June 2021].
4. Woodman, C. (2012). Unfair Trade: The Shocking Truth Behind 'ethical' Business, Random House Business.



#### 5. Preparation for Participation

Please do research anything about fairtrade you are interested in in your hometown/home country. Participants will share what does Fairtrade mean, how Fairtrade works, and what kind of people/groups commit Fairtrade in your community at the introduction of this work session. For example, if you have fairtrade shops in your hometown, explore their mission, and list up their products dealing at their shops. If your hometown is the producer of fairtrade products, like coffee and tea, how fairtrade impact those producers, communities and trading business.

#### Final Presentation by Participants




**Outline**

1. Introduction
2. What is fair trade?
3. International Trading Game
4. Main idea
5. Fact and figure about fair trade
6. Suggestion about action plan
7. Conclusion

**1. Introduction**


Which chocolate do you want to buy?

A



50g: ¥ 110

B



50g: ¥ 360

**2. What is Fair Trade ?**

**10 PRINCIPLES OF FAIR TRADE**



This is the mark used by Fair Trade Japan.

1. Opportunities for Disadvantaged Producers	2. Transparency & Accountability	3. Fair Trade Practices	4. Fair Payment	5. No Child Labour or Forced Labour
6. Environmental Care	7. Consumer Education	8. Capacity Building	9. Promote Fair Trade	10. Supportive Government Policies

<https://wfto.com/tour-fair-trade-system#10-principles-of-fair-trade>

**3. The Trading Game** — Make much money by manufacturing and selling goods

- The Winner
  - The group which has the most amount of money
- How to play this game
  - ① Divide people into some groups (Country X, Y, Z)
  - ② Each group are given some items
  - ③ Discuss in your group and negotiate with other groups to get items

Goods

**The Trading Game II**

Country X      Country Y      Country Z

### Intention of the game

Awareness of the game indicates that the **inequality** of trading and the structure can **apply to the real world**

- Randomly groups**
  - Cannot choose the country we live
- Countries gap between material, tool and money**
  - Each country has different situation
  - EX)Some countries might be wealthy and have a lot of tools, but the other countries might have rich material, do not have a lot of money or tools
- Exchange tools between countries**
  - Can exchange tools to make things more efficiently. But all country cannot do good negotiation and buy tools they want to



### 4. Main idea

◎The issue of Trading system

**Not fair for some people**

**WHO?**  
People who is in developing countries

**HOW?**  
Exploitation of labour and environment

◎Role of Fair trade  
Correct pay system

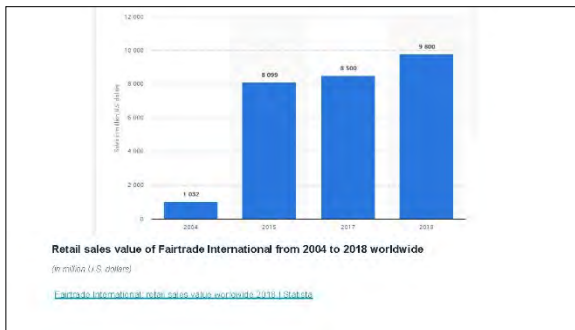
Is Fair trade common and recognized within our lives?

### 5. Facts and figures about fair trade



**1,707** FAIRTRADE CERTIFIED PRODUCER ORGANISATIONS IN 73 COUNTRIES

<https://www.fairtrade.org.uk/about-fairtrade/fairtrade-conditions>



### 6. Suggestion about action plan

🔑 Getting more people to know about fair trade!!

What can we do?

**Know** about Fair Trade and **Spread** "Fair Trade".

- Using SNS
- Education in school

### 7. Conclusion

**Let's tell people around you the true meaning of Fair Trade!**



Do you know Fair Trade?  
No. Please tell me!  
I'll tell my family later.

### Final Re Question!!

Which chocolate do you want to buy?

A  50g: ¥ 110

B  50g: ¥ 350

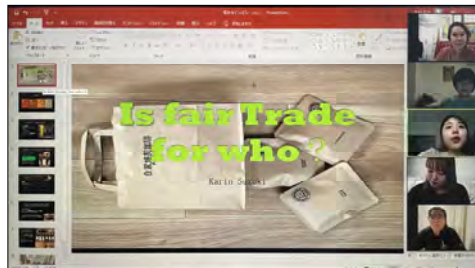
### References

- Fairtrade International: retail sales value worldwide 2018 | Statista
- <https://www.christianaid.org.uk/get-involved/schools/trading-game>
- <https://www.fairtrade-jp.org/>

## 🌐 Student Comments (Comments below are taken directly from students workbooks.)

- In this seminar, I learned a lot of ideas that I've never thought before, such as the connection of fair trade and healthcare.
- I thought that it was important to share questions.
- I could think about the true meaning of fair trade.
- Through ICS, I learned that any choice can be the right answer. We can choose what we do, what we want. No one can force us to do anything. We need to make a career model. Moreover, we have to review the way of life in the past.
- I found that there are many fields which I can apply for my career. So, I would like to deepen the knowledge of any field that I am interested in and decide what I actually want to do.
- At the seminar, we had authentic and spontaneous opportunity to speak English as many foreign participants attended. That was really good to me. In my group, I studied about fair trade and many problems which happen in the world. This experience will be very useful to develop my future career. After the seminar, I would like to continue to think more about these problems.

- One of the things that I learned during this seminar is that it's not enough to have my own idea. I should have told them to my group members. Not sharing our own ideas is the same as having no ideas. I will keep trying not to be afraid of making mistakes.
- I'm going to seek my interests. When I find something, my career goals will be more clear to me. I also learned it was important to remember my past.
- I mostly don't understand about the issues this world is having. But most of them are important problems, I mustn't ignore them. Awareness is the most important process to deal with any issues.
- I learned how important communication is. Communication play big role: to produce new ideas, to promote understanding, and to make me aware of mistakes.
- Participation in this seminar was good experience to interact with many people who have their own background. My interaction with other grades especially upper-class students gave me lots of stimulus, so I appreciate this opportunity.





## 分科会 E



### Pathways to Well-Being: Dreams, Skills and Jobs

**Bernadett Kiss**

Visiting Researcher, Utsunomiya University  
Lecturer, Lund University, Sweden

#### Profile:

My career has followed a winding trail across a variety of landscapes, countries, disciplines and professions. While the destination has not always been clear, certain interests and values have carved my path and given me plenty of life experience. In the past 20 years, I have worked in different multicultural environments with a variety of actors in the field of communication, human resources and environmental project management. Today I am an environmental researcher, and, who knows what tomorrow brings.

Finding your 'path' in life is not always straightforward, sometimes you might require support along the way. In this session, we will explore personal strengths, reflect on individual preferences and see how these can offer us sustainable lifestyles in our future careers.

#### Information

##### 1. Current Work and Research Topics

Currently, I am on sabbatical from my position as a lecturer in environmental management and policy at the International Institute for Industrial Environmental Economics at Lund University (Sweden). I came to Japan to do full-time research on the theme of urban nature-based solutions at the School of International Studies at Utsunomiya University. As a researcher, I am interested in sustainable urban development, and more specifically how we can sustain a healthy and happy planet through having more and better-quality nature in cities. Green roofs, street trees, parks, rain gardens and city lagoons help to mitigate and adapt to climate change, enhance biodiversity and improve environmental quality, while contributing to our economic and social well-being. In the face of increasing environmental, economic and social pressures, cities in collaboration with a variety of urban actors, businesses, academia, NGOs and citizens are important players in transitioning toward urban sustainability.



Green roofs, street trees, parks, rain gardens and city lagoons help to mitigate and adapt to climate change, enhance biodiversity and improve environmental quality, while contributing to our economic and social well-being. In the face of increasing environmental, economic and social pressures, cities in collaboration with a variety of urban actors, businesses, academia, NGOs and citizens are important players in transitioning toward urban sustainability.

##### 2. Career Path

I have a strong interest in environmental and social issues and the forces inducing different types of changes in these fields. What helped me to develop this interest has been my life experience – and my adaptive and reflective nature throughout. My teenage years' curiosity yielded two very different degrees: Master of Arts in Scandinavian studies and Bachelor of Science in business management. My longing for independence in my early 20s introduced me to different jobs in the business sector. I have worked for both local and international private companies in Hungary, as an office-, communication- and human resource-manager. Later, as a human resource manager of the European Parliament in Brussels (Belgium), I was part of facilitating the accession process and the acclimatization of hundreds of new employees into the life of the European institutions. In my late 20s, I started to be interested in environmental issues, but I could not find a job without an environmental degree. Did I want to go back to school? Not really, but my growing environmental sensitivity, determination, persistence and drive for a better world guided me back to a new field of studies and to a new country. By the age of 29, there I was, with another Masters degree, this time in environmental management and policy from Lund University (Sweden). Who said that education is not important?

Education is important, but it is not everything. Identifying your preferences, knowing and using your skills, being attentive to your environment and open to opportunities are equally important. In my professional life, I consciously created opportunities to study and work with my interest, i.e. processes of change. The strong will to deepen this interest brought me an interdisciplinary doctoral degree in environmental engineering and social sciences at the International Institute for Industrial Environmental Economics (Lund, Sweden) and plenty of international experience both in my professional and private life. As a project manager, by organizing different events and facilitating stakeholder dialogues, I work for a stronger collaboration and commitment towards sustainable urban and regional development. As a researcher, I analyze different aspects of sustainable urban development, including technology- and nature-based innovations, governance dynamics and learning processes. As a lecturer, besides sustainable cities, I have been engaged with students in developing their writing skills, research methodology and thesis works. I am doing all these with a deep engagement in both the preset goals and the people involved.

### 3. Main Topics for the Group Work Session

In this session, we will together explore our 'nature' through discussing our dreams, identifying skills we have and we need to attain to get closer to our dreams and investigating personal traits and preferences to see what career perspectives all these can offer. This workshop will be based on established career-coaching practices, including skill mapping, competence profile development and road planning. Participants will have the opportunity to get to know themselves better through these practices, which will be complemented with guided brainstorming, focused group discussions, individual presentations, and peer feedback sessions. "You will only get out what you put in" – my hope is that these hours spent working on yourself will bring you closer to your 'true nature' and thus provide you with a better understanding of what you can offer to society, what society can offer to you and how it all relates to sustainability.

### 4. Key Words

What are the key ideals and dreams that guide your life?

What are you deeply afraid of?

What does sustainability mean to you?

### 5. Reference Material

Myers-Briggs Type Indicator:

<https://www.myersbriggs.org/my-mbti-personality-type/mbti-basics/>

Character strength survey: <https://www.viacharacter.org/>

Csikszentmihalyi, M. (2002) Flow. The classic work on how to achieve happiness. London: Rider.

### 6. Reding Assignment

As a preparation for the session, I would like you

- to do a Myers-Briggs personality test:

<https://www.16personalities.com/free-personality-test>

- to do a character strength test: <https://www.viacharacter.org/>

- to read Chapter: Happiness revisited (pages 1-22) of Csikszentmihalyi (2002)

- to read Chapter: Work as Flow (pages 143-163) of Csikszentmihalyi (2002)

- to watch a short explanation on flow: <https://www.youtube.com/watch?v=8h6IMYRoCZw>

- to watch Nic Mark's talk on the happy planet index:

[https://www.ted.com/talks/nic\\_marks\\_the\\_happy\\_planet\\_index#t-993961](https://www.ted.com/talks/nic_marks_the_happy_planet_index#t-993961)

- to watch Dan Gilbert's talk on happiness:

[https://www.ted.com/talks/dan\\_gilbert\\_the\\_surprising\\_science\\_of\\_happiness](https://www.ted.com/talks/dan_gilbert_the_surprising_science_of_happiness)

- to watch Carol Dweck's talk on the power of believing that you can improve:

[https://www.ted.com/talks/carol\\_dweck\\_the\\_power\\_of\\_believing\\_that\\_you\\_can\\_improve](https://www.ted.com/talks/carol_dweck_the_power_of_believing_that_you_can_improve)

- to engage with the working material and assignments.

 Final Presentation by Participants

# Achieving Well-Being Through Our Careers

Group E: Pathway to Well-being; Dreams, Skills, and Jobs

Hasegawa, Jun, Kazumi, Kavitha, Khoi, Linda, Lucy, Mukmin, Rumi, Takamori, Thisumi

Lecturer: Bernadett Kiss, Ph.D.

## What is Well-Being ?

Well-being = Positive emotion + other elements

- 1) The pleasant life (Happy life)
- 2) Engaged life (the flow state)
- 3) Meaningful life (meaningful purposes)


(The Well-being theory, Martin Seligman Ph.D)

## What is Career ?

The job or series of jobs that you do during *your working life*, especially if you continue to get better jobs and earn more money.

(Cambridge Dictionary)

In this context, career refers to variable *different pathways*: Safe, dream, rational, familiar, etc.



So... How do we achieve well-being through our careers?

## [Main Ideas]

1. Getting to Know Yourself: Why & How
2. Identifying Barriers that we may Face
3. Benefits of "Flow"

## 1. Importance of Getting to Know Ourselves

### Why is it important to get to know ourselves?

- Service & Sacrifice
- ★ The meaningful life... services – sacrifice?
- To develop career ideas and explore next steps.
- My self reflection- What we are?. Who we are?. What are our strengths?, What are our weaknesses?, What are our opportunities?, What are our threats?
- To clarifying the goal

### How can we get to know ourselves?

- We have answered 13-page of personal questions
- What am I afraid of? / What are my values? / What is important of my life?
- We also did two tests:
- 1. Personality test (Myer-Briggs) (<https://www.16personalities.com/>)
- 2. Character test (by Marim Seligman) (<https://www.viacharacter.org/>)
- My test results: Love / Humor / Leadership / Teamwork / Zest

## 2. Identifying Barriers that we may Face

### Identifying barriers that we may face

Thoughts of our future careers (after graduating from university)

-Dilemmas-

- Which pathway do we need to pursue?
- Which career is more suitable?
- Is the career worth it?
- Self-actualization (well-being)
- Why should I choose this career?
- Hard to choose one for the future job.
- Peer pressure (at school)
- Not having clear mindset.
- What skills and strength are needed?



Identifying barriers that we may face

-Solutions-

- Knowing ourselves (abilities, strengths and skills)
- Practicing (Only knowing is not enough)
- Having a growth mindset

### 3. The Benefits of “Flow”

### What is “Flow” ?

“Flow” is a state in which people are so involved in an activity that nothing else seems to matter.

(Csikszentmihalyi: Flow, 1998)

### How can “Flow” contribute to your well-being?

- “Flow” promotes Greater Intrinsic motivation
- Greater enjoyment and fulfillment.
- Improve performance while developing skills and strengths

(Csikszentmihalyi: Flow, 1998)

### Conclusion

- The Importance of aiming for well-being when building your career
- Working can be fun!
- Try looking out for **your own well-being**

Thank you!

Danke!    ကံတူရိယာ!    Köszönöm!    Tack!  
 Terima Kasih!  
 ありがとう!  
 ขอบคุณ    Cám ơn!!  
 Obrigado!    谢谢!    မင်္ဂလာ    ¡Gracias!

### Student Comments (Comments below are taken directly from students workbooks.)

- I was so satisfied with our work group session because our instructor was so kind and supported us a lot. Besides, our group members were also nice, nobody was selfish and we cared for all members in our group activities.
- I learned that we have to learn how to work with people we like and don't like.
- My action plan is to keep trying new stuff and invest in experience.
- Everyone enjoyed discussing even though we had a few heated arguments.
- I learned that having multiple perspectives towards our future career is important. I also learned from the seminar that the most important keyword is “meaningful work = passion + purpose”. I will use this advice when I think of pathways and achieving flow.
- I think that what I learned during this seminar is about teamwork and how to work in groups, especially considering that all participants came from different backgrounds of cultures. A lot of things need to be considered especially in an online seminar, because we face more difficulties when everything is online. I learned how to respect other opinions and also giving our own opinions without offending other people.
- I learned how to manage my time when doing group works because through this seminar, time is limited for everything and we need to finish the task within the time given, and this is also applied in real life, especially in work life.
- Career itself is a part of a journey of my life, so the most important thing that I need to do now is always try to develop new skills that might be helpful for my future career such as communication skills and IT skills.
- Sometimes it's okay to settle for something that is not your dream job but that give you stability.
- To be honest, before this seminar I preferred to choose a safe pathway because I thought it was too risky for me to pursue for my dream pathway. But through this seminar, especially during group work discussions, my perspective about my future pathway slightly changed. Maybe I can still pursue my dream pathway after I find stability in life because life itself is a journey and it is not too late to pursue our dream, even though we start at 50 years old.

## 分科会 F



### Advising Foreign Exporters on the Japanese Market

**Ritter N. Diaz, former Ambassador of Panama to Japan**

President of Charlie Trading & Consulting, S.A.  
Representative Director of the Japan Association  
for Promotion of Latin America and the Caribbean  
(JAPOLAC)

#### Profile:

After serving almost 20 years at the Embassy of Panama in Japan as an Economic Counsellor, Ritter Diaz became an international business consultant between Japan and Latin America. He also worked for the largest bank of Panama, Banco General and Panasonic Latin America. He received a BA in Political Science from the University of Wisconsin-Eau Claire, a Master Degree in International Political Economy from the Tsukuba University and an Honorary Doctor Degree from Chiba University

For his complete profile please refer to his blog: <http://sunao.co/resume/>

#### Information

##### 1. Current Work and Research Topics

As an International Business Consultant, I work to promote business between Japan and Latin America and the Caribbean (LAC). In this regard, I advise companies on business protocols of Japan and the countries of LAC in areas such as export/import, real estate, financial services, artificial intelligence, among others.

As Representative Director of the Japan Association for Promotion of Latin America and the Caribbean, I am working in the promotion of exchanges between Japanese and LAC universities. I am trying to encourage Japanese students to learn more about LAC region and travel to enrich their international experience. I am also advising universities to develop a cooperative model between academia and business to connect the academic and research process with the productive forces of society in a way that students are prepared and ready to engage the labor market once they finish their university studies.

I am also working to facilitate business relations between small and medium size enterprises from Japan and LAC countries. With cooperation from businesspeople of Japan and Latin America who are bilingual, we are making efforts to advise businessmen of Japan and LAC on how to operate in the market of the other.

I have written a variety of practical-oriented articles on current issues from Covid-19 to Digital Transformation to US Election to Panama's Commitment to the Reduction of Greenhouse Gases. These articles can be found at: [sunao.co](http://sunao.co)



##### 2. Career Path

I began my career distributing paper for printing companies in Panama City. Although it was a simple job, it helped me to develop good communication skills with people from all walks of life. I worked during the day while studying law and political science at night at the University of Panama. In the middle of my university studies, I was awarded a Fulbright Scholarship to finish my degree in Political Science at the University of Wisconsin-Eau Claire, USA. After graduating in the US, I went to work as legal assistant for the largest private bank of Panama, and later as Head of Credit and Collection for Panasonic Latin America. At the bank, I gained a great experience in making and reviewing a variety of contracts, while at Panasonic I developed important operational and managerial skills to engage in

international business. I quit Panasonic to pursue a master's degree in international political economy at the University of Tsukuba, Japan, and before finishing my master course there, I was appointed Commercial Attaché at the Embassy of Panama in Japan. I served for almost 20 years at the Embassy and move up to the ladder to become Ambassador of Panama to Japan. This career path has enabled me to move to a new phase of my life as an International Business Consultant between Japan and the countries of Latin America and the Caribbean.

### 3. Outline of Work Group Session

This work group session will introduce basic information on how to help foreign exporters to introduce their products to Japan. It is designed for those who are interested in working in the international section of a trading company.

It will touch upon Japanese consumer behavior and Japanese import practices. It is based on real-life lectures to chambers of commerce and other business associations in the region of Latin America and the Caribbean (LAC), as it is very important that students learn practical skills to survive in this new challenging time.

It will also provide a brief introduction to the Japan Association for Promotion of Latin America and the Caribbean (JAPOLAC) to expand business exchanges between Japan and the countries of LAC region in six areas of importance for human development.

At the end of the workshop, students should be able to create a format to help foreign exporters to present themselves to potential business partners in Japan.

It will be conducted in a lecture format, and hopefully, in a very interactive and open manner.



### 4. Key Words

FOCUS, DEPTH, PERSEVERANCE.

### 5. List of Reference Material

Talking Points: Topic: Advising on Exports to Japanese Market. This is a mandatory reading for the workshop as this document will help student to follow up my lecture during the workshop.

### 6. Reading Assignment for the Participants

The three articles below are complementary reading for students to provide student information about: 1) Panama as an international business center in Latin America; 2) the importance of cultural norms in international communication; 3) and to learn about the Line 3 of Metro of Panama, which is the largest transport infrastructure project financed by Japanese International Cooperation Agency (JICA) in LAC and will use Japanese monorail technology for the first time in the Latin American region.

“Panama’s development as an international center for trade and culture in Latin America and the Caribbean-Human resources are the key”, Interview to the Ambassador of the Republic of Panama, Mr. Ritter Diaz, *The Mariners’ Digest*, Vol. 41, April 2016.

“My Experience as a Cultural Translator Between Japan and Panama”, Speech delivered to the members of the Federation for Maritime Promotion at the headquarters of Japan Shipowners’ Association on January 29, 2020.

“Line 3 of Metro: A Flagship Project for Panama and Japan”, opinion article published on November 9, 2020, in my blog [sunao.co](http://sunao.co)



 Final Presentation by Participants

# Advising exporters on Japanese Market

GROUP F

NACKO IGARI	TOMOHIRO TATSUMI	MIYU MEKURA
KOKORO IMAI	HARUNA TSUTSUMI	LI HONGDIU
NAOMI KUMAKURA	HARUKI NAKAMURA	D.M.N.H.B.DASSANAYAKE (NIWAN)
	KENITARO HIHARA	

## Purpose

- ▶ Collect good information about company and products
- ▶ Exporting Singapore beer to Japan
- ▶ Offering a new taste

## Contents


- Company information
- Product information
- Weak and Strong Point
- Regulation of Importing
- Conclusion

## Company information

- Heineken Asia Pacific (Part of Heineken)
- **Since 1931** (Heineken and F&N established a joint venture)
- We have 90 years history in Asia Pacific area.
- **Started from Singapore, now we have 26 production facilities in Asia Pacific area.**
- APB is also attributing to society. (APB is giving people who are with disability scholarship.)

## Product information

- Ingredients: Malt, Common Hop
- Alcohol by Volume: 5%
- Style: Pilsner (Lager)
- Taste (heavier than Japanese but lighter than Germany) (match to Japanese dish)
- International Prize: 1st Gold Medal at Brewers' exhibition in London (1954)
- **Gold Quality Award at World Quality Selections, organized by Monde Selection (2011)**
- **Good traceability**



## Strong and Weak Points

<Strong Point>

- Color of package
- Color of beer (gold)
- Name (simple)
- International Prize

<Weak Point>

- high price (due to tariffs or tax) (imported) (¥ 380/330ml ⇄ average ¥ 200/330ml)

↓ NOT Convenience and Grocery store  
Target : Specialized store (imported only), Online Store

## Regulation of Importing

- 1 Tax and Tariff
  - ¥ 220,000/kl (tax)
  - ¥ 108,000/kl (tariff)
- 2 Food Sanitation Law
  - sanitary environment, color formers and preservation
  - Importer's name, address, volume of alcohol, country of origin
- 3 Permission to sell
- 4 Follow display rules
  - Avoid the incorrect of misleading display

## Conclusion

- ▶ The price is high for general market
- ↓
- ▶ Sell the beer to specialized store
- ▶ The company has enough capacity to supply the product to Japanese market

## Reference

<https://www.singaporebrewery.com/special/5035024>

<https://www.kiin.co.jp/alecohol/beer/chinaku/F&N/ecn/np5/>

[https://www.kirinholdings.com/jp/newsroom/relcase/2020/1223\\_01.pdf#\\_q=2.48651822,925413322,1608789914-1139713044,1608789914](https://www.kirinholdings.com/jp/newsroom/relcase/2020/1223_01.pdf#_q=2.48651822,925413322,1608789914-1139713044,1608789914)

[https://www.amazon.co.jp/?pf\\_rd\\_p=5e3e819ae5e3e2581e3e92e58e3e91999&odsp\\_rd=124958623831&hvadid=504539843150&hvdev=c&hvqmt=e&hvtargid=kwd-1392216793801&hydadcr=1313\\_11269950&ip-ad-ap=0&tag=yahyd-22&ref=pd\\_sl\\_4bll064pfo\\_e](https://www.amazon.co.jp/?pf_rd_p=5e3e819ae5e3e2581e3e92e58e3e91999&odsp_rd=124958623831&hvadid=504539843150&hvdev=c&hvqmt=e&hvtargid=kwd-1392216793801&hydadcr=1313_11269950&ip-ad-ap=0&tag=yahyd-22&ref=pd_sl_4bll064pfo_e)

## Exporting Ceylon Cinnamon to Japanese importers

Group F  
Haruna Tsutsumi Li Hongdou  
Naomi Kumakura Nuwan Dassanayake

### Purpose

- Exporting Ceylon Cinnamon
- Expanding the market
- Providing the original richer taste of Ceylon Cinnamon to the Japanese

### Content

- Ceylon Cinnamon
- Company information
- Product information
- Target
- Conclusion



### What is Cinnamon?

- Cinnamon is a spice extracted from the plant cinnamon.
- It has a unique sweetness, aroma, and slight pungency, and is used to flavor food and beverages such as cocktails, tea, and coffee, as well as Western sweets such as apple pie and cinnamon rolls.
- Ceylon cinnamon is native to the "Spice Island" of Sri Lanka.

### Company Information

- Name: Prime Food products private limited
- Founded: 1994
- Location: 23, Braybrook Street, Colombo 02, Sri Lanka.
- Capital: 1billion
- Number of employees: 90
- Phone number: 0094773517748
- The name of CEO: Laxman Bandara

### Product Information

- The Ceylon Cinnamon (*Cinnamomum zelanicum*) referred to as "sweet cinnamon" and "true cinnamon" is considered superior to the variety known as Cassia Cinnamon in the global market.
- Ceylon cinnamon's soft texture is easy to use in something to drink and cooking in Japanese style



### Health Values of Cinnamon



- It is an Antioxidant
- Anti-Inflammatory Properties
- Reduce the Risk of Heart Disease
- Lowers Blood Sugar Levels
- Beneficial Effects on Neurodegenerative Diseases
- May reduce risk of Cancer
- Helps Fight Bacterial and Fungal Infections

### Uses of cinnamon in Japan



### Target

- Sri Lanka is the birthplace of true cinnamon
- Ceylon cinnamon is more expensive compared with the cinnamon from China and Vietnam because of its high quality and uniqueness.
- For sale in specialized stores



### Conclusion

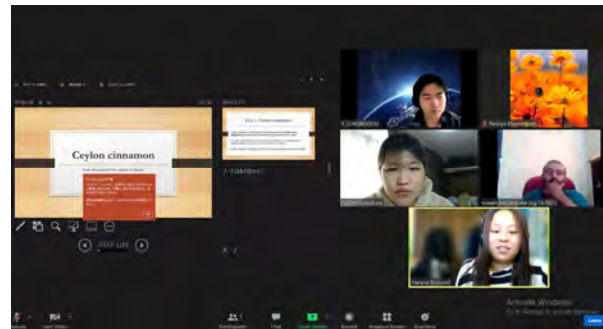
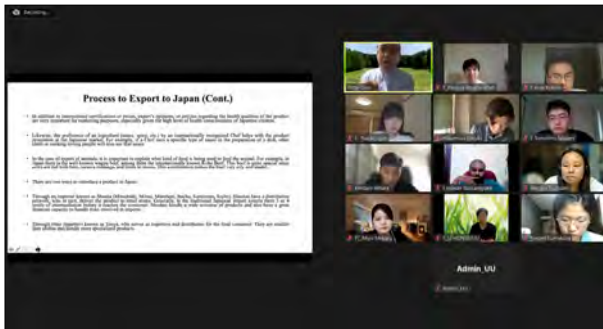
- Ceylon Cinnamon is softer than Cassia Cinnamon so it fits the Japanese style like mixing in tea and coffee
- Cinnamon has a lot of good properties for human health.
- Providing the good production capacity to supply the Japanese market

**Student Comments** (Comments below are taken directly from students workbooks.)

- Mr. Diaz was working so hard for us even out of class time. He gave us tons of advice on how we could progress our presentations. It helps us a lot.
- It is important to know about the company's feature and information to get my dream jobs. I have to search and understand the company's strong point and what I can do if I work in the company.
- Mr. Diaz repeatedly told us, "Don't be afraid to speak English, it is okay to be wrong." I wasn't confident with my

English but I did my best, so I felt that my English skills improved during these three days.

- During the breakout session, I was able to learn about the Japanese market from the perspective of foreign markets and the consumer behavior of Japanese people. Without this lecture, I think I would not have been able to get an objective point of view.
- I learned the importance of gathering information correctly and how to take advantage of difference in opinions especially when we make a presentation together.
- I could understand what exporters should think and what they should do to sell their products.
- I'll keep to try to take part in seminars and classes like this seminar and keep thinking about my future. I know if I stop thinking, my future will result in failure. I also know that the most important thing is taking actions. It is more meaningful than only thinking about it. My future will not change, if I don't take actions.
- I am very grateful to Mr. Diaz for encouraging us. I was so impressed by his final lecture about career. I will research about my interests in order to deepen my thinking about career.
- I could learn the way to analyze ourselves from different perspectives from what we have. I realized how important is to observe ourselves through this seminar.
- I learned: 1) how to exchange opinions with others, 2) about accepting other's opinion even though I think it's wrong, 3) how to work in a group to achieve the same goal together, 4) how to do a good job with the team.





## 5. パネルトーク

### THEME: Career Development in the Age of Globalization



Panel discussion aims to provide an opportunity for the participants who pursue international careers in the future, to discuss the specific problems and the solutions and to present the achievements through the panelists' career paths and experiences. Panelists were asked to present "3 important keywords" related to the theme and explain the reasons why they were important and gave some career advice to the participants.

MC: **Shunsuke Kurihara** Associate Professor, School of International Studies, Utsunomiya University

<p><b>PANELIST: Amin Ghadimi</b> Assistant Professor, School of International Studies, Utsunomiya University</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Justice</li> <li>2. Individualism</li> <li>3. Materialism</li> </ol>
<p><b>What did the participants learn from the panelist? .</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ I think that it is necessary to think again about what purpose my career has and what I want to achieve after his presentation.</li> <li>■ His topics about Edo era was easy to understand and interesting. The people had no choices of their occupation as we know “土農工商.” The words “legacy of failure” impressed me, too. Now we have to learn from history and think what career we pursue and what the meaning of career is in the modern society.</li> <li>■ I learned that we should try to find the answer to the question, “What career is?” in the society where the concepts of mutual collaboration and understanding can be the priority for the development of societies.</li> </ul>	





<p><b>PANELIST: Hiroshige Fujii</b> Associate Professor, School of International Studies, Utsunomiya University</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Humanity</li> <li>2. Impartiality</li> <li>3. Politeness</li> </ol>
<p><b>What did the participants learn from the panelist?</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ I strongly agree that we should express ourselves impartially. From now on I will express myself actively.</li> <li>■ I was impressed by his word “the world is no so bigger than we think. We can get to know each other if we want to. So, politeness is important to make a personal network in society.” I will try to communicate with the people as much as I can for my future career.</li> <li>■ Humanity is the most important thing to interact with people. Without humanity we cannot build good relationships.</li> </ul>	




<p><b>PANELIST: Takeshi Komino</b> General Secretary of CWS Japan, CWS Japan</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Ownership</li> <li>2. Empathy</li> <li>3. Partnership</li> </ol>
<p><b>What did the participants learn from the panelist?</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ I was impressed that we cannot see any visions for the future without a feeling of empathy.</li> <li>■ I was impressed by his word “There is nothing we can do alone.” I noticed that everything in the world cannot be done without cooperation with others.</li> <li>■ I could reconsider the importance of mutual cooperation from his speech.</li> </ul>	



<p><b>PANELIST: Chisato Takahashi</b> PARCIC (PARC Interpeoples' Cooperation)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Globalization</li> <li>2. Localization</li> <li>3. Fairtrade</li> </ol>
<p><b>What did the participants learn from the panelist?</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ In these days, globalization is rapidly progressing. That is a good thing, but I noticed from her speech that we should think about actions against problems in local areas.</li> <li>■ I could reconsider the importance of fair trade from her speech. Her speech made me realize that we were deeply involved in our society by personal level.</li> <li>■ In terms of glocalization, I want to think what action plan we can consider in the field of fair trade by her presentation.</li> </ul>	

<p><b>PANELIST: Bernadett Kiss</b> Visiting Researcher, Utsunomiya University Lecturer, Lund University, Sweden</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Sustainability</li> <li>2. Awareness</li> <li>3. Flexibility</li> </ol>
<p><b>What did the participants learn from the panelist?</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ I realized that daily action and having responsibility for what we do is essential for SDGs. I was impressed by her words</li> <li>■ Sustainability is not a goal, but a process. We should start on a personal level.</li> <li>■ SDGs is an attempt to make the world sustainable and is becoming very popular among the people. But there are many people who don't know the meaning of SDGs and sustainable. We, as a new generation, have to know the world's issues and attempts to build a sustainable world.</li> </ul>	

<p><b>PANELIST: Ritter N. Diaz, former Ambassador of Panama to Japan</b> President of Charlie Trading &amp; Consulting, S.A. Representative Director of the Japan Association for Promotion of Latin America and the Caribbean (JAPOLAC)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. FOCUS</li> <li>2. DEPTH</li> <li>3. PRESEVERANCE</li> </ol>
<p><b>What did the participants learn from the panelist?</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ I felt it is significant to keep trying without giving up no matter what happens. We have to keep focusing on the things deeper.</li> <li>■ We should not see the pandemic only as a bad thing. But we have to think that we should change the society and adapt it to the situations.</li> <li>■ His career is full of variety and he is so active in various fields. I don't have any plans for my future and I cannot imagine my future yet. But I learned that this is not problem because jobs I get in the future is not limited to only one. I would like to analyze myself from now on for my future career.</li> <li>■ From his speech, I understand the pandemic is chance to start new things. I want to try anything I want to.</li> </ul>	

# 1. 参加者名簿

## 国際キャリア教育

	氏名	大学等	学年
1	秋本 隆宏	宇都宮大学国際学部	2年
2	甘利 友希	宇都宮大学国際学部	1年
3	新井 廉	宇都宮大学国際学部	3年
4	安藤 美海	宇都宮大学国際学部	1年
5	安納 稜太	宇都宮大学国際学部	1年
6	猪狩 菜穂子	宇都宮大学国際学部	3年
7	石田 爽悟	宇都宮大学国際学部	1年
8	伊藤 咲希	宇都宮大学国際学部	1年
9	伊藤 諒香	宇都宮大学国際学部	2年
10	猪爪 理名	宇都宮大学国際学部	1年
11	岩渕 杏	宇都宮大学共同教育学部	2年
12	宇野 すみれ	宇都宮大学国際学部	1年
13	遠藤 千智	宇都宮大学国際学部	1年
14	遠藤 未侑	宇都宮大学国際学部	3年
15	遠藤 伶菜	宇都宮大学国際学部	2年
16	大澤 真優	宇都宮大学国際学部	2年
17	大矢 美咲	宇都宮大学国際学部	1年
18	小高 明愛	宇都宮大学国際学部	1年
19	加賀谷 彩心	宇都宮大学国際学部	1年
20	加藤 ひかり	宇都宮大学国際学部	1年
21	上山 音々	宇都宮大学国際学部	2年
22	工藤 優菜	宇都宮大学国際学部	2年
23	熊倉 尚美	宇都宮大学国際学部	3年
24	黒木 飛勇	宇都宮大学国際学部	3年
25	小玉 竜久	宇都宮大学国際学部	1年
26	後藤 奈々	宇都宮大学国際学部	2年
27	小林 直登	宇都宮大学国際学部	1年
28	小堀 奈美	宇都宮大学共同教育学部	2年
29	齋藤 主税	宇都宮大学国際学部	3年
30	佐藤 あい	宇都宮大学国際学部	2年
31	佐藤 愛佳	宇都宮大学国際学部	1年
32	佐藤 育海	宇都宮大学国際学部	1年
33	佐藤 美空	宇都宮大学国際学部	1年
34	鈴木 花梨	宇都宮大学国際学部	3年
35	鈴木 福	宇都宮大学国際学部	2年

	氏名	大学等	学年
36	高瀬 弥依	宇都宮大学国際学部	1年
37	高良 ユカリ	宇都宮大学国際学部	2年
38	竹谷 瑠那	宇都宮大学国際学部	2年
39	田中 愛結実	宇都宮大学国際学部	1年
40	中居 文香	宇都宮大学国際学部	2年
41	長瀬 加菜子	宇都宮大学国際学部	3年
42	西村 実悠	宇都宮大学共同教育学部	1年
43	二瓶 真菜	宇都宮大学国際学部	2年
44	野村 京	宇都宮大学国際学部	2年
45	日原 健太郎	宇都宮大学国際学部	3年
46	平尾 結	宇都宮大学国際学部	1年
47	藤田 雅	宇都宮大学国際学部	2年
48	藤永 愛理	宇都宮大学国際学部	3年
49	舟山 優奈	宇都宮大学国際学部	2年
50	堀 有希	宇都宮大学国際学部	2年
51	本田 ななみ	宇都宮大学国際学部	3年
52	マックティアー花	宇都宮大学国際学部	3年
53	三浦 優希	宇都宮大学国際学部	1年
54	宮城 二千夏	宇都宮大学国際学部	2年
55	山崎 彩貴	宇都宮大学国際学部	2年
56	山本 龍平	宇都宮大学国際学部	2年
57	山家 瞳	宇都宮大学国際学部	1年
58	湯瀬 水晶	宇都宮大学国際学部	1年
59	湯田 大翔	宇都宮大学国際学部	1年
60	米澤 瑞稀	宇都宮大学国際学部	2年
61	杵渕 和花	栃木県立石橋高等学校	2年
62	佐藤 みゆり	栃木県立石橋高等学校	2年
63	山本 紫月	栃木県立石橋高等学校	2年

参加者内訳		合計 63名
宇都宮大学		60名
栃木県立石橋高等学校		3名



## International Career Seminar

	氏名	大学等	学年
1	秋山 大吾	宇都宮大学国際学部	1年
2	アジム ビン ムハマド ノルジ	宇都宮大学国際学部	2年
3	新井 廉	宇都宮大学国際学部	3年
4	猪狩 菜穂子	宇都宮大学国際学部	3年
5	石原 宇法	宇都宮大学国際学部	1年
6	伊藤 諒香	宇都宮大学国際学部	2年
7	今井 心	宇都宮大学国際学部	2年
8	岡本 心	宇都宮大学国際学部	1年
9	小國 夏生	宇都宮大学国際学部	2年
10	小高 明愛	宇都宮大学国際学部	1年
11	Kaneshiro Teixeira Linda Katherine	宇都宮大学国際学部	2年
12	上山 音々	宇都宮大学国際学部	2年
13	川田 実咲	宇都宮大学共同教育学部	2年
14	神崎 由依	宇都宮大学農学部	1年
15	菊地 桃香	宇都宮大学国際学部	2年
16	工藤 美桜	宇都宮大学農学部	3年
17	熊倉 尚美	宇都宮大学国際学部	3年
18	黒木 雅斗	宇都宮大学国際学部	2年
19	香野 大地	宇都宮大学国際学部	1年
20	小林 瑠菜	宇都宮大学共同教育学部	4年
21	齋藤 萌音	宇都宮大学国際学部	2年
22	酒井 ひな	宇都宮大学国際学部	1年
23	佐藤 育海	宇都宮大学国際学部	1年
24	佐藤 美空	宇都宮大学国際学部	1年
25	鈴木 花梨	宇都宮大学国際学部	3年
26	鈴木 美波	宇都宮大学国際学部	1年
27	青野 凌河	宇都宮大学国際学部	2年
28	高田 伊知郎	宇都宮大学国際学部	2年
29	滝田 和己	宇都宮大学 地域創生科学研究科	
30	堤 大愛	宇都宮大学国際学部	1年
31	TENGGU NUR IQRA BINTI TENGGU HAZIZAM	宇都宮大学国際学部	2年
32	ドン グェン コイ	宇都宮大学国際学部	2年
33	仲松 亜美	宇都宮大学国際学部	1年
34	中村 晴季	宇都宮大学国際学部	2年
35	西村 実悠	宇都宮大学共同教育学部	1年

	氏名	大学等	学年
36	Hagiya Corredo Magda Yukari	宇都宮大学国際学部	2年
37	人見 俊輝	宇都宮大学国際学部	1年
38	日原 健太郎	宇都宮大学国際学部	3年
39	平尾 結	宇都宮大学国際学部	1年
40	マックティア 花	宇都宮大学国際学部	3年
41	MUHAMMAD MUKMIN BIN	宇都宮大学農学部	2年
42	村田 瑞咲	宇都宮大学国際学部	1年
43	銘苺 実祐	宇都宮大学国際学部	2年
44	メンデス ハルミ	宇都宮大学国際学部	1年
45	山本 龍平	宇都宮大学国際学部	2年
46	吉岡 萌美	宇都宮大学国際学部	1年
47	黎 虹豆	宇都宮大学国際学部	1年
48	巽 友寛	法政大学工学部	
49	高橋 瑠海	東京都立国際高校	
50	村岡 秀吉	石岡第二高等学校	
51	時野 加奈子	金沢大学人間社会学域国際学類	
52	森井 結衣子	金沢大学人間社会学域国際学類	
53	Dayang Fairuz Binti Awg Baki	サラワク大学(マレーシア)	
54	Nur Aimi Khalidah binti Hamzir	サラワク大学(マレーシア)	
55	Nur Haziqah Binti Mohamad Amir	サラワク大学(マレーシア)	
56	D.M.N.H.B Dassanayake	ペラデニヤ大学(スリランカ)	
57	H.D.H.S Hathurusinghe	ペラデニヤ大学(スリランカ)	
58	K.K.D.M Ranaweera	ペラデニヤ大学(スリランカ)	
59	K.K.N Perera	ペラデニヤ大学(スリランカ)	
60	M.P Gunawardana	ペラデニヤ大学(スリランカ)	
61	P.W.N.T Weerasinghe	ペラデニヤ大学(スリランカ)	
62	R.G.N.D Jayasinghe	ペラデニヤ大学(スリランカ)	
63	Anthony Cristian Medina Paredes	一般	

参加者内訳	合計 63名
宇都宮大学	47名
金沢大学	2名
法政大学	1名
サラワク大学(マレーシア)	3名
ペラデニヤ大学(スリランカ)	7名
高校生	2名
一般	1名

## 2. 参加者全体コメント

### 国際キャリア教育

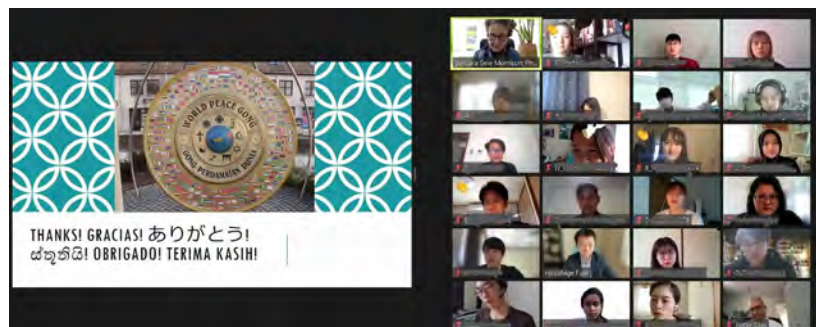
#### 参加の感想（コメントは原文のまま記載しています。）

- 大変勉強になりました。自分のキャリアを見つめ直すとても内容の濃い3日間になりました。
- コロナ禍でもオンラインで実施していただき、本当にありがとうございました。入学前に宇都宮大学のホームページで見た時から楽しみにしておりました。非常に学びのある、重要な機会です。ぜひ今後も続けていただきたいです。
- 学生スタッフの方も親身になってアドバイスをくれたりして、嬉しかったです。機会があれば私も運営する側で参加してみたいと思いました。
- たくさん学べるのがあって、国際キャリア教育を通して自分が今できることや、キャリア形成で何が大切なのかを知ることができ、とても有意義な時間だった。
- 大変な3日間であるが、参加しない理由が見つからない講義ではないだろうか。是非、参加したことの無い学生に参加してほしいと感じた。
- とても有意義な時間を過ごすことができた。今回の学びを自分のキャリアに活かしたい。
- 3日間ととても短い期間でしたがとても濃く充実した時間でした。自分自身のキャリアについてよく考えることのできるとても貴重な機会だと思います。これからもぜひ沢山の学生の方々に受講してもらいたいです。
- 先生がおっしゃっていたように、残念だと思ったことでもやってみたら面白かったという体験をした。キャリアについて考えるのにもジェンダーを考えたりアイヌ文化を考えたりするなどさまざまなアプローチがあり、新しい視点をたくさん得ることができてとてもよかった。
- 自らのキャリアについて、または自分についてよく理解することのできた充実した時間でした。このような機会を設けて頂き大変感謝致します。
- 様々な経験をされた先生方による講義が行われていたため、自分の物事に向ける際の視点がさらに加わったと思う。
- 集中的に取り組めるようなタイムテーブルが良かったです。意見を言いやすく、他の人からも引き出しやすい環境だったと思います。
- キャリアについて、各分科会に分かれ最終的にプレゼンという形で発表することを通して、3日間他の学生たちがキャリアに対してどのような考えを持つようになったのかということが分かりました。また私自身もジェンダーとキャリアという面から多くのことを考える事ができました。
- 分科会に参加することで、自分の意見を述べられるようになった。さらに、今までにないほどの知識を獲得することにつながった。はっきり言えば、大学の授業を半年間かけて1つの授業を取得する以上の成果と充実感を得ることができた。
- 全体会で共通の目標などを確認してから分科会で専門的な理解を深め、最後に発表という形で共有していくという流れはとても良いと思った。
- 知識を得るだけでなく、コミュニケーション力だったり、発表力だったり、さまざまな能力を伸ばすことが出来たセミナーだと思う。3日間本当に充実した時間を過ごせた。
- このような素晴らしい機会を高校生にも与えてくださりありがとうございました。色々な講師の方のお話を聞いて、自分の考えがとても深まりました。高校での研究に生かしていけるように3人で頑張っていきたいと思います。
- セミナーを終えての今後の課題は、自分の専門分野に囚われず自分の興味のあることに積極的にチャレンジしリサーチすることである。進路に焦る気持ちもあるが、投げやりに進路選択するのではなく常にチャレンジ精神をもって行動していきたい。セミナーでの学びを時折りマイインドし、自分にとってより良いキャリア選択ができるようにしたい。

## International Career Seminar

### Participants Comments (Comments below are taken directly from students workbooks.)

- I am a graduate school student and usually, I don't have so many opportunities to speak English. Then in this seminar, the most satisfying thing was the chance to communicate with other peers in English ONLY. That was so fun and also learned a lot of things.
- This is my first experience on an International platform. It was really a wonderful experience. In our work group we had plenty of time to share our ideas. That was a great opportunity.
- I understood that students from different countries and backgrounds have different opinions and ideas about issues by participating in this program. Then, I should improve my communication skills.
- It is a great 3-day seminar full with lessons and memories. I am pleased to join it and share my ideas with other participants.
- It was an excellent opportunity to communicate our ideas on an international platform and engage with participants to develop our skills and attitudes related to international careers. It helped me to build up my confidence to speak and share my opinions, and it was so lovely to meet many enthusiastic souls.
- Thanks, all professors, teachers and students in this seminar. I think I learned more than I expected. Also, it was my pleasure to get a chance to join the seminar to meet all good teachers and students. I think what I learnt in the seminar must help me in the rest of university life and when I get a job in the future. I think the seminar was very successful and it will be good to join this seminar next year. Thank you very much.
- I am proud of myself, as I had put myself into the workgroup so much and accomplished many goals that I set at the beginning of the seminar. I am also very excited to work with friends from different countries and cultures. They all respect each other. The seminar was a good opportunity for me, as I am thinking of joining an international workplace in the future
- After the seminar my future goal is not clear yet. I learned in this seminar that there are many ways of life and many fields in our future. I want to try many things to find my future goals.
- I don't have any career vision. So, I am going to try to find it, for example, what I want to do or what I want to study. If so, my target I think can be gradually more visible. The seminar gave me this insight.
- I don't have any clear future visions for the future yet. But this seminar made me realize the importance of knowing myself for my future career. By knowing myself, I can make the best choice for myself. For this reason, I would like to install an antenna both inside and outside.
- During the seminar, I was able to learn how to make out future career. For instance, firstly, I need to take on a challenge on something we are interested in. Moreover, making effort is also important to achieve our career. In addition, I was able to learn the significance of communication by the group work.
- I was able to get a better idea of how working in a global environment looks like. And I was able to discuss with the variety of people from different backgrounds and get my ideas.
- I could learn the importance of a relationship. For example, my English was poor, but, thanks to the other members of the group, I could enjoy learning at the seminar. In our group session, the relationship was the priority. We had better emphasize it in the next seminar.
- I want to study abroad and learn more about Japan from a foreign perspective before finding my career. I believe that by looking at things from an objective point of view, I will be able to make many discoveries. For this reason, I thought that studying abroad could be one of the options to find my career.
- I learned how I should think and act when I lose my way to build my career.
- In our group, we had participants having different backgrounds from Sri Lanka and Malaysia. That created a great learning environment!





# 国際キャリア実習

## 1. 令和3年度夏期「国際キャリア実習」実施要項

### 1. 趣旨・目的

- ① 趣旨： 本実習は、グローバルマインドを養う「グローバル人材」の育成のために行われる国際学部の「国際キャリア教育プログラム」の一環として行われるものです。「国際キャリア教育プログラム」では「国際ビジネス」、「国際協力・国際貢献」、「多文化共生と日本」、「異文化理解・コミュニケーション」の4つのテーマを掲げていますが、本実習では、特に「国際協力・国際貢献」や「異文化理解・コミュニケーション」の分野で活躍することを目指して、海外のNGOや公的機関でインターンとして実習経験を積み、実務能力を高めます。
- ② 目的： 本実習は、「国際キャリア教育プログラム」の次の3つの目的を達成させるために、現場体験、実習経験を積み、実務能力、企画力とコミュニケーション力を高めます。さらに、自分の関心分野や専門性をより明確にします。
  - 「働くとは何か」について考える。  
(Grasp the image of "working in society with motivation.")
  - 自分と地域社会や世界とのつながりを考える。  
(Provide opportunities to think about your roles in local and global societies.)
  - 主体的に関わりたい問題や分野を見つけ、今後の学びの動機を考える。  
(Find motivation to actively pursue your career.)

### 2. 実施時期・期間、募集人数

- ① 時 期： 令和3年8月～12月
- ② 期 間： 約2～6週間(実習先による)
- ③ 実習時間： 80時間以上(実習先による)
- ④ 実 習 日： 原則、土日を除く実質10日間(1日8時間)。なお、実習先の活動状況により、土日も勤務する場合がある。
- ⑤ 募集人数： 若干名

### 3. 実習先団体

- ① 実習先詳細は、「別紙受入団体一覧」および募集のチラシ内容を参照のこと。
- ② 実習先団体に追加・変更・中止が生じた場合は、国際学部「国際キャリア教育プログラム」のHP (<http://www.kokusai.utsunomiya-u.ac.jp/career-program/activity/index.html>) 等で通知する。
- ③ 実習内容は、場合によっては、変更されることがあるので、事前に実習先に確認すること。
- ④ 実習先団体のやむを得ない事情、または実習先の感染症流行状況等により、急遽実習を中止することがある。

### 4. 応募および参加の条件

- ① 応募の時点で次の全ての条件を満たしていること。
  - 国際学部の2年生から4年生(実施期間に休学中の者は除く)であること。
  - 心身ともに健康である者。
  - 実習先団体が求める語学力を有していること。

- 参加動機および実習目的が明確であること。
  - 本実習への参加について、保護者または家族から事前了解が確実に得られていること。
- ② 実習前までに次の全ての条件を満たしていること。
- 国際学部及び全学で実施するオリエンテーションや事前研修（ビジネス・マナーおよび危機管理）に参加していること。
- ③ 帰国後に次の全ての条件をみたすこと
- 必要書類（報告書や領収書など）を期日までに提出すること。
  - 報告会での発表（プレゼンテーション）

## 5. 参加費

- ① 自己負担の原則  
「国際キャリア実習」への参加および現地での実習にかかる諸経費は、全額自己負担を原則とする。
- ② 諸経費の内訳（例）：
- 交通費
  - 国内事前研修費（交通費・宿泊費など ※受入団体による）
  - 実習先滞在費（宿泊費・食費・交通費など ※受入団体による）
  - 実習参加費（※受入団体による）
  - 実習にかかる諸経費（※受入団体による）
- ③ 留意点
- 受入団体によっては、インターンシップ参加にあたって、参加費の支払いが求められる場合がある。

## 6. 単位認定

- ① 現地での80時間以上の実習を終了し、単位認定に必要な書類（報告書、実習日報等）を全て提出した学生は、担当教員の成績評価に応じて「国際キャリア実習」の2単位が認定される。
- ② 単位認定に必要な実習時間数（80時間以上）を満たすように実習計画を立てること。
- ③ すでに「国際キャリア実習」を履修済みの学生は、再履修となり過去の成績は抹消される。

## 7. 応募方法

以下の応募書類を提出期限までに峰キャンパス事務部国際学部係に提出すること。

- 参加申込書（所定様式による）
- 自己紹介・応募動機書（実習希望先団体に資料として提出する場合がある。）

## 8. 参加者の選考および決定

### ① 選考方法

参加者は、書類審査と面接より選考する。なお、応募者が多数で、審査結果が拮抗する場合は、以下の優先基準を適用する。

- 上級生を優先する。
- 「国際キャリア教育セミナー」および「International Career Seminar」の履修済者を優先する。
- その他のグローバル人材育成プログラム「Learning+1」の履修済者を優先する。

- 過去に「国際キャリア実習」または「国際インターンシップ」に参加したことのある者が再度応募する場合、選考結果が同順位の場合、初めての応募者を優先する。

② 面接および結果の通知について

- 面接実施日：応募書類提出後に随時実施（日時は個別に応募者に連絡）
- 審査の結果は、応募者本人に、期日に電話又は e-mail で連絡する。
- 面接はオンラインで実施する。
- 実習希望先団体との面接が不要な者は、最終審査の面接を免除する。

## 9. その他の注意事項

- 参加決定後の自己都合による実習先の変更は、原則として認めない。
- 参加に必要なネットワーク環境の確保は各自で対応すること。



## 2. 令和3年度夏期受入団体および実習概要一覧

	団体名	所属地 (本部)	実習国・実習地	実習概要
1	<b>合同会社シェトラレーディング</b> (オンライン実習および実地実習) コンゴ民主共和国(DRC) コーヒーの輸入・販売を行う民間企業。	茨城県 取手市	茨城県取手市 および栃木県 宇都宮市	コンゴ民主共和国から輸入のコーヒー豆製品の販路開拓、現地コーヒー農園との連携。

## 3. これまでの受入団体および実習概要一覧

	団体名	所属地 (本部)	実習国・実習地	実習概要
1	<b>JICA スリランカ事務所</b> 事務所 独立行政法人国際協力機構スリランカ事務所 - 総合的な政府開発援助(ODA)の実施機関。	東京都 千代田区	スリランカ コロンボおよび スリランカ国内 事業地	広報を中心とした事務所事務作業補助(場合によっては地方プロジェクト出張同行)
2	<b>NGO サルボダヤ運動本部</b> 農村村民の自立を目指し、有機農業の振興、母子保健衛生、マイクロクレジット等の活動を先駆的展開するアジア地域でも最も成果を挙げているNGO。	スリランカ モラトゥワ	スリランカ モラトゥワ	本部国際部事務作業補助
3	<b>セワランカ</b> スリランカ最大の現地NGOの一つ。宇大国際学部実施しているJICA 草の根技術協力事業「プランテーション農園の小学校への課外活動支援」プロジェクト(UU-TEA Project)の現地パートナー組織。	スリランカ ハットン	スリランカ ハットン	プロジェクト対象学校でのモニタリングと広報補佐及び日本文化紹介
4	<b>特定非営利活動法人 ラオスのこども</b> ラオスの子供達の教育環境の向上を願い、日本および現地ラオスで活動を行っている国際協力NGO(特定非営利活動法人)。	東京都 大田区	ラオス	ラオスのスタッフのアシスタント(セミナー・教材準備、図書室で子どもと遊ぶ)
5	<b>KURATA PEPPER Co. Ltd.</b> 古い歴史があり、ヨーロッパでは最高品質として有名であるカンボジアの胡椒が、内戦により農園は壊滅。その「世界一美味しい胡椒」を復活させようと、産地農家を回り、地元の人々と共に、胡椒農園を広げた胡椒農園経営・胡椒卸販売の民間企業。	カンボジア プノンペン	カンボジア プノンペン	事務作業補助、選別作業、畑研修  ※農業研修は、本人が望めば男性でも女性でもOK。

	団体名	所属地 (本部)	実習国・実習地	実習概要
6	<b>特定非営利活動法人 ピースウィンズ・ジャパン</b> 紛争や災害、貧困などの脅威にさらされている人びとに対して支援活動を行う NGO。	広島県 神石高原町	スリランカ東部州 トリンコマレー県	内戦帰還民地域での復興支援活動補助
7	<b>特定非営利活動法人 かものはしプロジェクト</b> 子どもの人身売買問題の解決に取り組むことから始まった認定 NPO 法人。カンボジアの貧困層の女性を雇用しものづくりを行うコミュニティファクトリーを経営し、現在はライフスキルのトレーニングを主軸ミッションとした活動を行う。	東京 渋谷区	カンボジア シュムリアップ	コミュニティファクトリー（工房）の来客対応、ショップのお手伝い
8	<b>アーシャアジアの農民と歩む会</b> インドの貧しい農村において、農村の基盤となる「農」を通じて、アジアの農民の自立と持続可能な暮らしを実現し、共に生きるための事業を推進する NPO 法人。	栃木県 那須塩原市	インド・ウッタ ルプラデッシュ (UP) 州アラ ハバード市およ び近郊	農村開発事業（有機農業・教育支援・保健衛生など）の見学・作業体験、人材育成事業（ハンディクラフト縫製・食品加工など）の見学・作業体験、有機農業組合活動（朝市での販売・日本米やキノコの販促など）の見学・作業体験、広報、総務の事務補助等
9	<b>パンチャストラ大学の日本語・ビジネス研修センター</b> プノンペンにある私立大学の日本語・ビジネス研修センターで、宇都宮大学大学院国際学研究科博士課程を修了したサ・ソチア博士がセンター長。	カンボジア プノンペン	カンボジア プノンペン	日本語教育、日本・カンボジアの文化交流活動のなどのサポート
10	<b>株式会社パデコ</b> 日本の開発コンサルタント企業として、国際協力機構より業務委託を受け「カンボジア国教員養成大学設立のための基盤構築プロジェクト（第1年次）」（2017年1月～2019年5月）を実施。	東京都 港区	カンボジア プノンペン	小中学校教員養成課程のカリキュラム・教材開発支援プロジェクトの職場体験。調達、広報の手伝い等。
11	<b>公益財団法人国際開発救援財団</b> 発展途上国の子どもたちのために、国際協力、援助事業、緊急援助事業、広報啓発事業を行う公益財団法人。	東京 千代田区	カンボジア プノンペン	小児外科支援、給食支援、農村開発、などのサポートを行う。
12	<b>高野山 宿坊櫻池院</b> 高野山にある宿坊寺院の一つで、1100年代に白河天皇代4皇子覚法親王により作られた。	和歌山県 伊都郡	和歌山県 伊都郡	宿坊での接客、部屋の準備、食事の準備等。
13	<b>島キャン（受入れ先ホテル、奄美島）</b> 離島で職業体験をしながら島おこしインターンを行う。	東京都 新宿区	奄美	離島の地域活性化を目的としたホテルでの研修。

## 4. 実習生からの報告

所属： 宇都宮大学 国際学部 国際学科

4年 佐々木海人

3年 岩崎圭汰 遠藤未侑 日原健太郎 平内真世

2年 青野凌河 伊藤佑奈 黒木雅斗 竹内佳帆 竹谷瑠那 南沙貴

実習先： 合同会社シェトラトレーディング(茨城県取手市)

実習期間： 令和3年8月17日～12月31日

### 実習報告(報告書より抜粋)

#### 活動内容

●毎週ミーティング 担当：平内、竹谷

#### 【8月～10月】

新規開拓班と販路拡大班の二つの班に分かれて、班内でのミーティングと両班を毎週、大貝様を含めた全体でのミーティングを隔週実施していた。この期間は、学校に集まることができなかつたためオンライン上で行った。新規開拓班は、ろまんちっく村の運営についてや、商品のパッケージデザインなどを中心に話し合った。販路拡大班はインスタグラムの投稿方針やろまんちっく村、SDGs オンラインツアーの内容について話し合った。オンラインでのコミュニケーションは難しさもあったが、両班共に議論を深めより良い活動に繋げることが出来た。

#### 【11月～12月】

この期間は対面で集まることができたため、学校内のラーニングcommonsを予約してミーティングを行っていた。

このミーティングでは、商品販売による利益のうち、コンゴの人々のために使用するという3%の使い道やSDGs オンラインツアーの具体的な計画を立てていった。KMCの高梨氏、脇田氏もお迎えし、より実践的な学びにすることが出来た。12月からは最終発表としてSDGs オンラインツアーを行うために、両班合同で準備を進めた。協力して準備を進めることで、普段の授業とは違う緊張感の中課題に取り組むことが出来た。



●ろまんちっく村 担当：伊藤、竹内

#### 【10月16日、17日】

とちぎ SDGs 推進プロジェクト実行委員会主催「道の駅でSDGs マルシェ」に出店し、コーヒー豆とチョコレアの試食、販売を行う。特に新規開拓班ではチラシやポスターを作成し、展示配布をした。それまではオンラインのみの活動だったため、大貝氏だけでなく学生同士も初めて顔をそろえる機会になった。SNSのQRコードを載せることで、若者層に対しても興味をもってもらえるような工夫をし、インスタグラムのフォロワー数を30人増やすことができ、目標販売金額も達成できた。結果、自分たちの知識が十分でないこと、特に売り上げの3%の支援について相手も自分たちも納得ができるような回答をすることができなかつたことに気づかされた機会になった。





## ●マケレレ氏へのインタビュー 担当：日原、黒木

【11月30日】

コンゴ民主共和国のコーヒー農園組合のマケレレ氏に、現地の農園の現状把握や課題発見、また実際どのような支援を必要としているのかなどを知ることを目的にして、インタビューを行った。インタビュー当日、マケレレ氏は私たちのインタビュー活動のためにインターネット環境が悪いコーヒー農園のあるキブ湖に浮かぶイジュイ島からゴマの事務所まで移動してくれた。マケレレ氏は私たちが聴き慣れないアフリカとフランス語訛りの英語で話されていたため、円滑にコミュニケーションをとることが大変だった。農園の主な課題としては、まず前提として、農園を運営していく上での設備投資をするための資金が不足している。次に、コーヒーを洗うための水問題が挙げられる。農園では、コーヒーを選別する前に豆の洗浄を行う。その際に使用する水が汚れていることが問題である。三つ目は **Shade trees** 問題である。コーヒーを栽培する際、強い日光から木を守るために背の高い他の植物の木を利用している。例えば、アボカド、レモン、オレンジ、バナナなどがある。マケレレ氏曰く、**Shade trees** を増植することと、さらにより雨や風などの環境に強い **Shade trees** を導入したいとおっしゃっていた。四つ目は **Potato disease** 問題である。**Potato disease** とは、「**Antestia bugs**」というカメムシの仲間の虫がコーヒーの身から果汁を吸った際、その傷口から細菌が入り繁殖することで、水洗発酵時に生のじゃがいもをかじった時のような独特な臭いがするコーヒーの病気である。

これらの諸問題の話をもとに今後の活動全体の方向性の決定や新たな支援の模索を行った。コーヒーやショコラの売り上げの3%をどう活用するのが良いかなどの提案もこのインタビューを通して考えた。

【反省点】

マケレレ氏の話はオンラインツアーでも主題の農園の課題と3%の支援方法について大切な要素であった。質問への答えを予め予想して質問を考えられたのは、とても良い点であったが、用意はしていたものの返答に対してさらに深掘りして質問をする必要があったため、時間が足りない部分があった。早い段階から定期的に現地の人とミーティングを行い、一度のミーティングで全部を聞こうとするのではなく、さらに時間を費やして繰り返し会話することでオンラインツアーの内容もより充実した物になっただろうと感じた。よりミーティング回数を増やすことができれば、質問を分割して聞く事ができ、“**Shade Tree**”や“**Potato Disease**”などより詳しく理解ができたと感じる。何が課題なのかは確かに聞く事ができたが、具体的にどういった方法での助けを必要としているかまでは聞く事ができなかった。マケレレ氏が何度も同じ事話していたシーンがあり、質問表を共有していたので見やすく次の質問が分かりやすい資料作りを心がける必要があった。限られた時間内でのミーティングで、時間の使い方も反省点の一つである。農園の基本情報を聞くのに時間を多く取り過ぎてしまい、農園の課題に関する質問について時間を取ることを優先するべきであった。

## ●SDGs オンラインツアー 担当：遠藤、青野、南

【SDGs オンラインツアーの趣旨】

SDGs オンラインツアーは、国際キャリア実習の集大成であるイベントとして企画され、販路拡大班と新規開拓班が合同で活動した。これまでの活動報告、シェトラトレーディングが取引を行っているコンゴ民主共和国のコーヒー農園の現状について、またSDGsとの関連性、最後にコーヒー農園に対して売り上げの3%を使って支援する方法を提示した。

【準備にあたって】

第1回SDGs オンラインツアーを実施するまでは約3か月程度の準備期間を要した。当初の計画では10月に第1回SDGs オンラインツアーを宇都宮大学の学生を対象に行い、12月にSDGs オンラインツアーを行う予定だったが、ロマンティック村の販売やSDGs オンラインツアーを内容の濃いものにするため開催は12月末になった。準備にあたって私たちは、週1回のミーティングを行った。ラーニング commons のスタジオで約1時間半行い、ホワイトボードを活用し、また時に栗原教員のお力を借りながら活発な議論を行ってきた。私たちがSDGs オンラインツアーの準備で最も力を入れたのはアクティビティの内容である。SDGs オンラインツアーではコンゴの農園労働者の問題をアウトサイダーからの視点ではなく、実際の現地の農園労働者の視点から考えてもらうことを重視した。具体的には、現地の様子が分かるような写真をインターン先の大貝氏から送っていただくようお願いし、現地の労働者の共済組合のマケレレ氏に学生が直接インタビ

ューを行い、その動画をアクティビティに取り入れた。また準備の段階で、KMCの高梨氏、脇田氏にご参加いただきアドバイスをいただいた。KMCのお二方はSDGsオンラインツアーのようなことを開催した経験があり、経験豊富なアドバイスや行ってみたい反省からアドバイスをいただいたため、SDGsオンラインツアーがより内容の濃いものに仕上がった。SDGsオンラインツアーで使用されたパワーポイントは遠藤さんの指示のもと全員に役割が分担され、校閲を行いながら、修正を繰り返した。SDGsオンラインツアーの準備期間は長かったが全員が一丸となって協力し、様々な方からアドバイスをいただいたことにより質の高い発表原稿を作ることができた。

### 【SDGs オンラインツアーの内容】

内容は主に、企業紹介や活動報告、参加者を対象としたアクティビティ、さらに今後の提案である。

まず企業紹介では、事前にシェトラトレーディングの大貝氏に企業に関するインタビュー動画を撮影させていただき、それを放映した。参加者に私達がどのような企業でどのような活動に携わったかを初めの部分で知ってもらうことで、オンラインツアー全体のイメージを持ってもらえたのではないかなと思う。



次に活動報告では、道の駅ろまんちっく村マルシェでの出店、現地の農園の方へのオンラインインタビュー、定期ミーティングについて発表した。ろまんちっく村マルシェでは、販売を通して感じたことや反省点・改善点などをまとめ、オンラインインタビューにおいて直接質問をすることで分かった農園の現状や新たな問題などを伝えた。私達が毎週行っていた学生ミーティングと二週間に一度の全体ミーティングの内容についても報告を行った。

アクティビティでは、コンゴ民主共和国にちなんだクイズから始まり、現地の農園の状況を動画で確認してもらった後、参加者に実際に生産者・企業・消費者・政府になったつもりでそれぞれの立場で何ができるのかをテーマに考える機会を設けた。参加者の何人かに意見を発表してもらったが、どれも実践的で大変有意義な時間であった。

最後には、商品の売り上げの3%を今後どのように現地において活用していけるかを提案した。農園の方へのインタビューでお聞きした農園の問題を元に、三つの提案を行った。それらはシェードツリー用の苗木の購入、水洗用水の浄化支援、殺虫剤の提供である。シェードツリーは、直射日光によるコーヒー豆の葉焼け防止を目的としており、浄化支援に関しては豆の選別段階の水洗における水の汚染をなくすことが目的である。殺虫剤は、豆の焙煎時にポテト臭が発生する問題を解決するためのもので、その原因となるのがカメムシであることから殺虫剤提供を行う提案を行った。



### ●3%支援の提案 担当：佐々木、岩崎

#### 【シェードツリー支援】

3%支援のひとつとして、シェードツリーの苗木を購入し、実際に植えるという支援を考えた。コーヒー豆の木は直射日光に当たると葉焼けしてしまい、豆の品質が劣化してしまう。シェードツリーはその名の通り、影を作り出すことでコーヒーツリーを直射日光から守り、葉焼けを防止する。よってシェードツリーの苗木の植樹を実施すれば、コーヒー豆の葉焼け防止による収量増加や品質向上が期待できることから、上記を支援方法のひとつとして提案する。さらに植樹やシェードツリーのメンテナンスは新たな雇用創出につながる可能性も高い。

#### 【Potato Disease 対策支援】

Potato Disease の対策も1つの支援方法として挙げられる。コンゴ民主共和国におけるコーヒー産業界ではPotato Disease すなわちポテト臭問題への対策が叫ばれて久しい。ポテト臭は収穫した豆からポテトのような臭いが発生し、その風味を著しく低下させてしまい、スペシャルティ豆の脅威となる。ポテト臭は、

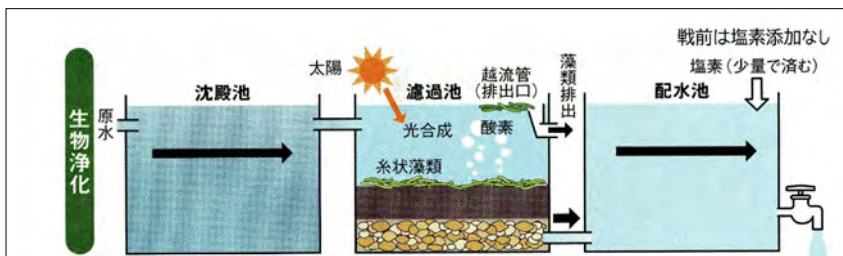
アンテスティアというカメムシのような虫がコーヒーチェリーの汁を吸い、唾液を介して細菌がコーヒーチェリー内部に侵入することから発生する。よってポテト臭対策のために、アンテスティアの駆除及び侵入の対策を実施する必要があると我々は考えた。具体的な方法としては、売り上げの3%を利用して購入した農薬の使用である。農薬の使用によって、環境汚染などを引き起こすといった懸念を抱く人もいないが、農薬の使用による環境への負荷は微生物の減少のみであり、短期間でその状態は元に戻るという研究も存在することから、農薬提供による支援の一つの手段として提唱した。また、他にも虫が嫌がるようなキラキラシートの使用や、蚊帳の利用、激臭の液体を牛乳・酢・タバスコなどから生成し、虫を撃退するなどといった方法も考案した。上記のアンテスティア対策は低コストで実現可能であることから、効率的な支援が期待できる。

【水洗用水の浄化システム】

浄化支援として最初に私たちが考えたのは、浄化施設の建設であり、建設による雇用機会など様々な視点からの支援にもつながるとも考えた。しかし、建設費用が莫大であることや人材が必要となってしまうため、売上還元率の3%で可能な範囲で考える必要性があると感じた。

そこで、水の浄化作用を持つ炭の利用や、ろ過装置の作成を提案した。炭には、「多孔質」と呼ばれる非常に小さな穴が無数に存在しており、そこに有害物質や汚染物質が吸収され、水がきれいになる作用がある。そして、炭は木を燃やすことでできるため、間引きなどで発生した木を用いることが可能であり、持続可能性も秘めているであろう。

また、ろ過装置として私たちは生物浄化法を提案した。この手法は、かつて日本の浄化システムとして用いられていた過去があり、私たちにとって身近な存在ともいえる。生物浄化法では、砂の表層にいる微生物の分解の働きによって浄化することができる。したがって、自然の環境において発生する働きであることから、建設費用がかからず、メンテナンス等も簡単であると考えられる。



reference01-jp.pdf (jica. go. jp) より

さらに、これらの浄化システムは、SDGs のゴール 6 の「安全な水と衛生をすべての人へ」にも貢献することができるであろう。

● SNS を用いての宣伝と反省



Instagram のアカウントを作成し、シェトラトレーディングと私たち大学生のキャリア実習について宣伝を行った。シェトラトレーディングの社長である大貝氏のご子息とつながることが出来ただけではなく、ろまんちっく村にて購入してくださったお客様からメッセージを頂き、オンライン上での DRC コーヒー豆についてやり取りをすることができた。

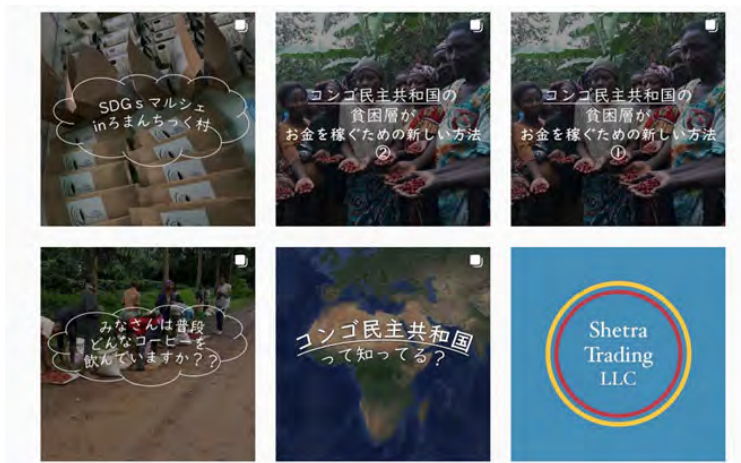


また、投稿するにあたって、投稿規定を作成した。この規定によって Instagram 担当のメンバーにクオリティの維持につながったと感じる。

実習計画段階では、オンライン販売にもつなげようというアイデアや、宇都宮市内にあるコーヒー豆を取り扱っているカフェなどと連携したいと考えていたものの、フォロワーの伸びや宣伝効果などを含め、力が及ばず、計画通りに進めることは出来なかった。

フォロワーの内訳は宇都宮大学の生徒が多く、外部の方を取り込むことができれば、より影響力を持ったアカウントとなり、宣伝効果も十二分に発揮できたのではないだろうか。

【投稿内容】



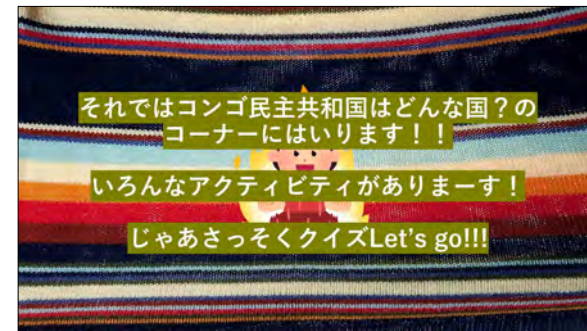
実際の Instagram の投稿

合同会社 シェトラトレーディング (@shetoratrading\_coffee) ・ Instagram 写真と動画

SDGs オンラインツアー(実習報告会)発表資料









Data	
面積	234.5万km <sup>2</sup>
人口	8,679万人(2019)
首都	キンシャサ
GDP	473.2億ドル(2019)
一人当たりGNI	520ドル(2019)
経済成長率	4.4%(2019)
民族	200以上の部族で構成、大部分はバントゥー系
言語	〈公用語〉フランス語 スワヒリ語、リンガラ語、チルバ語、キコンゴ語など
宗教	キリスト教徒(80%)、イスラム教徒(10%)、その他伝統宗教(10%)

### 農園の現状について

#### 農園での主な作業

- ・コーヒーの木の栽培/コーヒーチェリーの収穫
- ・手作業での豆の選別
- ・機械を用いた洗浄/選別
- ・乾燥

#### 品質

6% スペシャルティ  
レギュラー  
インスタント  
コーヒー  
オフグレード

#### 相場

生豆 : 焙煎豆  
1 : 6+

#### マーケット事情

シンガポール +9% (売上)

### 農園の現状について

#### 特徴

- ・女性の労働者が多い
- ・手作業の割合が多い
- ・設備の管理/維持が不十分で持続的でない

### SDGs (Sustainable Development Goals)

17の世界的目標と169の達成基準、232の指標からなる持続可能な開発のための国際的な開発目標

### 日本とDRCをSDGsの観点から比較してみました

### 考えてみよう!

私たちに何ができる!!!???

### 関連性の高いSDGs

- 01 貧困をなくそう
- 05 ジェンダー平等を実現しよう
- 08 働きがいも経済成長も
- 16 平和と公正をすべての人に

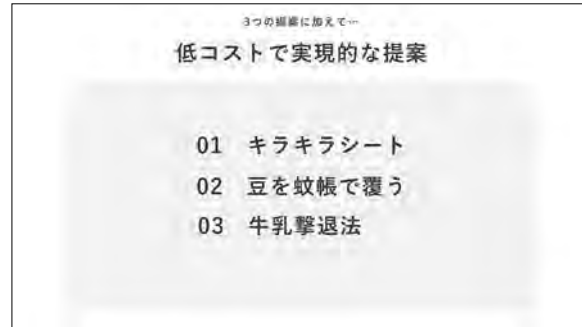
### 考えてみよう!

生産者 消費者  
企業側 政府

### お疲れさまでした







実習生の感想

佐々木海人 国際学科 4年

今回の国際キャリア実習において、目的の異なるアクター同士によるプロジェクト実施の難しさを私は実感した。学生は現地への支援・市民の関心喚起を中心に据える一方、大貝氏は利益をあげることに重点をおいていた。このような各アクターの目的意識の違いは、時に活動上で意識の差として表出した。今後は上記のようなアクター間の齟齬をいかに解消すべきか、という点に問題意識を持って学内外での学修に取り組みたい。

## 岩崎圭汰 国際学科 3年

今年度の国際キャリア実習は、オンラインでの実施であり、通常海外でのインターンシップとは異なる形での実施となった。実習開始前は、現地とのやり取りはどう進めていくのか、どのようにして関係性を構築するのかなど、不安を感じていた。しかし、オンラインでの活動により、KMC様のご協力の元、現地のマケレレ氏へのインタビューであったり、シェトラトレーディングの社長である大貝氏ともコミュニケーションをとることができた。初めてのオンラインによる実習の中で、様々な問題に直面してきたが、一つ一つ解決をしていったことで、最終発表であるSDGs オンラインツアーを迎え、参加者は少なかつたものの成功といえる発表となったと感じる。

実習の反省点として、SNSの運用が実習計画通りに進めることができなかつたことと、ろまんちっく村での活動の中で、より問題意識を持って取り組むことができれば、購入者からの質問に答えることができたのではないだろうか。

## 遠藤未侑 国際学科 3年

国際キャリア実習では、コンゴ民主共和国のコーヒー豆を取り扱うシェトラトレーディングでインターンとして活動した。この活動の中で学んだことの一つは、コンゴ民主共和国の現状と支援の在り方についてだ。今まで触れることがなかつた国に関する知識を取得できたこと、また「フェアトレード」や「支援」という言葉について改めて考え直すことができた。次に、SDGs オンラインツアーを行うにあたってのグループ活動について、役割分担や発表内容の整理など少し難しい部分があり難航していたが、参加者が一丸となってまとめることができた。実習を通してとても充実した学びができた。

## 日原健太郎 国際学科 3年

今回のインターンで学ぶ事は多くあった。販路拡大班として参加し、SNSを通じた宣伝活動は頻度、投稿内容を守ることが出来ず疎かになってしまった部分が反省点である。大量に売る事で認知が広まるのはあると思うが、途中、意識が販売目的になりすぎてしまうなどフェアトレードや本来の目的を見失ってしまう時があったと感じる。しかし、定期ミーティングや栗原先生から助言等のおかげで軌道修正が出来たと思う。また、3%の支援の話は特に難しいと感じた。支援の在り方として、支援する側のエゴにならないよう、また相手のニーズに本当に合っているかなど思ったよりも慎重に進めるべきなのだと感じた。最終的には全員で協力しオンラインツアーを行うことができたが、納得いくツアー参加人数を集められなかつた。この4ヶ月、一緒に活動してきたインターンの学生、先生、KMC様、大貝氏、周りの方のお陰で実際の販売からオンラインツアーまで幅広く貴重な経験をし、充実したインターンとなった。

## 平内真世 国際学科 3年

貴重な経験から自身の力不足を実感したインターンシップだった。私は、SNSのマーケティングについて独学で学んでいたところでこの実習開催の告知を目にし、参加した。参加してみると商品の販売、宣伝、イベント参加、開催までマルチタスクで行われていく内容で、自己管理能力の低さや国際協力・コンゴ民主共和国に対しての知識不足など様々な課題を見つけることができた。この経験から自分事として主体的に動く大切さを学んだ。このインターンシップに参加することで多くの気づきや学びを得られたため、これからの生活や学修に活かしていきたい。

## 黒木雅斗 国際学科 2年

私は全体を通しての反省として、もっと早く行動すべきだったと思う。例えば、イベントなど告知にしても、Instagramによる情報の発信も全てもっと早くから始めていれば活動の内容がもっとより良いものになったと思う。最後のまとめであるSDGs オンラインツアーも、人数が集まるという想定で準備を進めていたが、人数が集まらなかつた場合の案を出していなかつたため、最後に少しバタバタしてしまった。だから、この反省を活かしてこれからはもっと早い行動を心がけていきたいと思う。

反省点も多かったが、全体的に見るとほかのメンバーと協力しあって最後までやり切れたと思う。また、これから自分のキャリアを形成していく上で、前もって行動することや、目的意識をしっかりと持って活動に取り組んでいくことは必ず必要になってくると思うので、常に考えていきたい。



伊藤佑奈 国際学科 2年

今回の活動は私にとって初めてのインターンで戸惑うことが多くあった。特に活動の初めはオンラインでの話し合いが多く、上手く伝えることや理解することができないことも何度かあり、コミュニケーションの大切さを改めて感じることができた。また、インターンを通してコーヒー豆やコンゴのことだけでなく働く人としての心構えや礼儀も学ぶことができた。インターン先や先生方、先輩方など沢山の人の支えられて最終的には良い経験ができた。この経験を今後の活動に生かしていきたいと思う。

竹谷瑠那 国際学科 2年

この国際キャリア実習を通して、ビジネスとして行う国際協力の現状を知ることができたように思う。授業で習うだけでは分からないような実際に働いている人の考えに触れることで、現実的な収益の活用、支援方法を自分たちで考えたことも貴重な経験となった。また、最終的に SDGs オンラインツアーとして自分たちの学びを第三者に発表したことも情報や知識を整理する良い機会となった。

今回学んだことを活かせるように今後の授業や活動に積極的に取り組んでいきたいと思う。

南沙貴 国際学科 2年

インターンシップが始まってすぐの時期は、新規開拓班の一員として学生としてどのような貢献ができるのかという大きな問いを前に悩むことが多くあった。しかし活動が進んでいくにつれ、先輩方や先生をはじめとする周りのサポートにより、徐々にやるべきことが明確になっていき自信が持てるようになった。集大成としてのオンラインツアーは全員で必死に作り上げ、参加者にも良い評価をいただいた。インターン全体を通して、個人的に今まで以上に SDGs に関連する問題に興味を持ち、それについて真剣に考えていきたいと強く感じた。

竹内佳帆 国際学科 2年

今回のインターンシップには、フェアトレードへの実践的な参加を通して、国際協力に対する自分なりの理解を深めたいという想いから、参加を決めた。結果的には、フェアトレードやエシカル商品について以前よりも理解が深まっただけでなく、国際協力の根底としてあるべき「多角的な視野で物事を見つめ、意思疎通し合うことの大切さと難しさ」を何よりも最も経験したインターンシップとなった。活動は時に難航してしまうこともあったが、それも含めて非常に充実した4ヶ月間となった。また、今回のインターンシップでは、様々な方にサポートしていただいた。これまでいただいた貴重なご助言は、私にとって新鮮なものばかりで、お話を聞くたびに自分の視野の狭さや経験の浅さを実感するとともに、新たな知見に触れることは非常に楽しかった。改めて、協力して下さった全ての方に感謝をしたい。

青野凌河 国際学科 2年

今回のインターンでは企画やイベントを自分達で作る活動が多かった。活動に主体性があった反面、苦労する場面が多かった。Instagramの投稿は自分自身どのように運営すればフォロワーが増やせるか、より良い投稿ができたのかをもう少し主体性を持って考えるべきであった。しかし、最終発表はどのようにすればよりフェアトレードやコンゴ民主共和国について知ってもらえるかを考えることができたと思う。KMCの高梨氏が言っていたが、0から1を作り出すことがこのインターンで経験することができたと思う。今後の活動も主体性を大事にして自分で考えて意見を作り出していきたいと思う。

## 令和3年度 国際キャリア教育プログラム 報告書

### 協力者一覧

主催：大学コンソーシアムとちぎ、宇都宮大学  
後援：宇都宮大学国際学部同窓会、(公社)栃木県経済同友会、(公財)栃木県国際交流協会、  
NPO 法人 宇都宮市国際交流協会、いっくら国際文化交流協会、JICA 筑波センター  
協賛：(一財)栃木県青年会館、(公財)あしぎん国際交流財団  
特別協力：宇都宮市創造都市研究センター

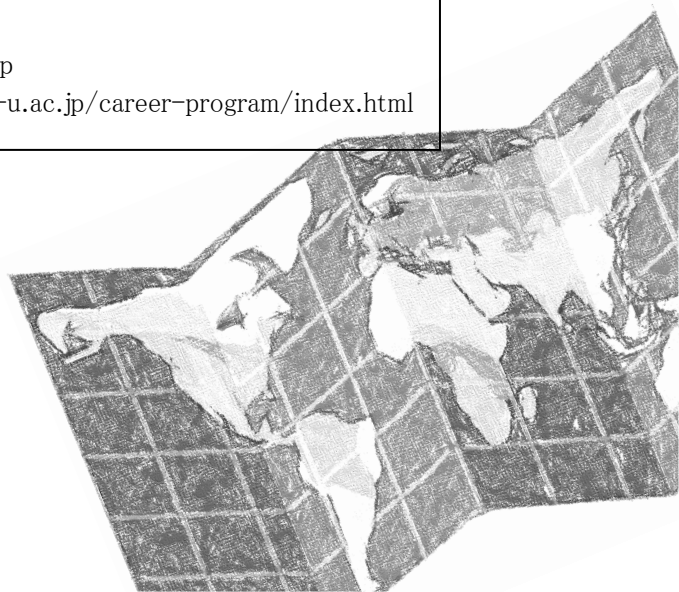
### 執筆・編集担当

宇都宮大学 国際学部 「国際キャリア教育運営委員会」

国際学部長 中村 真  
教授 重田 康博 (委員長)  
教授 吉田 一彦 (副委員長)  
教授 高橋 若菜  
教授 湯本 浩之  
准教授 バーバラ・モリソン  
准教授 スエヨシ・アナ  
准教授 栗原 俊輔  
助教 飯塚 明子  
助教 アミン・ガデミ  
コーディネーター 佐藤 裕香

発行月： 令和4(2022)年3月

発行者： 宇都宮大学 国際学部  
〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町 350  
TEL 028-649-5172  
Email [kokuca@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp](mailto:kokuca@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp)  
Website <http://www.kokusai.utsunomiya-u.ac.jp/career-program/index.html>







宇都宮大学

UTSUNOMIYA UNIVERSITY